
八幡平市 地域公共交通計画

令和6（2024）年3月

八幡平市



八幡平市市民憲章

八幡平市は、岩手山・八幡平・安比高原の裾野に広がる大自然にめぐまれた農（みのり）と輝（ひかり）の大地です

わたくしたちは、心をつなげて、お互いの幸せを願い、ここに市民憲章を定めます

1、 わたくしたちは、自然をはぐくみ、景観にすぐれたまちをつくります

1、 わたくしたちは、心身をきたえ、活力にみちたまちをつくります

1、 わたくしたちは、ふれあいを大切に、人情あふれるまちをつくります

1、 わたくしたちは、共に学び働き、暮らしのゆたかなまちをつくります

1、 わたくしたちは、限りない未来に向け、希望にもえるまちをつくります

八幡平市の「花」「鳥」「木」



花

「リンドウ」

リンドウ科の多年草で、青紫色の鐘形の花を咲かせ、八幡平市は品質・生産量とも日本一を誇る。海外への輸出も拡大し、躍進を続ける市を象徴するのにふさわしい花である。



鳥

「ヤマドリ」

日本固有のキジ科の留鳥で、まだら模様のある茶褐色の羽毛と筋模様の長い尾のある美しい鳥である。市内全域の山林に生息し、市民に馴染みの深い鳥である。



木

「アカマツ」

マツ科の常緑針葉高木で、本県産の代表的樹種である。市内いたるところに生育し、樹齢120年を超えるアカマツ天然林もあり、そのたくましさは伸びゆく市にふさわしい木である。

目 次

1. 計画の概要.....	1
1-1 計画の背景と目的.....	1
1-2 計画の位置づけ.....	1
1-3 計画の区域.....	2
1-4 計画の期間.....	2
2. 地域の現状と特性.....	3
2-1 地勢的特性.....	3
2-2 人口の推移.....	4
2-3 観光資源と観光入込の現状.....	6
3. 地域公共交通ネットワーク構築に向けた取り組みと評価.....	9
3-1 八幡平市地域公共交通網形成計画の概要.....	9
3-2 事業実施状況.....	10
3-3 評価指標による評価.....	12
4. 地域公共交通の現状.....	13
4-1 地域公共交通の概況.....	13
4-2 鉄道の現状.....	18
4-3 路線バスの現状.....	21
4-4 幹線バスの現状.....	26
4-5 コミュニティバスの現状.....	27
4-6 タクシー事業の現状（事業者ヒアリング結果より）.....	34
4-7 観光交通の現状.....	35
4-8 移動に関わる支援.....	37
5. 住民の外出状況とニーズ.....	39
5-1 市民アンケート調査.....	39
5-2 住民ヒアリング調査.....	46
5-3 公共交通に関わる関係者ヒアリング調査.....	48
6. 地域公共交通の課題.....	49
6-1 上位計画・関連計画の整理.....	49
6-2 地域公共交通の課題の整理.....	51
7. 目指す姿と戦略.....	53
7-1 基本方針と基本目標.....	53
7-2 目指す公共交通ネットワークの姿.....	54
7-3 数値指標の設定.....	56
7-4 戦略と事業.....	58
8. 計画の推進.....	65

1. 計画の概要¹

1-1 計画の背景と目的

八幡平市では、市内の公共交通として、JR 花輪線や高速バス、路線バス、コミュニティバス、タクシーが運行し、市民の生活の足を担っているが、人口減少や少子高齢化の進行、自家用車の普及などの影響により、公共交通の利用者数は減少を続け、市民の移動の足としての地域公共交通ネットワークの維持が課題となっている。

市はこれまでに「八幡平市地域公共交通計画（2008 年度）」、「八幡平市地域公共交通実施計画（2009 年度）」、「八幡平市地域公共交通網形成計画（2015 年度）」を策定し、バス路線の再編等により利便性の向上に取り組んできた。しかし、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しており、減便による利便性の低下や担い手不足の問題はますます深刻化している。

一方で、都市基盤の整備や駅周辺の東西都市軸を形成し、賑わいの創出と交流促進によるまちや商業の活性化の実現を目指して大更駅前広場の整備や病院の移転等に取り組んできた。また、観光分野においては、岩手山・八幡平・安比高原などの観光資源を生かした海外に開かれた観光振興が成果を上げつつある。

これらの状況を踏まえ、現在の「八幡平市地域公共交通網形成計画」の計画更新に合わせて、利用者利便性と運行効率性の向上により将来にわたって持続可能な地域公共交通ネットワークの再構築を目指して、「八幡平市地域公共交通計画」を策定する。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、「第2次八幡平市総合計画」を上位計画として、「まちづくり基本目標を支える社会基盤の整備」の実現を目指す。また、関連計画として「第4期八幡平市観光振興計画」「第4期八幡平市地域福祉計画」等との整合や連携を図りながら、本市における地域公共交通の方向性とその具体的な施策を示すものであり、地域公共交通政策を推進するマスタープランとして位置づける。

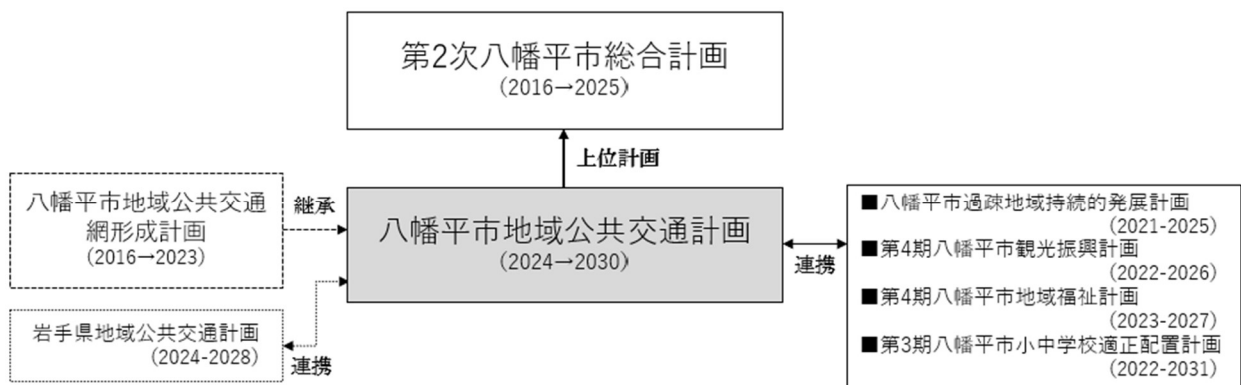


図 1-1 本計画の位置づけ

¹ 本計画では年号については西暦で統一して表記する。

1-3 計画の区域

本計画の対象は、八幡平市全域とする。

1-4 計画の期間

本計画の計画期間は、総合計画との調整を図り、2024年度から2030年度までの7年間とする。なお、社会情勢や住民ニーズの変化などに柔軟に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行うこととする。

表 1-1 計画期間

計画	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)
八幡平市総合計画	第2次		第3次							
八幡平市地域公共交通計画 ＜本計画＞	本計画									

2. 地域の現状と特性

2-1 地勢的特性

- ◇ 南北に延びる市域を高速道路や JR 花輪線が縦断し、その沿線に主要施設が立地している。
- ◇ 高速道路や JR 花輪線が秋田県や青森県へ延び、八幡平市は北東北の交流拠点の役割を担う。
- ◇ 2029 年には東北自動車道の安比高原付近にスマートインターチェンジが完成予定である。

八幡平市は 2005 年に西根町、松尾村、安代町が合併して誕生した市で、市域は 862.3k m² と广大で、南北に長く 50 km、東西には 30 km の広がりがある。東北自動車道と八戸自動車道が交差するとともに JR 花輪線が市内を縦貫する交通の要衝である。2029 年には安比高原付近に新たに東北自動車道八幡平スマートインターが完成予定である。

生活に必要な医療機関やスーパーは大更駅～北森駅周辺に集中して立地している。安代地区には病院や買い物施設等が少ないため、西根方面か市外（鹿角市や二戸市方面）へ行く必要がある。

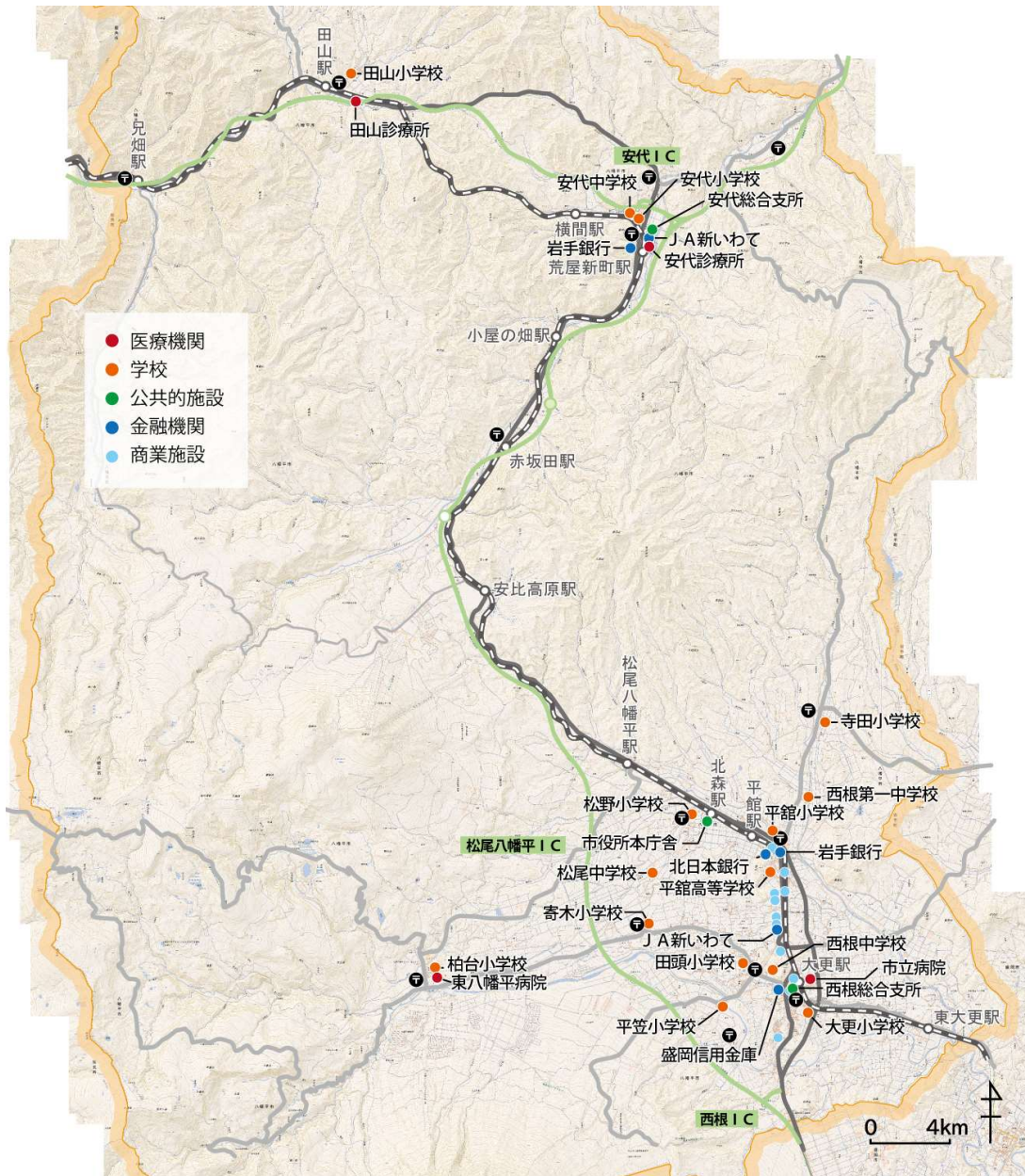


図 2-1 主要施設の分布

2-2 人口の推移

- ◇ 人口は減少を続けており、64歳以下の若い世代の減少が顕著である。
- ◇ 地区別では安代地区の減少率は大きく、2015年と比較すると2割減少している。

(1) 世代別人口の推移

2023年9月の市の人口は23,611人で、2015年と比較すると12%に相当する3,367人減少している。世代別にみると、64歳以下は約2割減少しており、65歳以上も2020年をピークに減少している。

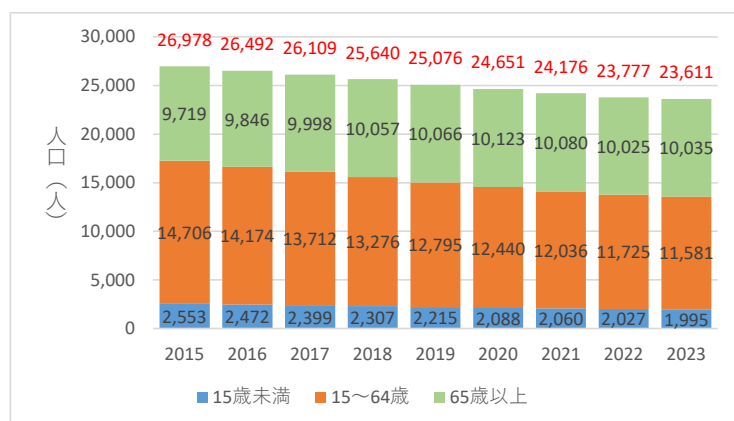


図 2-2 世代別の人口の推移

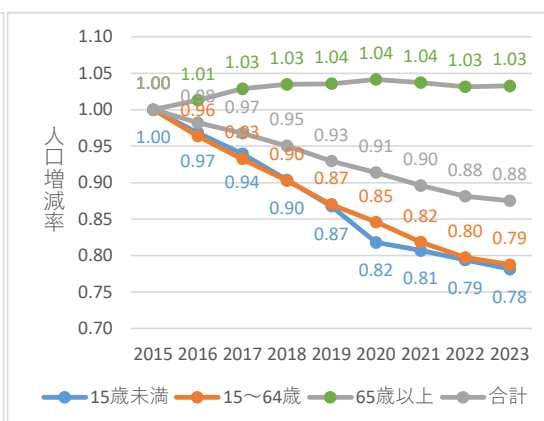


図 2-3 世代別の人口割合の推移

資料：住民基本台帳（各年度末日）*2023年は9月末日

(2) 地区別人口の推移

2023年9月現在、西根地区の人口は14,452人で、市全体の61%を占める。松尾地区には23%の5,390人、安代地区には16%、3,769人が居住している。

2015年からの人口増減率は、安代地区の減少率が大きく80%まで減少している。

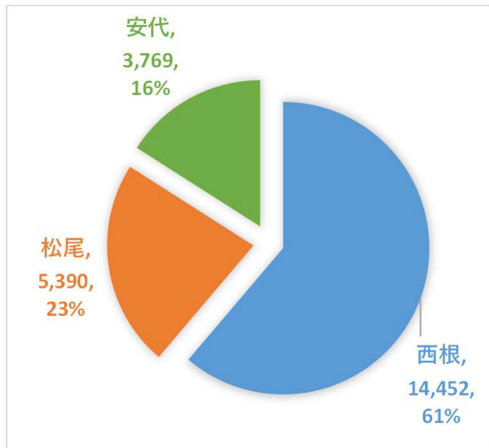


図 2-4 地区別の人口 (2023年9月)

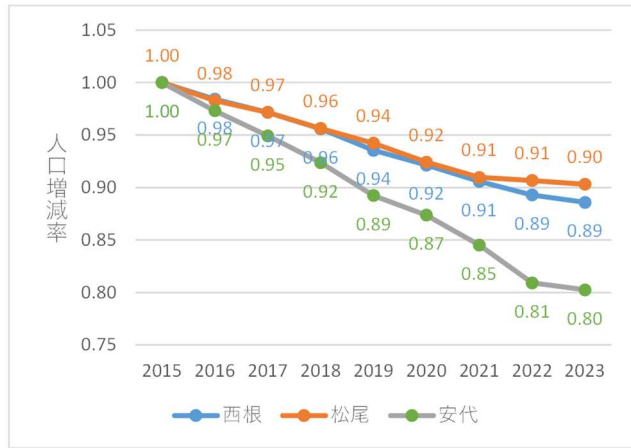


図 2-5 減少率 (対 2015 年)

資料：住民基本台帳 (各年度末日) *2023 年は 9 月末日

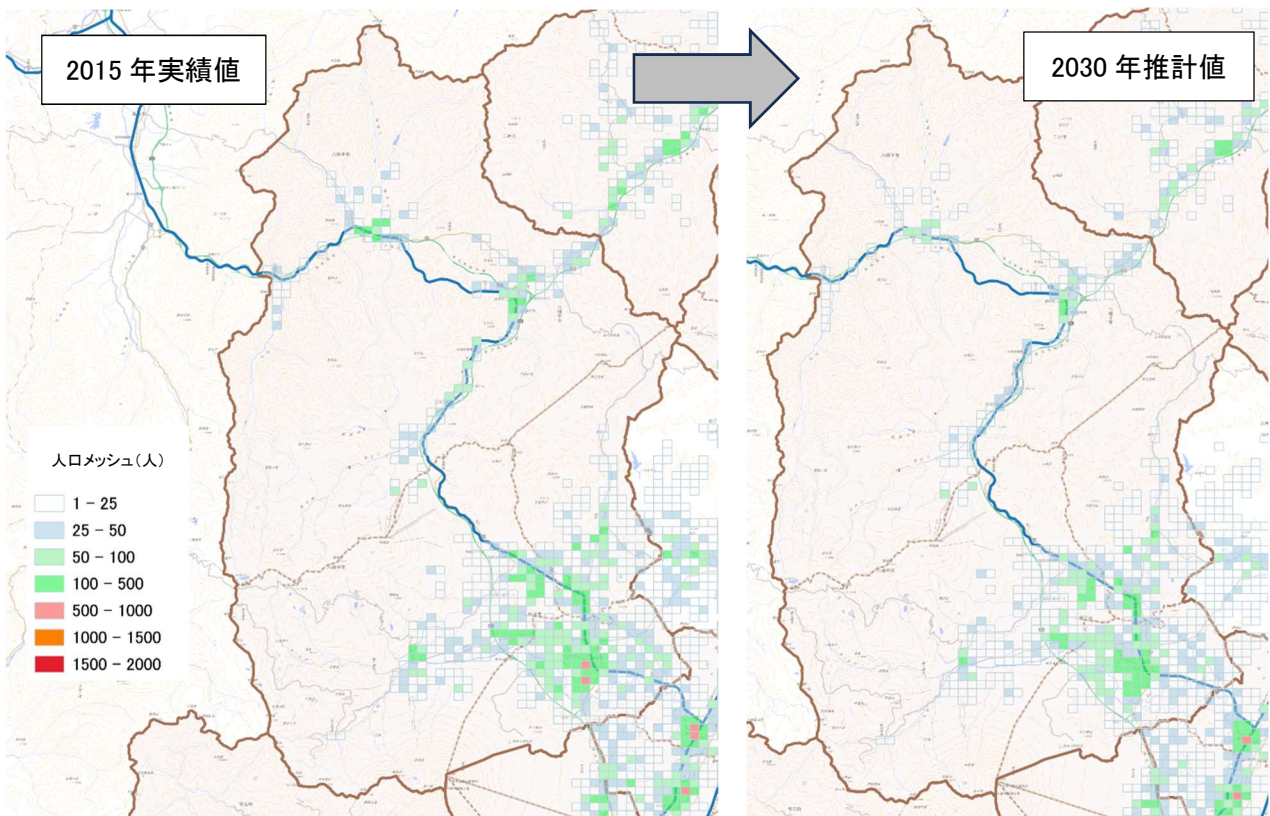


図 2-6 人口密度の分布 (500m メッシュ)

資料：国土数値情報ダウンロードサイト「500mメッシュ別将来推計人口 (H30 国政局推計)」より作成

2-3 観光資源と観光入込の現状

- ◇ 市全域に観光資源が立地している。特に八幡平温泉郷周辺と安比高原周辺には岩手を代表する観光資源があり、県内外のみならず海外からも多くの来訪者がある。
- ◇ 観光入込は秋の紅葉シーズンとスノーシーズンの2つのピークがある。
- ◇ 宿泊者数は安比高原エリアが最も多く、全体の約6割を占める。

(1) 観光資源

八幡平市には、八幡平や岩手山などの雄大な山岳系の観光資源の他、安比高原をはじめとするスキー場や八幡平温泉郷の温泉宿泊施設も多い。



図 2-7 主要な観光資源

資料：「第4期八幡平市観光振興計画」



八幡平ドラゴンアイ



安比高原スキー場



八幡平温泉郷

出典：八幡平市観光協会公式ホームページ

(2) 観光入込数の推移

八幡平市の観光入込数は、東日本大震災が発生した 2011 年度の 1,423 千人回から回復傾向にあったが、2020 年に発生した新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新しい生活様式への転換や国際的な往来の制限を実施したことにより、観光入込数は 1,297 千人回まで減少した。

宿泊者数は 2019 年度までは 500 千人回前後で推移していたが、2020 年度は 300 千人回を下回り、それ以降は少しずつ回復している。

観光入込数の内訳から外国人観光客の入り込みを見ると 2019 年度までは増加傾向であり、観光入込数の 6%まで増えていたが、2020 年度以降は激減し、2022 年度はまだ回復していない。

月別の入込数を見ると、春から秋の 10 月に向けて増えていき、11 月と 12 月は一度減少し、1 月と 2 月が最も多い。観光入込は秋の紅葉シーズンとスノーシーズンの 2 つのピークがある。

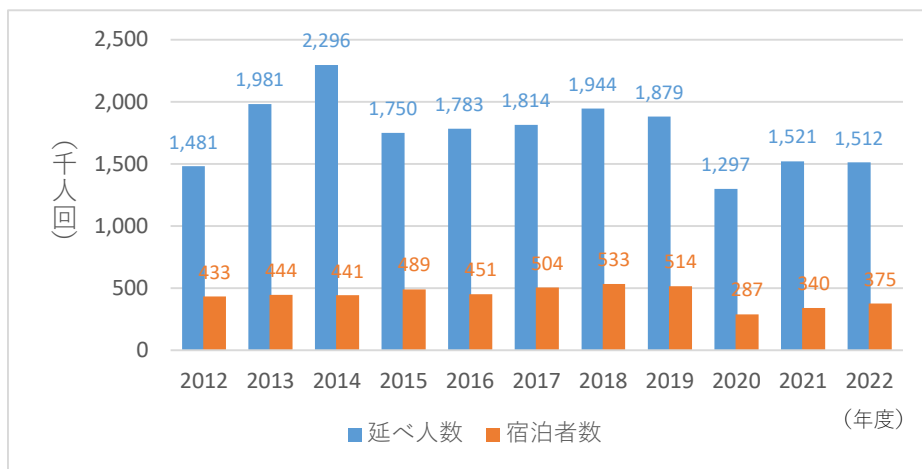


図2-8 観光入込数および宿泊者数の推移

資料：市勢要覧資料編（2023年）

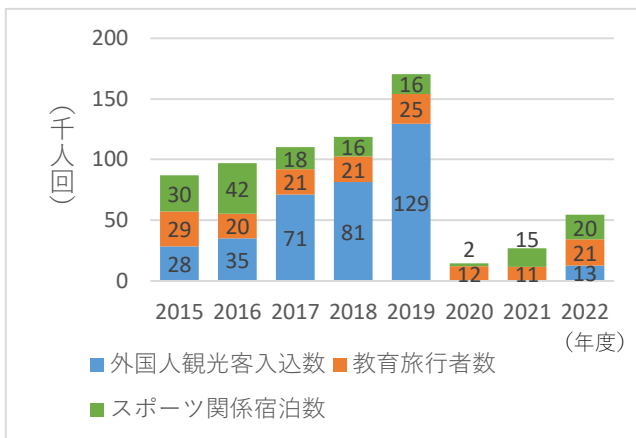


図 2-9 観光入込数の内訳
資料：市勢要覧資料編（2023年）

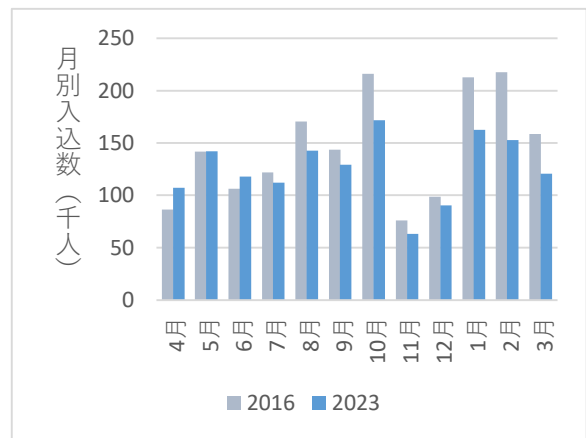


図 2-10 月別入込数
資料：岩手県「観光統計数値」

(3) エリア別の宿泊者数

宿泊者数も2020年度には大きく落ち込み、2019年度は514千人だったが2021年度は340千人まで減少している。外国人宿泊者数は、2014年度に台湾からの花巻空港チャーター便が始まり、2018年度には国際定期便が就航、さらに2018年度末に上海からの国際定期便が始まったことにより大幅に増加した。特に2019年度の外国人宿泊者数割合は25%まで増加した。しかし2020年度からは新型コロナウイルス感染症拡大に伴う入国制限により、外国人の入込はほぼなくなった。

地域別の宿泊者数は、安比高原が最も多く、全体の6割を占める。次いで八幡平温泉郷が約2割を占める。しかし、2020年度末に八幡平温泉郷で部屋数が多いホテルが閉館したため、2021年度には八幡平温泉郷の割合が25%から16%まで減少した。

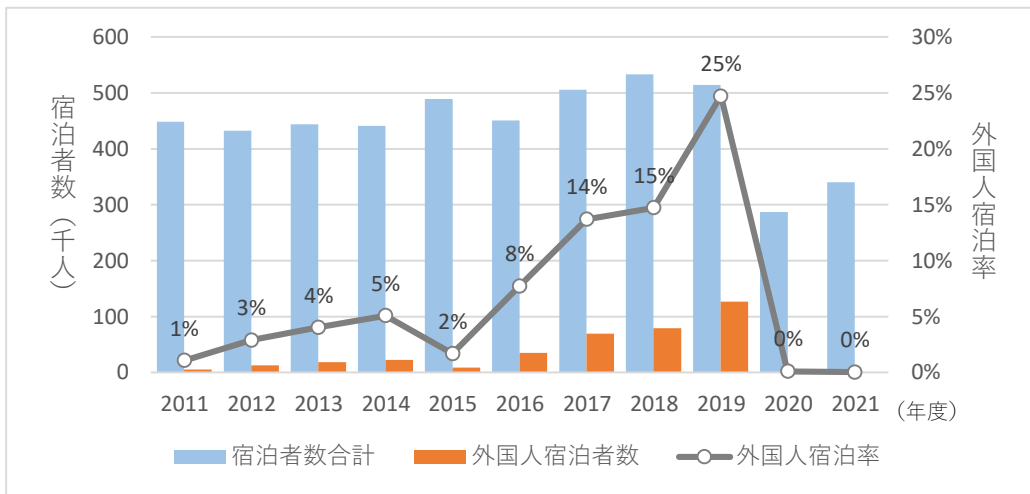


図 2-11 宿泊者数と外国人宿泊者数の割合

資料：市勢要覧資料編（2023年）

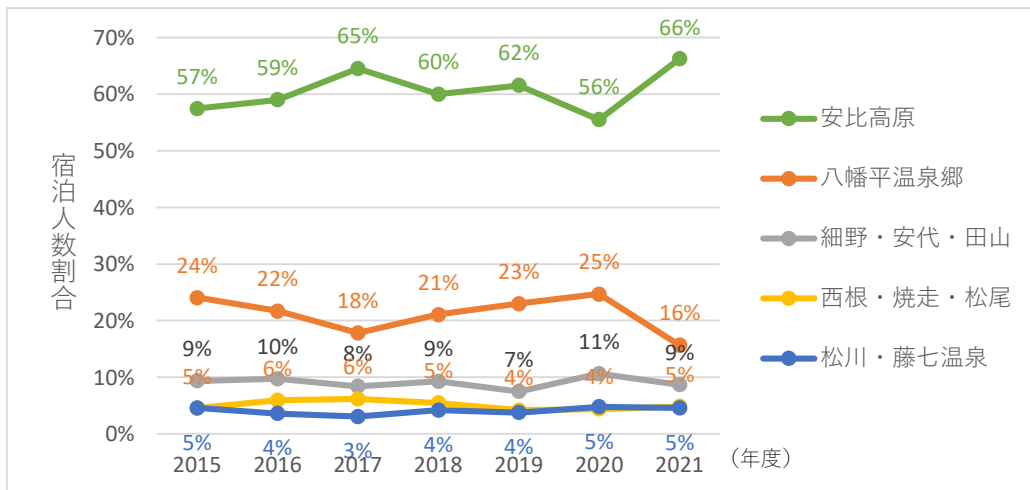


図 2-12 宿泊者数の地域別割合

資料：市勢要覧資料編（2023年）

3. 地域公共交通ネットワーク構築に向けた取り組みと評価

- ◇ 12の事業のうち11事業が実施済みで、未実施は1事業である。
- ◇ 広大な市内を負担なく移動できる幹線バスの運行（目標1）や大更駅を中心とした交通拠点機能の構築（目標2）など交通ネットワークの構築は進んだが、観光振興につなげる観光交通の充実や丁寧な利用促進については未実施のものがあった。

3-1 八幡平市地域公共交通網形成計画の概要

市は2016年3月に「八幡平市地域公共交通網形成計画」を策定し、「市民も来訪者も“安心して・楽しく”往来できるまちと公共交通ネットワークを実現する」ことを計画目標とし、4つの基本方針のもとで12の事業に取り組んできた。

八幡平市地域公共交通網形成計画の概要

地域公共交通をめぐる課題

- 広域さの克服
- 鉄道を補完する移動手段の多様性と総合性の実現
- 高齢化社会への対応
- タクシー空白地の解消
- 路線バスの持続可能性を高めるための公共交通の効率化
- バス待ち環境の改善などの利用促進
- 観光客の移動手段の整備・充実
- 大更駅を中心としてコンパクトなまちづくりと交流の促進

計画の目標

目指すべき公共交通ネットワーク

市民も来訪者も
“安心して・楽しく”往来できるまちと
公共交通ネットワークを実現する



実現される市民の生活

- * 最寄りの医療機関や商業施設に乗り継ぎなく行ける。
- * 市の都市拠点である大更駅周辺に、半日で行き帰りできる（週1回程度）

公共交通ネットワークイメージ

「大更」を、総合病院や商業施設、金融機関等に歩いていける『都市拠点』とし、「田山」と「荒屋新町」を、診療所や商店などへ歩いていける『生活拠点』と捉えます。自宅からそれら各拠点へ移動できるエリアを『生活交通エリア』とし、各拠点が週1回程度『地域内幹線』で結ばれる形を、目指すべき公共交通ネットワークとします。



資料：「八幡平市地域公共交通網形成計画【概要版】」より抜粋

3-2 事業実施状況

12の事業のうち11事業が実施済み、もしくは一部実施済みで、未実施は1事業である。

目標1については西根と安代を結ぶ幹線バスの運行や田山地区のコミュニティバスにデマンド運行を取り入れるほか、広域交通である高速バスから安代地区内に移動できる高速バス待合所の整備等が進んだ。目標2では整備された大更駅と市立病院の移転に合わせてターミナル機能が整備された。

目標1 広大な市内を負担なく移動できる総合交通ネットワークの構築			
【事業1】 地域内幹線交通の構築	実施済	2017-2018年 2019年～	幹線バス試験運行を実施 幹線バス本格運行へ移行
【事業2】 生活交通の確保と利便性の向上	一部 実施済	2017-2018年 2019年～	コミバス田山のデマンド試験運行実施 コミバス田山のデマンド本格運行
		(未実施)	荒沢路線、大花森路線、東大更路線については、市立病院の移転に伴う路線変更に留まる。
【事業3】 広域交通との乗り継ぎ利便性の確保	一部 実施済	2017年	安代テレトラックに高速バス待合所設置(→写真)
		(未実施)	岩手山SAにおける高速バス停の設置について未実施。

目標2 コンパクトなまちづくりとの連携と交通拠点機能の構築			
【事業1】 大更駅を拠点とした総合交通ターミナルづくり	実施済	2020年 2021年	大更駅東口ターミナル供用開始 大更駅西口ターミナル供用開始(→写真)
【事業2】 ターミナル機能向上のためのバス路線乗り入れと動線確保	一部 実施済	2021年	大更駅にJR花輪線、岩手県北バス、コミュニティバス、幹線バス乗り入れ
		(未実施)	岩手山サービスエリアの乗り入れは未実施。



写真 幹線バス



写真 テレトラック安代高速バス待合所 (左)



写真 整備前の大更駅



写真 整備後の大更駅西口ターミナル

目標3は観光振興を目指して岩手山サービスエリアを八幡平への観光の入り口として整備する計画であったが、事業規模が大きく現在もなお調整中である。一方で、観光事業者と交通事業者が主体となってスキーとバス交通の一括決済（MaaS）が実施されるなど各主体の連携が進んでいる。

目標4についてはバスロケーションシステムの導入など実施された事業が多いが、交通拠点へのデジタルサイネージや乗り方教室などは未実施であり、インターネットを活用した情報提供が進んだ一方で従来の方での丁寧な利用促進策のあり方の再検討が必要である。

目標3 観光振興と一体となった観光交通の充実			
【事業1】 岩手山サービスエリアの交通結節点・乗り継ぎ拠点化	一部 実施済	2020年に岩手山サービスエリアにウォークインゲートが設置されたが、交通の結節点としての機能強化は未実施	
【事業2】 岩手山サービスエリアを基点とした市内周遊バス、シャトルバスの運行	未実施 (調整中)	岩手山サービスエリアの乗り継ぎ拠点化が達成されなかったことや、新型コロナウイルス蔓延防止対策の影響もあり、周遊バスやシャトルバスの運行等は未実施	
【事業3】 空港(いわて花巻空港、仙台空港、青森空港)からのアクセス交通の充実	一部 実施済	1994年	冬期いわて花巻空港、安比高原間シャトルバス運行
【事業4】 観光事業者・施設等と連携した誘客プロジェクトの企画・実施	実施済	2013年	八幡平市内温泉施設との企画乗車券の販売(路線バスの往復乗車券とランチ券、入湯券のセット券) スキーとバスのセット券のMaaS化(→写真)

目標4 だれでも安心して利用できる公共交通の利用促進			
【事業1】 バス待ち環境の改善・整備	実施済	2020年 2021年	路線バスのバスロケーションシステム導入(→写真) 市立病院(大更駅東口)にベンチ設置
【事業2】 公共交通情報案内ツールの作成・配布	一部 実施済	毎年継続 2018年～	コミュニティバス時刻表&マップの作成 コミュニティバスのナビタイム(2018年)、ジョルダン(2021年)、Google 乗り換え案内(2023年)対応
		(未実施)	駅等交通拠点へのデジタルサイネージ等案内表示
【事業3】 “はじめてのバス利用”の促進	一部 実施済	2017年	免許返納者への運賃支援実施
		(未実施)	2019-2022年: コミバス1年間半額 2023年～: コミバス等券を10,000円、1回 乗り方教室、試乗体験



写真 岩手山サービスエリアのウォークインゲート



写真 スキーとバスのセット券のMaaS化

3-3 評価指標による評価

前計画において10の評価指標を掲げた。10の指標のうち、目標を設定できたのは7であるが、目標値に対して実績値が上回ったのは「路線バス乗客数に占める観光目的の乗客数の割合」のみであった。計画策定時には想定されなかった新型コロナウイルス感染症拡大の影響も大きく、改めて指標の再設定が必要である。

表 3-1 評価指標の目標値と実績値

目 標	2014 年	目標値 (2023 年度)	実績値 (2022 年度)
①「外出を不便」と感じない人の割合	60%	80%	54%
②生活交通（コミュニティバス）と 地域内幹線交通の乗客人数	50,197 人	43,000 人	29,372 人
③総合交通バスターミナル・大更駅利用者数	406 人/日	500 人/日	277 人/日
④総合交通バスターミナル乗り入れバス路線数	—	（検討）	62 便
⑤交流人口（観光入込客数）の増加	2,266 千人	2,500 千人	1,512 千人
⑥観光客の滞在期間（宿泊者数）の増加	441 千人	450 千人	375 千人
⑦高速道路休憩施設（岩手山サービスエリア） の来訪者の増加	—	（検討）	—
⑧岩手山サービスエリアを基点としたバス交通 の利用者数	—	（検討）	—
⑨路線バス乗客数に占める観光目的の乗客数の 割合	9 %	10%	11%
⑩市民の鉄道とバス利用率（交通分担率）	12%	20%	9%

4. 地域公共交通の現状

4-1 地域公共交通の概況

- ◇ 鉄道、高速バス、路線バス、コミュニティバスと多様な交通モードが地域公共交通のネットワークを形成している。
- ◇ コミュニティバスは広い市域をカバーするように運行されているため、系統数は多く、系統ごとの便数は少ない。
- ◇ 路線バスやコミュニティバスが運行していないエリアがあり、交通空白地が発生している。

(1) 地域公共交通の種類

市内の公共交通ネットワークは、市外や県外に伸びる広域路線として JR 花輪線、高速バスみちのく号、路線バス（岩手県北自動車）が運行している。

市内路線としては、西根地区と安代地区を結ぶ市内幹線として幹線バスとそれぞれの地区内を運行するコミュニティバスがある。コミュニティバスは各地区内を面的にカバーするように地区内を運行しているため系統数が多く、便数が少ないのが特徴である。また、一部エリアは運行しておらず交通空白が発生している。

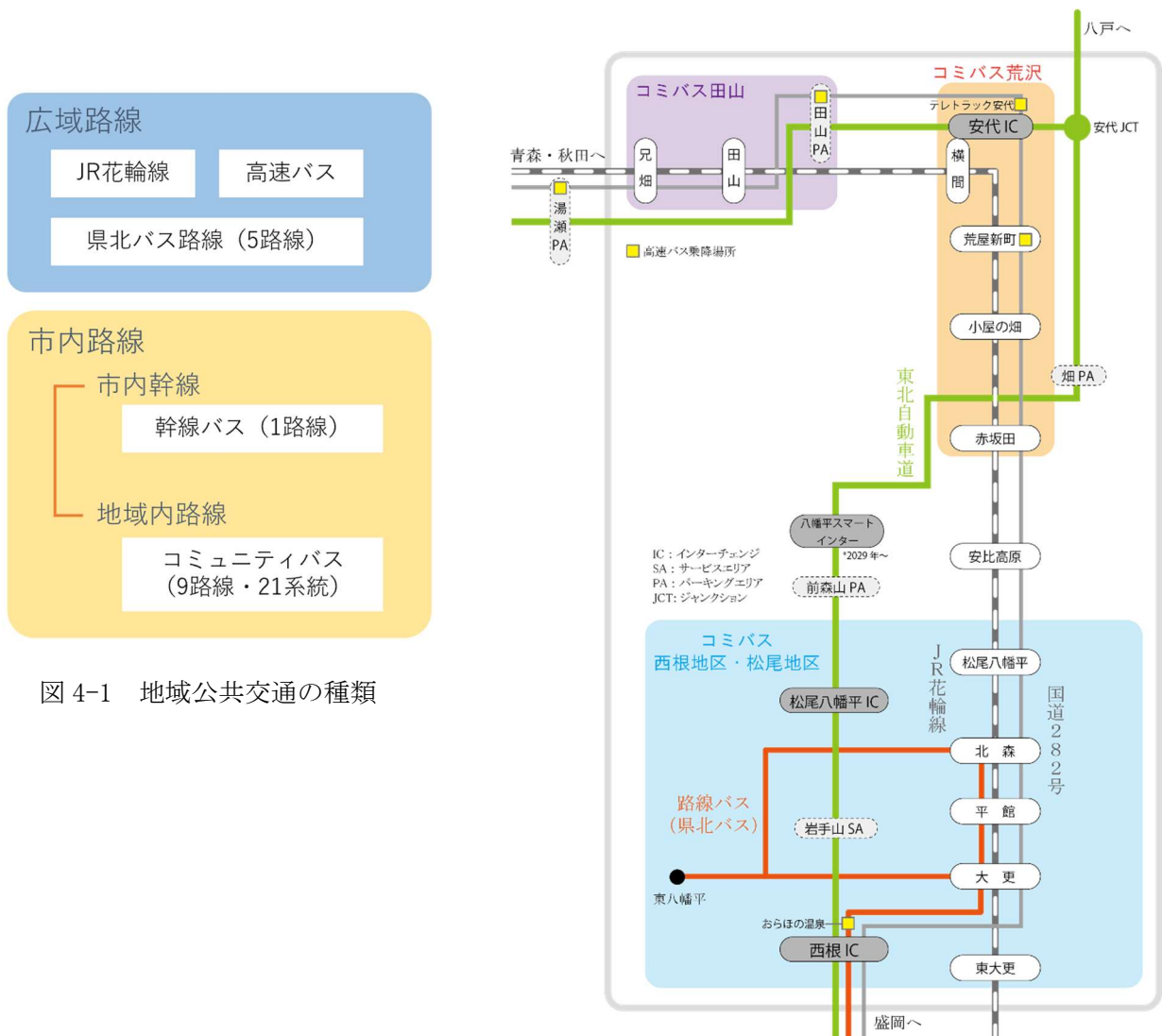


図 4-1 地域公共交通の種類

図 4-2 市内の公共交通ネットワーク

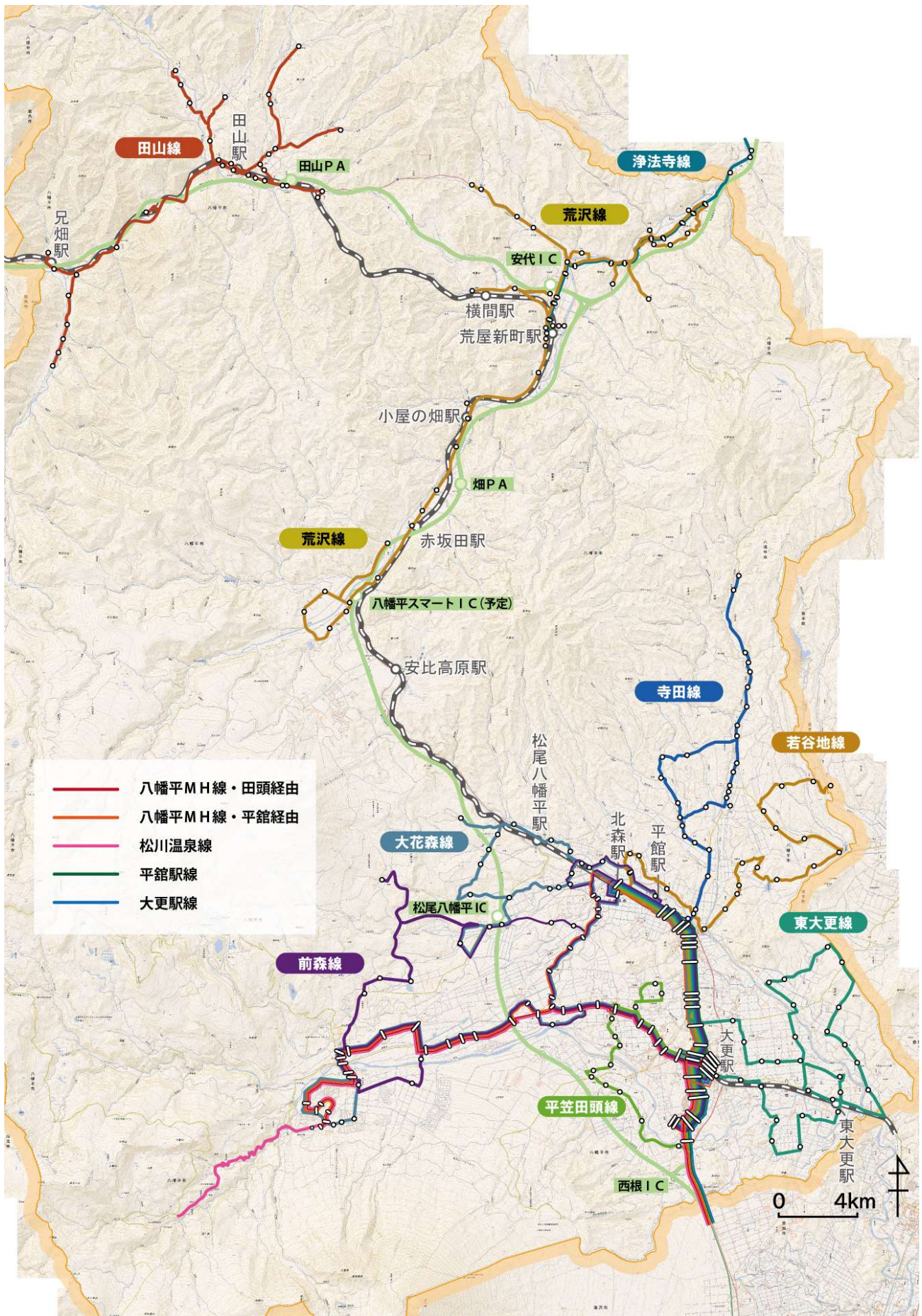


図 4-3 交通ネットワーク図

表 4-1 市内の公共交通の路線・系統の整理

【広域路線】

■ 鉄道

No.	路線名	経路	便数/ 運行回数	備考
1	JR 花輪線	好摩駅～大更駅～鹿角花輪駅～大館駅	下り7便、 上り8便	便数は大更駅 停車数

■ 高速バス

No.	路線名	経路	便数/ 運行回数	備考
1	みちのく号	(岩手医大病院/盛岡 BC) 盛岡駅～テトラック安代～田山 PA～鹿角花輪駅～大館駅前	11 回	岩手医大は1 往復

■ 路線バス（民間事業者運行：国庫補助対象路線）

No.	路線名	経路	便数/ 運行回数	備考
1	平舘駅前線	盛岡 BC～盛岡駅前～平舘駅前	4.0 回	
2	八幡平マウンテンホテル(田頭町経由)線	盛岡 BC～盛岡駅前～東八幡平病院～八幡平マウンテンホテル	5.5 回	
3	松川温泉線	盛岡 BC～盛岡駅前～田頭町～松川温泉	3.0 回	
4	八幡平マウンテンホテル(平舘経由)線	盛岡 BC～盛岡駅前～大更駅～八幡平マウンテンホテル	3.3 回	
5	大更駅前線	盛岡 BC～盛岡駅前～菓子ニュータウン～大更駅前	3.3 回	

【市内幹線】

■ 幹線バス（コミュニティバス）

No.	路線名	経路	便数/ 運行回数	備考
1	幹線バス	兄畑駅前～市立病院	1 回	火金運行



JR 花輪線の車両



荒屋新町駅前のコミュニティバス

【地域内路線】

■コミュニティバス（運行委託） *月～金運行、1回100円

No.	路線名	(系統名)	経路	便数/ 運行回数	備考
-----	-----	-------	----	-------------	----

(西根・松尾地区)

1	平笠・田頭	—	八幡平営業所～田頭町～市立病院～市役所～おらほの温泉	1回	
2	東大更	—	西根総合支所～東大更駅～市立病院～市役所	1回	
3	寺田1	西根団地	西根団地～平館駅～市役所～西根総合支所～大更駅～おらほの温泉	2回	
4	寺田2	陸中野口	陸中野口～平館駅	1回	
5	若谷地	—	岩手町黒内～市役所～市立病院～おらほの温泉	1回	
6	大花森1	温泉郷 シャトルバス	東八幡平病院～別荘地～東八幡平病院	1.5回	
7	大花森2	東八幡平病院	市役所～大花森～市役所～田頭町～市立病院～東八幡平病院	1回	
8	大花森3	おらほの温泉	おらほの温泉～市立病院～平館駅～大花森～市役所	0.5回	
9	前森1	おらほの温泉	おらほの温泉～大更～市立病院～市役所	0.5回	
10	前森2	おらほの温泉	市役所～平館駅～市立病院～大更駅～おらほの温泉	0.5回	
11	前森3	循環	市役所～東八幡平病院～田頭町～市役所	1回	
12	前森4	立石	おらほの温泉～市立病院～平館駅～東八幡平病院～立石	0.5回	

(安代地区)

13	荒沢1	五日市・浅沢	石神上～五日市～荒屋新町駅～安代総合支所	3回	
14	荒沢2	横間・曲田	横間公民館前～安代総合支所	2回	
15	荒沢3	細野・赤坂田	黒沢～赤坂田駅前～安代総合支所	2回	
16	浄法寺	—	荒屋新町駅～土沢～浄法寺駅	2回	
17	田山1	長者前・石名坂	長者前公民館～田山小学校前～田山診療所	1回	月水金
18	田山2	瀬ノ沢・石名坂・苗代沢	瀬ノ沢～田山駅前～田山診療所～田沢橋～田山診療所～田山駅前	1.5回	火木金
19	田山3	舘市・兄畑・兄川	上兄川～舘市～田山駅前～田山診療所	1回	月火金
20	田山4	午後・予約バス	当日12時前に予約して利用するデマンド運行	1回	月～金
21	田山5	駅まちバス	花輪方面からくる JR 花輪線の田山駅着 14:59 に合わせて利用者がいる場合に運行する	0.5回	月～金

(2) 交通事業者

市内の交通事業者は乗合旅客、貸切旅客、乗用旅客各事業者が営業所を設け、路線バスやコミュニティバスなどの乗合交通だけでなく、スクールバス等含め様々な交通サービスを担っている。

表 4-2 市内の交通事業者

種類	交通事業者	車両台数	備考(営業所)	その他の業務
鉄 道	JR 東日本	—		
乗合旅客 事業者	岩手県北自動車	乗用 30 台 予備 3 台		西根・松尾地区コミバス、高速バス
貸切旅客 事業者	岩手県北自動車	大 1	大更	
	小川タクシー株式会社	中 2 小 4	大更	西根地区スクールバス
	株式会社イーアンドティー	大 8 中 1 小 6	大更	
	秋北バス株式会社	大 6	田山	
乗用旅客 事業者	有限会社安代観光タクシー	普通 2	荒屋	安代地区コミバス
	有限会社平舘タクシー	特大 2 大型 1 普通 9	平舘、大更、松尾	言葉の教室送迎(松野小)
	西根観光タクシー株式会社	特大 1 普通 5	大更	スクールタクシー 言葉の教室送迎(大更小)
	小川タクシー株式会社	特大 2 普通 5		西根地区スクールバス

4-2 鉄道の現状

- ◇ JR 花輪線の乗車人員は減少を続けており、減便も行われている。
- ◇ JR 花輪線の乗車人員の多くが高校生の通学利用で、朝と夕方の方に利用は集中している。

(1) 運行状況

JR 花輪線は市外や県外と八幡平市内を結ぶ広域の公共交通として重要な役割を担っている。また、安代地区と西根地区を結ぶ市内公共交通の役割も担っている。八幡平市内を運行する便は上り 8 便、下り 7 便であるが、主に通勤と通学時間帯に集中しており、昼間の時間帯の便は少ない。

2015 年 3 月に昼の上下便が各 1 便減便、それ以降も下り便が 1 便減便しており、利便性の低下が市民の移動に影響を与えている。

表 4-3 JR 花輪線の運行時刻表 (2015 年 12 月と 2023 年 1 月の変化)

2015.12		1便目	2便目	3便目	4便目	5便目	6便目	7便目	8便目
上り	鹿角花輪	5:36	..	7:30	10:12	14:27	16:38	18:31	19:59
	田山	6:03	..	7:57	10:39	14:53	17:04	18:58	20:27
	荒屋新町	6:22	6:59	8:17	10:54	15:08	17:22	19:20	20:43
	大更	7:01	7:39	8:57	11:34	15:49	18:00	20:00	21:22
	盛岡	7:38	8:19	9:34	12:15	16:27	18:37	20:37	22:00
	2023.1	↓	↓	↓	↓	↓	↑ 減便	↓	↓
上り	1便目	2便目	3便目	4便目	5便目	6便目	7便目	8便目	
鹿角花輪	5:35	..	7:30		11:47	14:32	18:36	20:09	
田山	6:02	..	8:00	(減便)	12:14	14:59	19:03	20:36	
荒屋新町	6:18	6:59	8:21	11:19	12:30	15:13	19:22	21:19	
大更	6:58	7:39	9:01	11:58	13:14	15:53	20:00	21:59	
盛岡	7:37	8:20	9:40	12:40	13:56	16:31	20:37	22:44	
								↑ 増便	

2015.12		1便目	2便目	3便目	4便目	5便目	6便目	7便目	8便目
下り	盛岡	5:07	6:55	9:27	13:48	16:06	18:03	19:20	20:39
	大更	5:44	7:40	10:04	14:25	16:43	18:42	20:00	21:22
	荒屋新町	6:21	8:17	10:54	15:22	17:23	19:19	20:43	21:59
	田山	6:35	8:31	11:08	15:36	17:37	19:33	20:57	..
	鹿角花輪	7:02	9:01	11:34	16:09	18:24	19:59	21:23	..
	2023.1	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
下り	1便目	2便目	3便目	4便目	5便目	6便目	7便目		
盛岡	5:00	6:55	9:53	12:35	16:39	18:06	20:02		
大更	5:36	7:38	10:32	13:12	17:16	18:45	20:40	(減便)	
荒屋新町	6:24	8:18	11:10	13:50	17:54	19:22	21:18		
田山	6:39	8:32	(減便)	14:04	18:08	19:36	21:32		
鹿角花輪	7:05	8:59		14:31	18:35	20:03	21:59		
								↑ 時刻変更	

(2) 鉄道の利用状況

大更駅と荒屋新町駅の1日平均乗車人員を見ると、鉄道の利用者は年々減少している。乗客に占める定期率は8割前後と高く推移している。

便別の乗降人数をみると、朝5時と6時台の上り便に利用が集中している。下りは17時以降の利用が多く、日中の利用者は少ない。駅別の乗降人数は大更駅の利用が特に多く、全体の42%を占める。次いで平館駅、北森駅が多い。

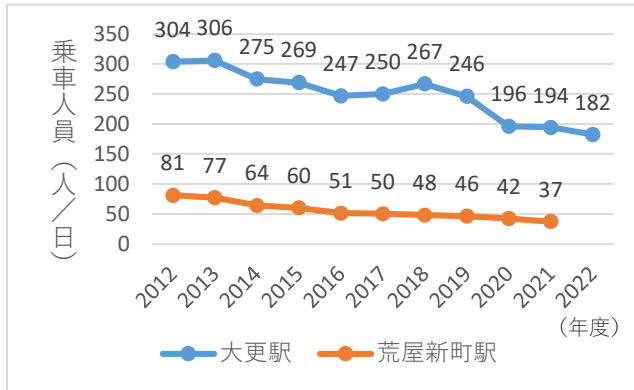


図 4-4 1日平均の乗車人員

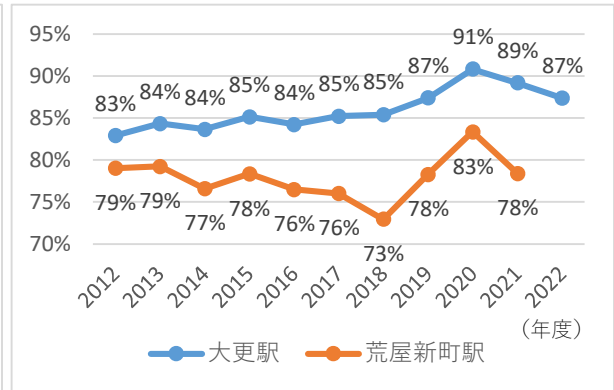


図 4-5 定期率

資料：JR 東日本、R4 の荒屋新町駅は数値なし

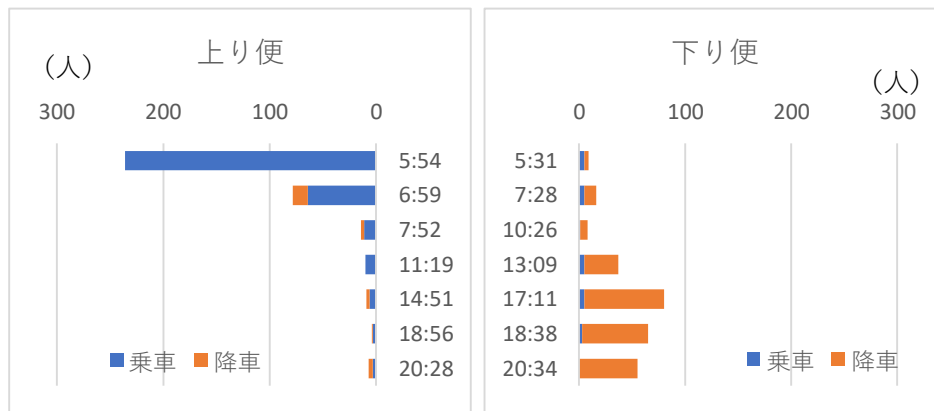


図 4-6 便別の1日乗降延べ人数

資料：2023年9月の調査結果

注：八幡平市内の駅の乗降人数のみ

表 4-4 駅別の1日乗降延べ人数

駅	上り		下り		合計
	乗車	降車	乗車	降車	
兄畑	1	1	0	0	2
田山	7	2	3	12	24
横間	2	0	0	0	2
荒屋新町	30	1	2	12	45
小屋の畑	1	0	0	1	2
赤坂田	10	0	2	6	18
安比高原	10	1	1	15	27
松尾八幡平	12	0	0	10	22
北森	35	4	2	33	74
平館	46	12	9	41	108
大更	176	6	5	79	266
東大更	6	0	0	37	43

資料：2023年9月の調査結果

表 4-5 便別の1日乗降延べ人数

上り	乗車		降車		合計
	一般	学生	一般	学生	
5:54	28	208	0	0	236
6:59	41	23	2	12	78
7:52	11	0	3	0	14
11:19	10	0	0	0	10
14:51	6	0	3	0	9
18:56	2	1	1	0	4
20:28	3	0	4	0	7
下り	乗車		降車		合計
	一般	学生	一般	学生	
5:31	3	2	4	0	9
7:28	5	0	10	1	16
10:26	1	0	7	0	8
13:09	4	1	11	21	37
17:11	1	4	14	61	80
18:38	1	2	32	30	65
20:34	0	0	10	45	55

(3) 収支状況

JR 東日本は利用の少ない線区の経営状況を毎年公開している。それによると花輪線の荒屋新町～鹿角花輪区間の収支率（運輸収入÷営業費用）は、開示対象線区全 66 区間のうち 5 番目に悪く、わずか 0.9%である。

花輪線全区間の収支は約 19 億円の赤字となっている。

表 4-6 平均通過人員 2,000 人/日未満の線区ごとの収支データのうち花輪線

区間	営業キロ (km)	運輸収入 (百万円)	営業費用 (百万円)	収支 (百万円)	営業係数 (円)	収支率 (%)	平均通過人員 (人/日)		
							1987年	2022年	増減
好摩～荒屋新町	37.6	39	721	-682	2,152	5.4%	1,561	346	78%
荒屋新町～鹿角花輪	32.1	4	496	-492	1,839	0.9%	915	55	94%
鹿角花輪～大館	37.2	35	756	-721	10,751	4.7%	1,646	448	73%

資料：JR 東日本ニュース「ご利用の少ない線区の経営情報（2022 年度分）」

4-3 路線バスの現状

- ◇ 路線バスは八幡平市内と盛岡市内を結んでいる。
- ◇ 5 路線のうち 2 路線が国の補助要件を下回っており、今後の運行の継続が課題である。
- ◇ 利用者数は減少を続けているが、特に 2020 年以降減少が著しく、一方で経費は増加したことから収支率はどの路線も 50% を下回っている。

路線バスの概要

路線バスは八幡平市の西根・松尾エリアと盛岡を結ぶ 5 路線が運行している。5 路線とも国庫補助を受けて運行が維持されているが、内 2 路線は輸送人員が補助要件 15.0 より下回っており、今後運行をどのように維持していくかが課題となっている。

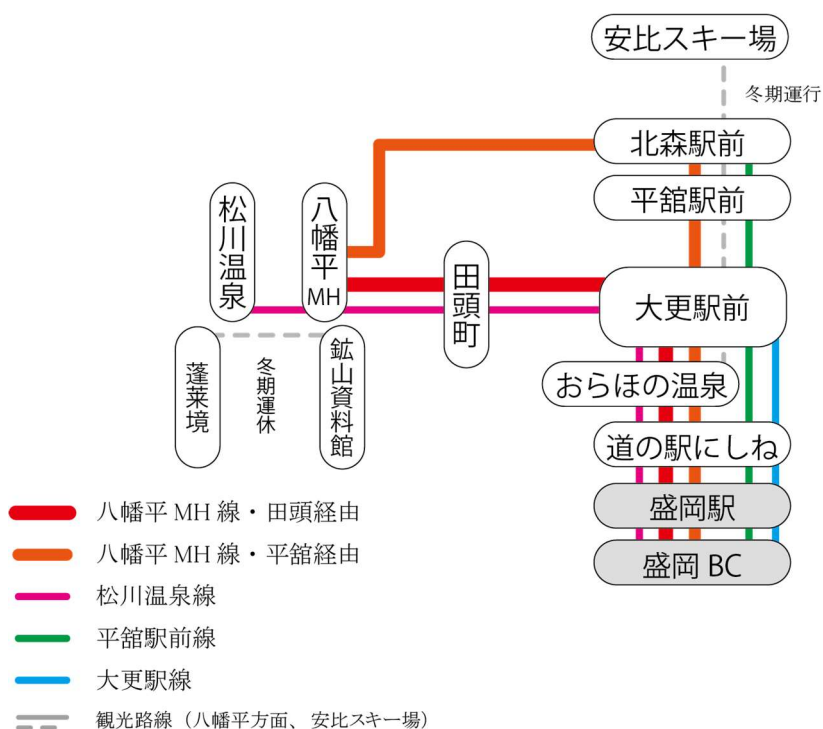


図 4-7 路線バスの経路図

表 4-7 路線の概要

No.	路線名	経路	便数/ 運行回数	キロ程	平均 乗車密度	輸送量
1	平館駅前線	盛岡 BC～盛岡駅前～平館駅前	4.0 回	34.2	4.2	16.8
2	八幡平マウンテンホテル(田頭町経由)線	盛岡 BC～盛岡駅前～東八幡平病院～八幡平マウンテンホテル	5.5 回	47.8	4.0	22.0
3	松川温泉線	盛岡 BC～盛岡駅前～田頭町～松川温泉	3.0 回	54.4	5.3	15.9
4	八幡平マウンテンホテル(平館経由)線	盛岡 BC～盛岡駅前～大更駅～八幡平マウンテンホテル	3.3 回	53.9	3.7	12.2
5	大更駅前線	盛岡 BC～盛岡駅前～菓子ニュータウン～大更駅前	3.3 回	29.8	4.1	13.5

注：輸送量が 15.0 未満を網掛け、2023 年実績

(1) 利用状況

5 路線の輸送人員は減少傾向を辿っているが、経常費用は増加傾向である。輸送人員は八幡平マウンテンホテル路線の 2 系統が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で 2020 年以降に特に減少している。

経常費用が増加したこともあり、収支率はいずれも悪化しており、2020 年以降 5 路線とも 50% を下回っている。特に八幡平マウンテンホテル（平館経由）の収支率は 30% 台まで低下している。

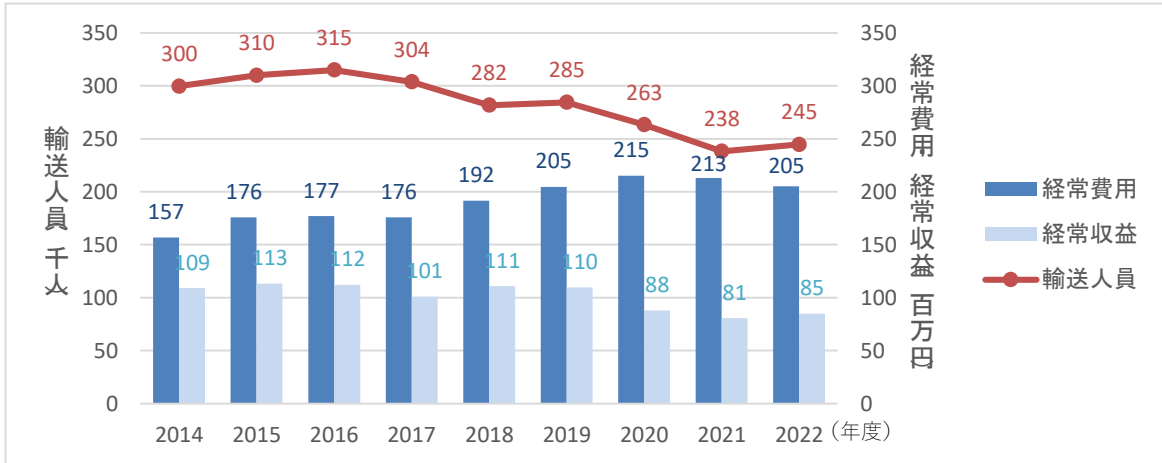


図 4-8 便別の乗客数

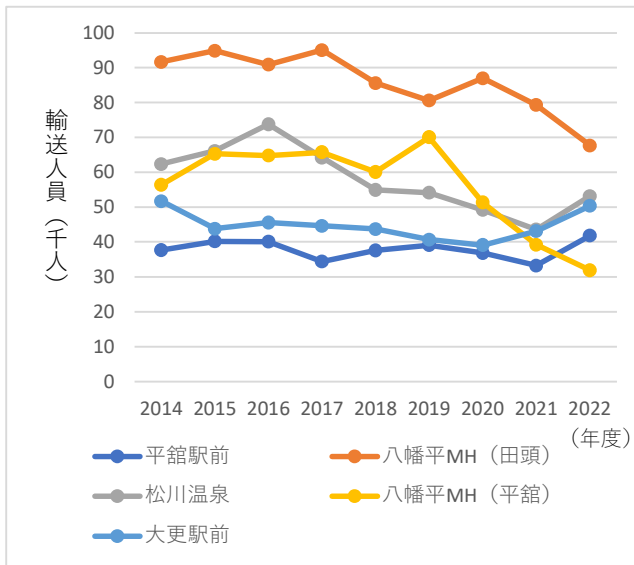


図 4-9 路線別の輸送人員

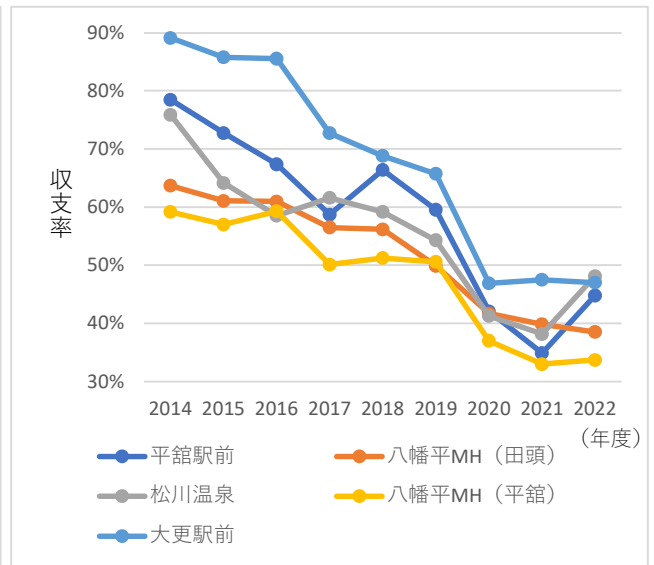


図 4-10 路線別の収支率

(2) 便別利用者数 ～2023年10月調査～

(調査の概要)

2023年9月～10月に、市内を走行する県北バス4路線²（松川温泉線、八幡平マウンテンホテル平館経由、八幡平マウンテンホテル田頭経由、平館駅前線）の全便（上り17便、下り18便）を対象に、平日各1回ずつ調査員が乗車し、対面式アンケート調査を実施した。調査区間は八幡平市内で、盛岡方面へのバス停は道の駅にしねまでとした。

(利用目的)

全便で乗車人数は計354人で、目的としては通学(29%)と通勤(28%)で全体の約6割を占める。次いで観光(11%)も多い。通院と買い物は合わせて全体の17%である。

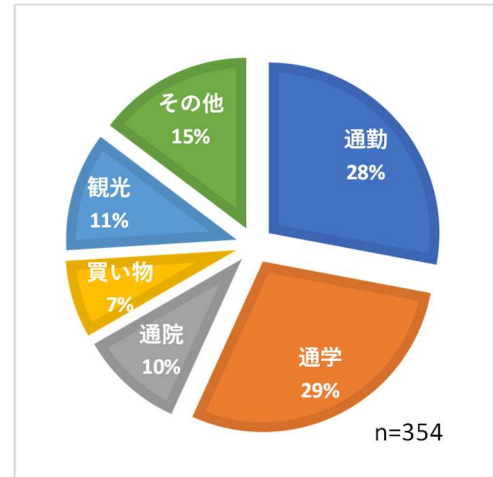


図 4-11 利用者数の目的割合

(便別利用者数)

乗客人数は、上り7時台と下りの16時以降の便は通学と通勤の利用が多く、1便当たり八幡平市内の乗降人数だけで10人を超えるほど多い。

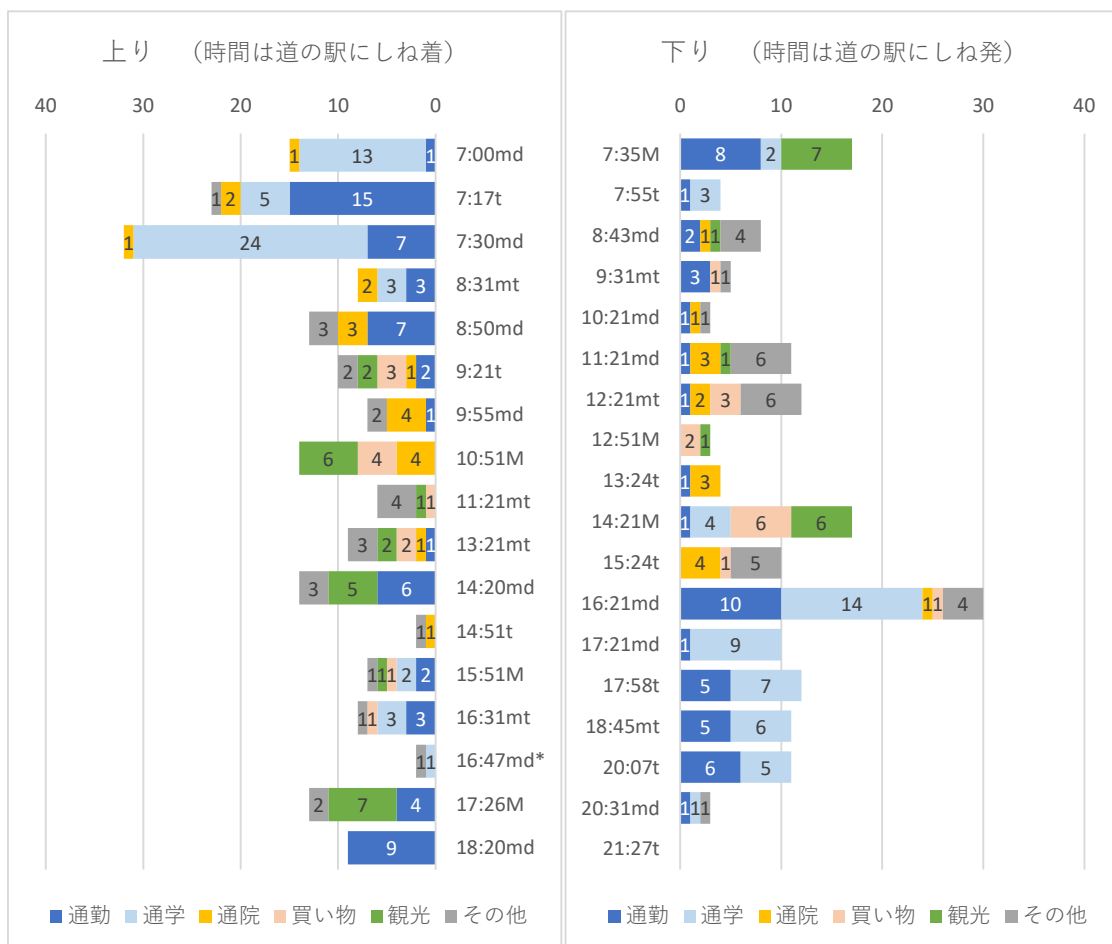


図 4-12 便別の利用者数 (道の駅にしね発着時間)

注：M…松川温泉線、mt…マウンテンホテル平館経由、md…マウンテンホテル田頭経由、t…平館駅前
上り 16:47md*は「松尾鉱山資料館」発

² 大更線は市内走行距離が比較的短く、市外の利用実態の影響が大きいことから調査対象外とした。

(バス停別乗降人数)

八幡平市内での乗降は 25%で、多くは八幡平市内から盛岡市内への行き帰り利用である。

八幡平市内では大更駅から南側のバス停で乗降が多い。また、松川温泉や松尾鉦山資料館や東八幡平病院など八幡平温泉郷周辺の乗降も比較的多い。

表 4-8 乗降区間別の割合

乗車	降車	盛岡市内	八幡平市内	総計
		0%	38%	38%
		36%	25%	62%
		36%	64%	100%

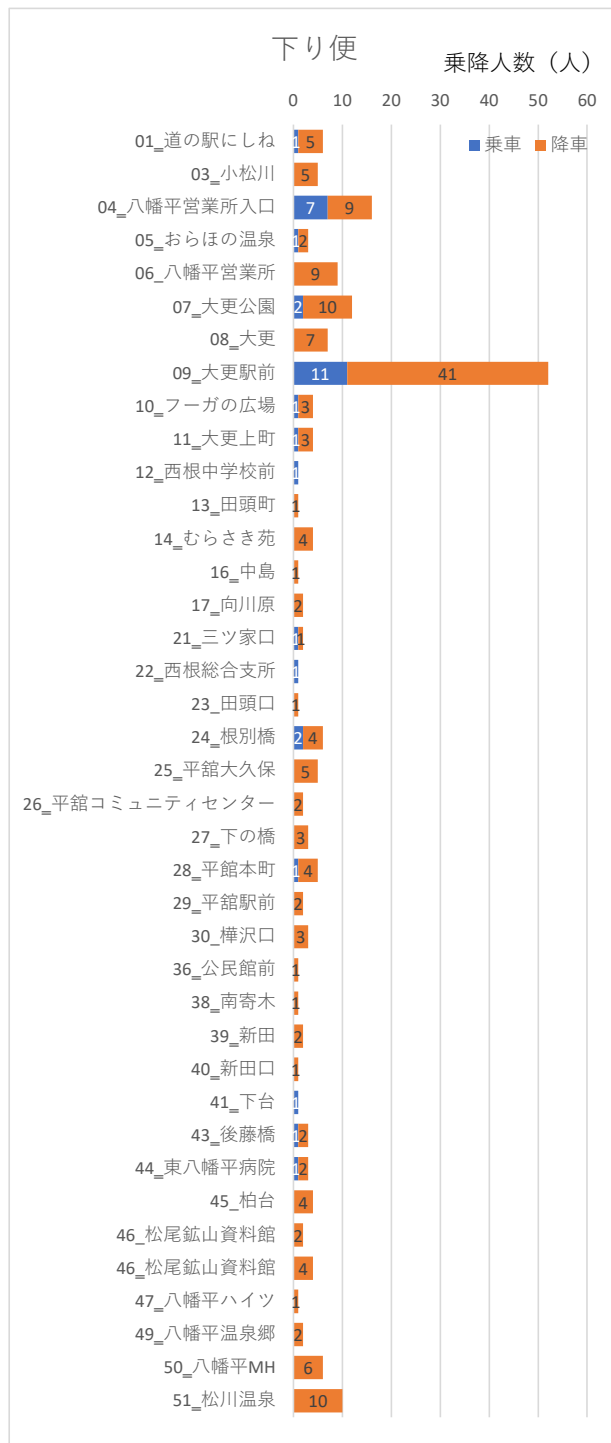
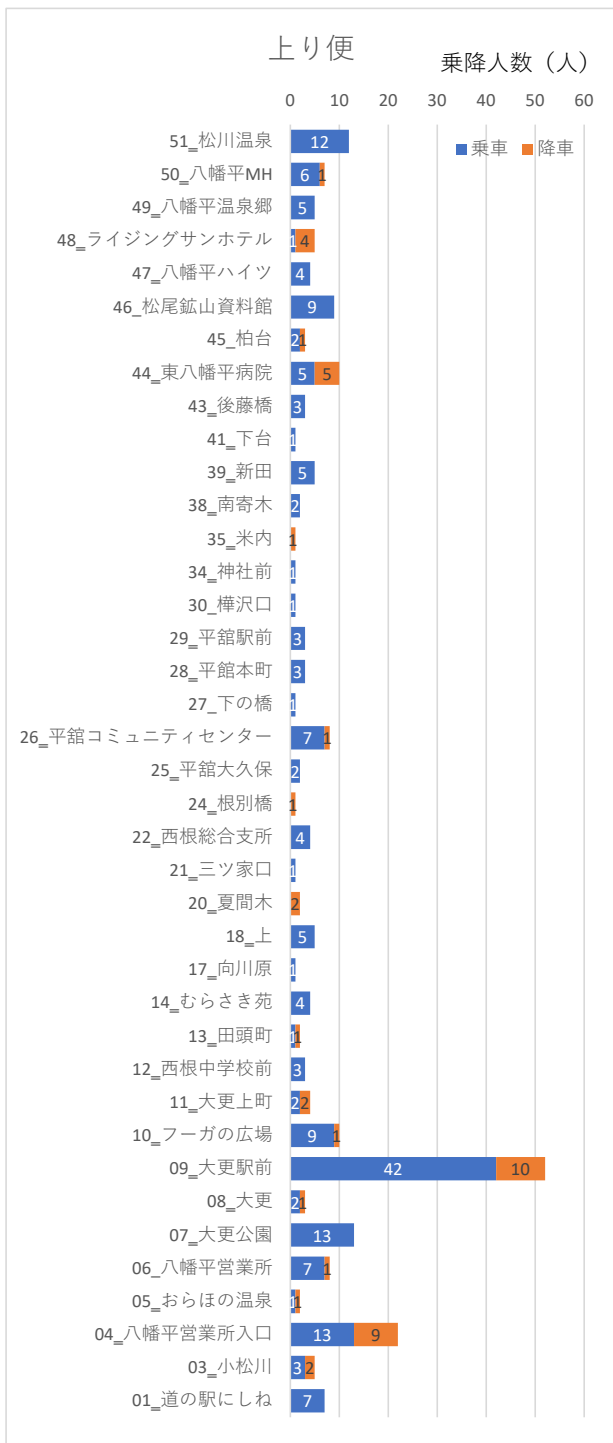


図 4-13 バス停別乗降人数

(参考図 路線別の便別乗降人数)

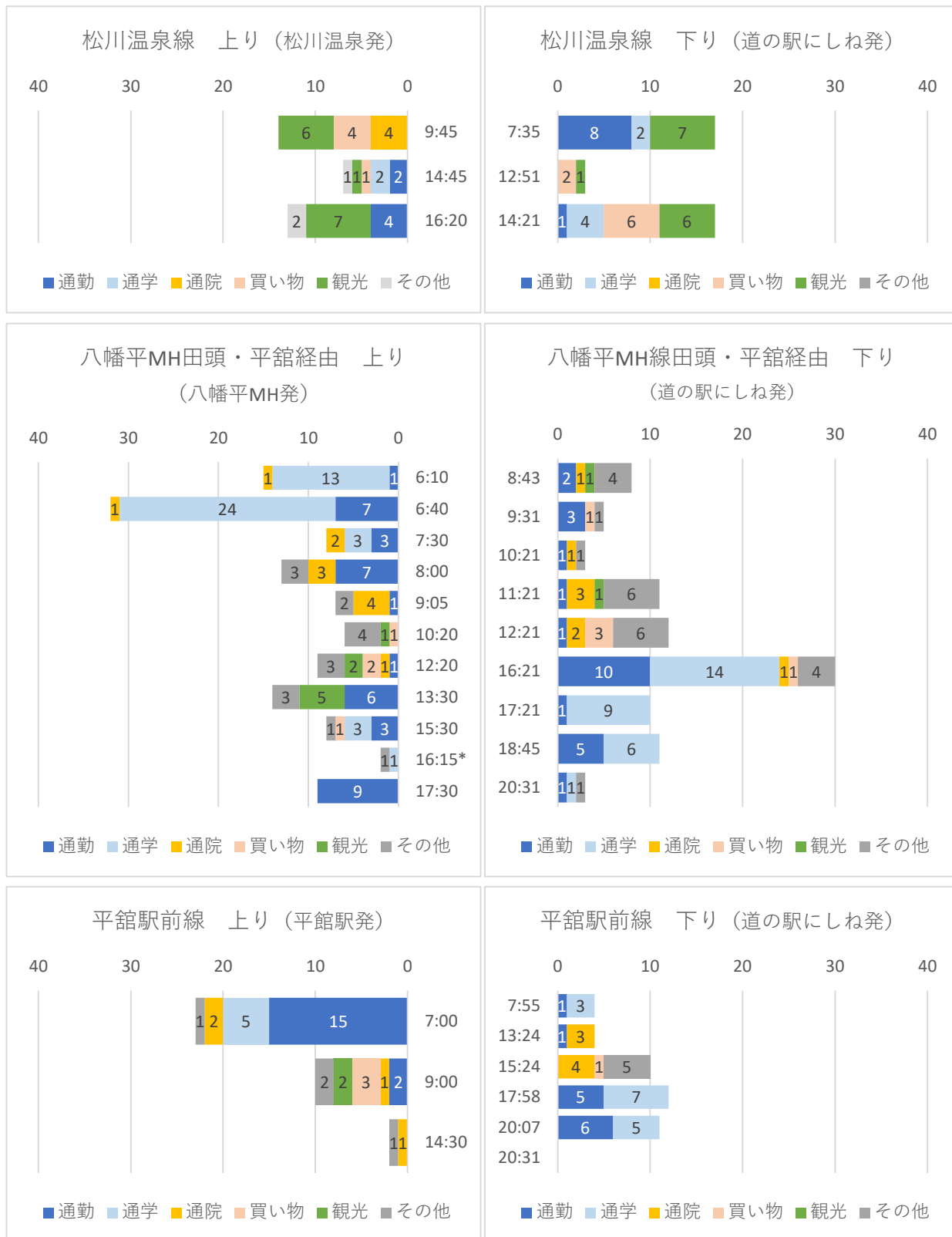


図 4-14 便別の利用者数 (道の駅にしね発着時間)

4-4 幹線バスの現状

◇ 新型コロナウイルスの影響もあり利用者は減少傾向であり、運行に係る経費は増加している。

幹線バスは、八幡平市公共交通網形成計画において検討され、2019年4月からJR花輪線を補完し、西根～松尾～荒沢～田山地区間の移動を実現することを目的として本格運行を行っている。しかし、利用者数は減少しており、利用者1人あたりの補助額は2019年度は2,840円だったのが2022年度は5,730円まで増加している。利用は田山地区の人は少なく、荒沢地区の利用者が多い。

【幹線バスの運行概要】

運行日：火曜日、金曜日
 運行：定時定路線運行
 便数：1往復
 (往路9:00発、復路14:00発)
 運賃：1エリア内100円
 2エリア300円
 3エリア500円

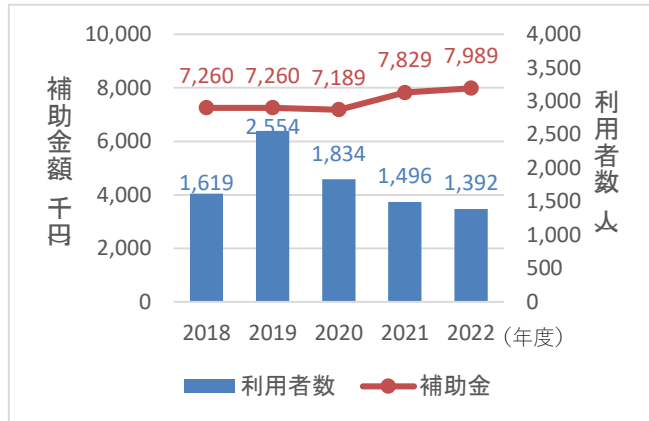


図 4-15 利用者数と補助金額の推移

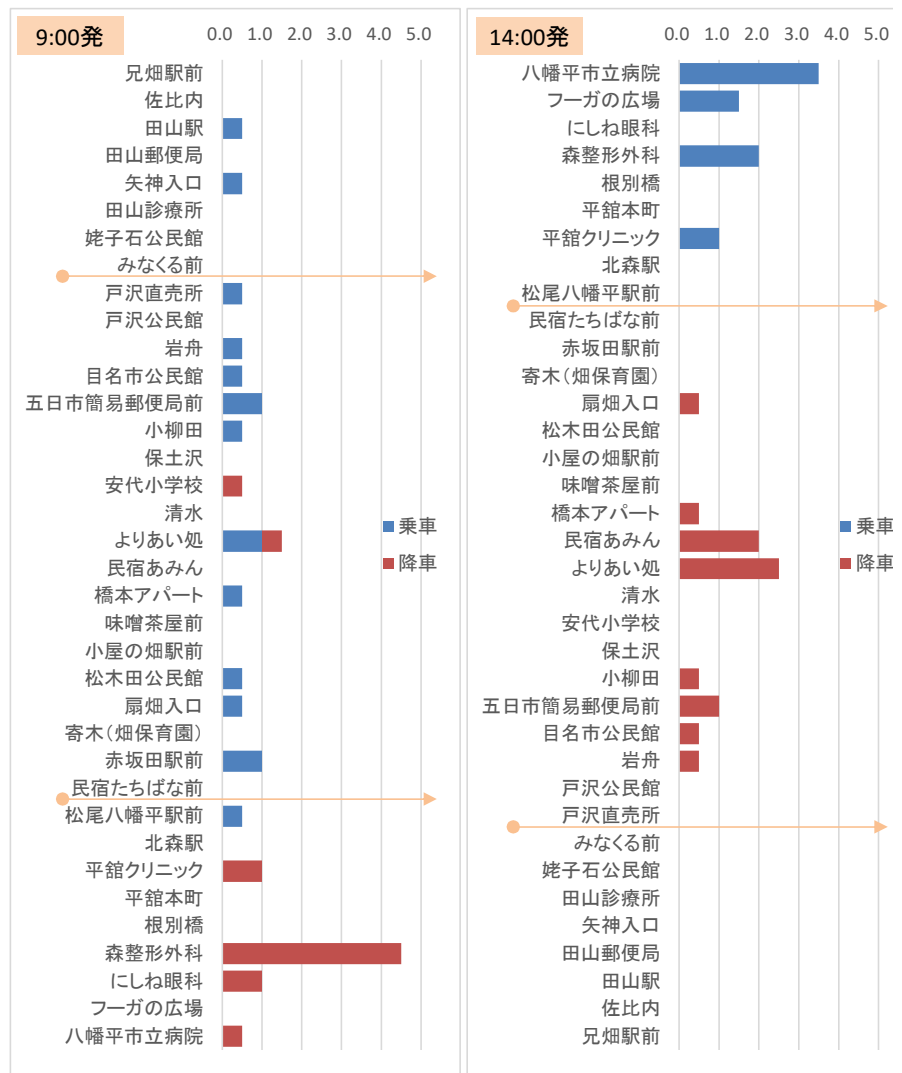
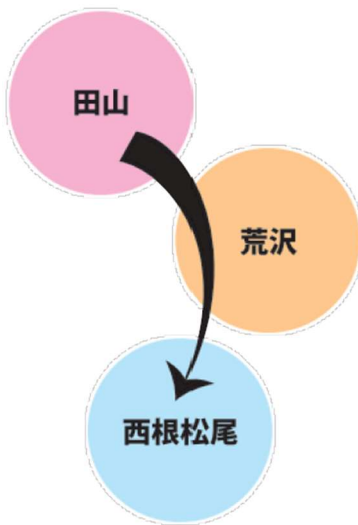


図 4-16 乗降場所別の乗車人数と降車人数 (2023. 10. 24-25 調査)

4-5 コミュニティバスの現状

- ◇ コミュニティバスが市域を面的にカバーしているが、路線・系統数が多く、複雑な運行となっている。
- ◇ 利用者数は減少しており、1便平均利用者数が0人の便も増えている。

(1) 運行の概要

八幡平市のコミュニティバスは、患者輸送バスを前身とし、安代地区は2008年4月から、西根・松尾地区は2011年4月から通院や買い物など日常生活の様々な移動目的に利用できるコミュニティバスへと転換した。そのため、1日1～2往復と便数は少なく、運行時間も午前中に集中している。

運賃は、八幡平市内路線は一律100円（中学生以下無料）で、浄法寺線のみ中学生以上200円、小学生100円で利用できる。

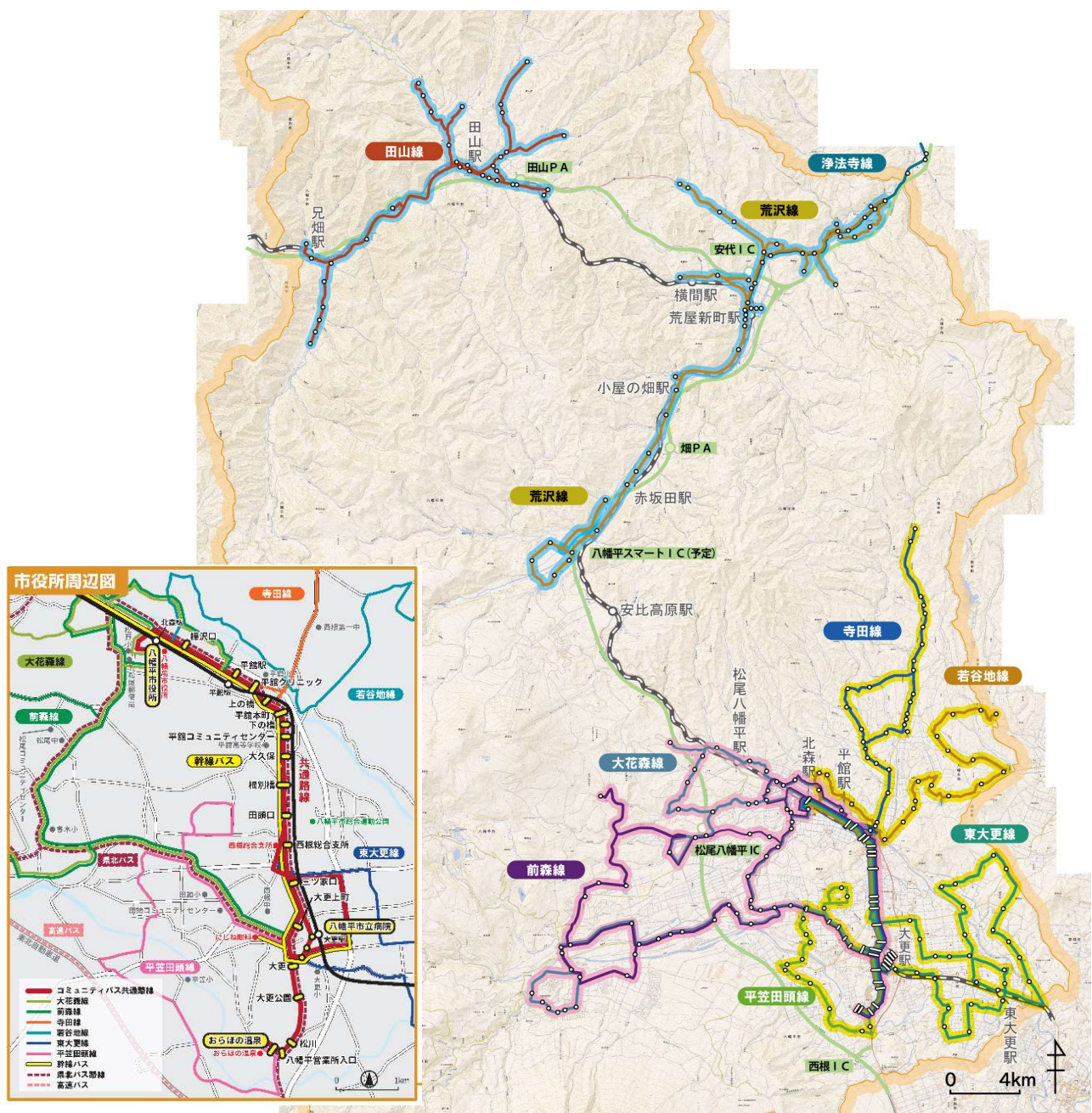


図 4-17 コミュニティバスの路線図

(2) 乗客数の推移

利用者数は、2019年度までは年間4万人前後を横ばいで推移していたが、2020年以降著しく減少し、2022年度は約2万8千人と2015年度の7割まで減少している。特に最も利用の多かった寺田路線の利用が大きく減少しており、2015年度の半数まで落ち込んでいる。

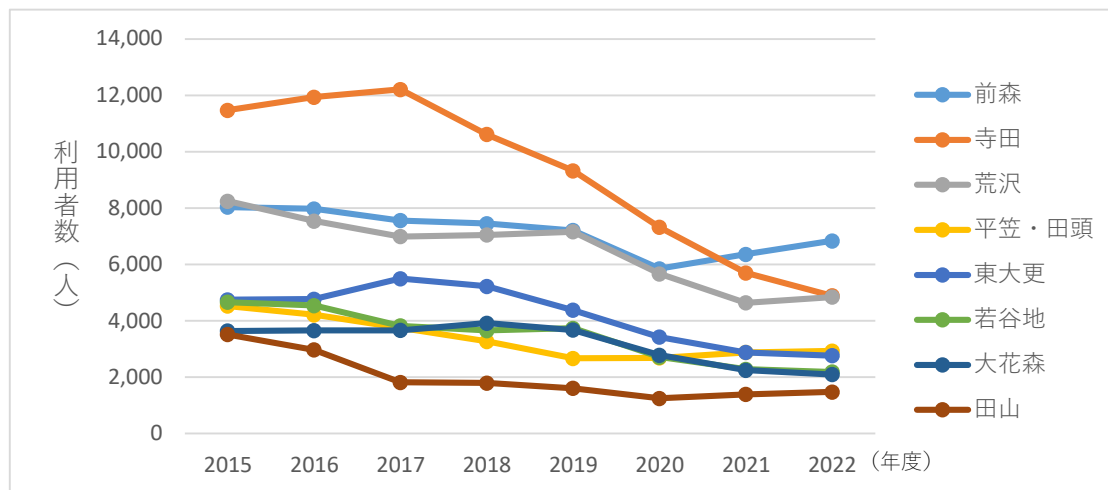


図 4-18 コミュニティバスの利用者数の推移

表 4-9 コミュニティバスの利用者数の推移

路線	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	増減率
前森	8,029	7,965	7,555	7,445	7,199	5,845	6,353	6,832	0.85
寺田	11,464	11,931	12,206	10,606	9,317	7,312	5,693	4,885	0.43
荒沢	8,239	7,533	6,984	7,041	7,156	5,661	4,635	4,839	0.59
平笠・田頭	4,522	4,208	3,744	3,267	2,666	2,683	2,872	2,924	0.65
東大更	4,743	4,765	5,493	5,221	4,372	3,419	2,874	2,757	0.58
若谷地	4,656	4,536	3,814	3,649	3,728	2,709	2,279	2,183	0.47
大花森	3,637	3,651	3,658	3,914	3,670	2,777	2,243	2,088	0.57
田山	3,511	2,963	1,813	1,786	1,604	1,242	1,387	1,472	0.42
計	48,801	47,552	45,267	42,929	39,712	31,648	28,336	27,980	0.57
増減率	1.00	0.97	0.93	0.88	0.81	0.65	0.58	0.57	0.57

注：増減率は対2015年度に対する2022年度の値

(3) 1便平均利用者数(2023年10月～11月の1週間調査結果より)

便別の平均利用者数のうち4人未満の路線は、西根エリアでは寺田2(陸中野口～平館駅)、松尾エリアでは温泉郷シャトルバス、大花森3(おらほの温泉～市役所)、前森1と2(おらほの温泉～市役所)と、安代エリアはすべての路線が2人以下となっている。0人の便も少なくない。

表 4-10 コミュニティバスの1便平均利用者数

No.	路線	名称	起点	終点	発時間	1便平均利用者数	経路
1	平笠・田頭	-	営業所	おらほの温泉	9:00	10.0	八幡平営業所～田頭町～市立病院～市役所～おらほの温泉
			おらほの温泉	営業所	12:00	5.0	
2	東大更	-	西根総合支所	市役所	7:40	6.0	西根総合支所～東大更駅～市立病院～市役所
			市役所	西根総合支所	12:05	4.0	
3	寺田1	西根団地	西根団地	おらほの温泉	7:25	6.0	西根団地～平館駅～市役所～西根総合支所～大更駅～おらほの温泉
			西根団地	おらほの温泉	14:30	3.0	
			おらほの温泉	西根団地	10:57	7.0	
			おらほの温泉	西根団地	16:30	2.0	
4	寺田2	陸中野口	陸中野口	平館駅	6:19	2.0	陸中野口～平館駅
			平館駅	陸中野口	18:45	2.0	
5	若谷地	-	岩手町黒内	おらほの温泉	9:58	8.0	岩手町黒内～市役所～市立病院～おらほの温泉
			おらほの温泉	岩手町黒内	14:15	2.0	
6	大花森1	温泉郷シャトルバス	東八幡平病院	東八幡平病院	9:15	0.2	東八幡平病院～別荘地～東八幡平病院
			東八幡平病院	東八幡平病院	12:00	0.6	
			東八幡平病院	東八幡平病院	17:30	0.4	
7	大花森2	東八幡平病院	市役所	東八幡平病院	7:30	4.0	市役所～大花森～市役所～田頭町～市立病院～東八幡平病院
					12:45	4.0	
8	大花森3	おらほの温泉	おらほの温泉	市役所	15:23	1.0	おらほの温泉～市立病院～平館駅～大花森～市役所
9	前森1	おらほの温泉	おらほの温泉	市役所	7:50	2.0	おらほの温泉～大更～市立病院～市役所
10	前森2	おらほの温泉	市役所	おらほの温泉	13:40	2.0	市役所～平館駅～市立病院～大更駅～おらほの温泉
11	前森3	循環	市役所	市役所	8:26	7.0	市役所～東八幡平病院～田頭町～市役所
			市役所	市役所	11:30	6.0	
12	前森4	立石	おらほの温泉	立石	14:58	5.0	おらほの温泉～市立病院～平館駅～東八幡平病院～立石
13	荒沢1	五日市・浅沢	土沢	安代総合支所	7:28	1.3	石上上～五日市～荒屋新町駅～安代総合支所
			石神上	安代総合支所	10:13	2.3	
			石神上	安代総合支所	14:45	0.2	
			安代総合支所	石神上	10:03	0.6	
			安代総合支所	石神上	14:00	1.8	
14	荒沢2	横間・曲田	横間公民館前	安代総合支所	8:48	0.9	横間公民館前～安代総合支所
			横間公民館前	安代総合支所	11:45	0.0	
			安代総合支所	横間公民館前	8:35	0.0	
			安代総合支所	横間公民館前	11:30	0.4	
15	荒沢3	細野・赤坂田	黒沢	安代総合支所	9:20	1.5	黒沢～赤坂田駅前～安代総合支所
			黒沢	安代総合支所	13:40	0.0	
			安代総合支所	黒沢	9:00	0.0	
			安代総合支所	黒沢	12:30	1.0	
16	浄法寺	-	荒屋新町駅	浄法寺駅	6:40	2.8	荒屋新町駅～土沢～浄法寺駅
			荒屋新町駅	浄法寺駅	19:25	0.0	
			浄法寺駅	荒屋新町駅	7:15	0.8	
			浄法寺駅	荒屋新町駅	18:40	3.5	
17	田山1	長者前・石名坂	長者前公民館	田山診療所	7:56	1.0	長者前公民館～田山小学校前～田山診療所(月水金)
			田山診療所	長者前公民館	10:10	1.0	
18	田山2	瀬ノ沢・石名坂・苗代沢	瀬ノ沢	田山駅前	7:56	1.0	瀬ノ沢～田山駅前～田山診療所～田沢橋～田山診療所～田山駅前(火木金)
			瀬ノ沢	田山駅前	8:40	1.0	
			田山駅前	瀬ノ沢	10:47	1.0	
19	田山3	館市・兄畑・兄川	上兄川	田山診療所	9:30	0.4	上兄川～館市～田山駅前～田山診療所(月火金)
			田山診療所	上兄川	11:30	0.0	
20	田山4	午後・予約バス	デマンド			1.0	当日12時前に予約して利用するデマンド運行
21	田山5	駅まちバス	デマンド			1.0	花輪方面からくるJR花輪線の田山駅着14:59に合わせて利用者がいる場合に運行する

(4) バス停別の延べ乗降数 (2023年10月～11月の1週間調査結果より)

2023年10月下旬から11月上旬にかけて月曜日から金曜日までの5日間の乗車記録を集計し、バス停別に延べ乗降数を集計した。

全バス停の約半数が0人で、利用のないバス停であり、1～5人は41%であり、9割近いバス停が利用がないか、少ないバス停であった。

表4-11 5日間の延べ乗降数

バス停	延べ乗降数
11～20人	256
森整形外科	29
根別橋	24
松川	23
おらほの温泉	20
平館コミュニティセンター	18
下平笠	17
七時雨憩の湯	16
陸中野口	14
田山駅前	14
大更	13
小柳田	12
八幡平市立病院	12
大更上町	11
浄法寺駅	11
八幡平市役所	11
平館クリニック	11

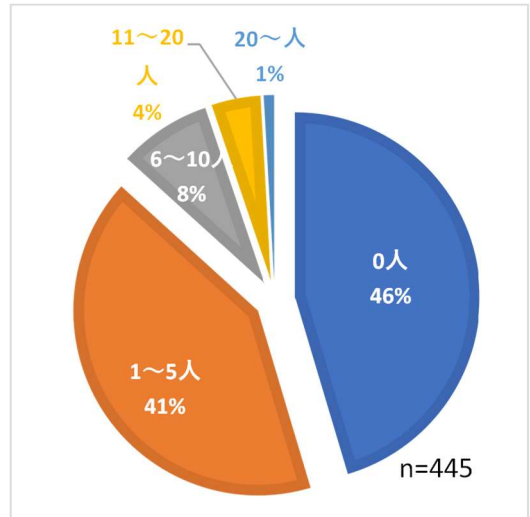
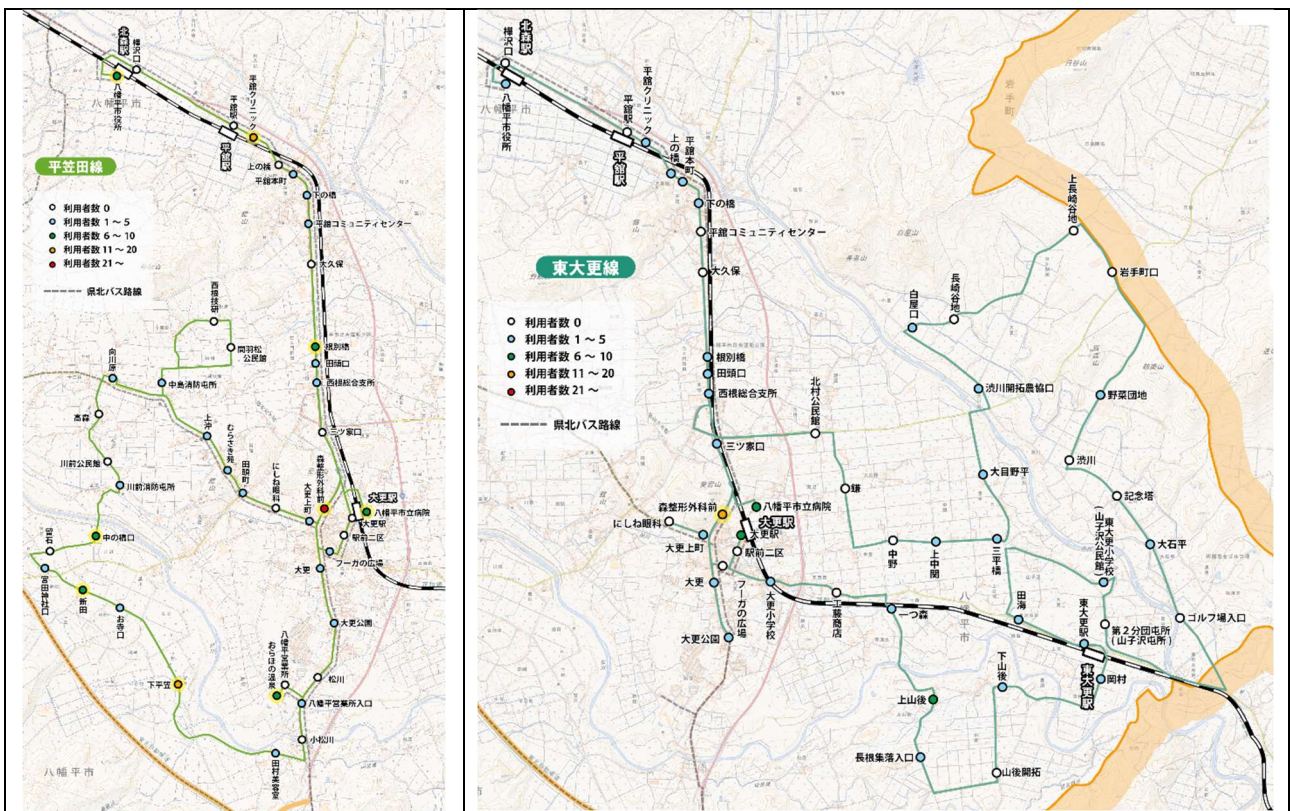
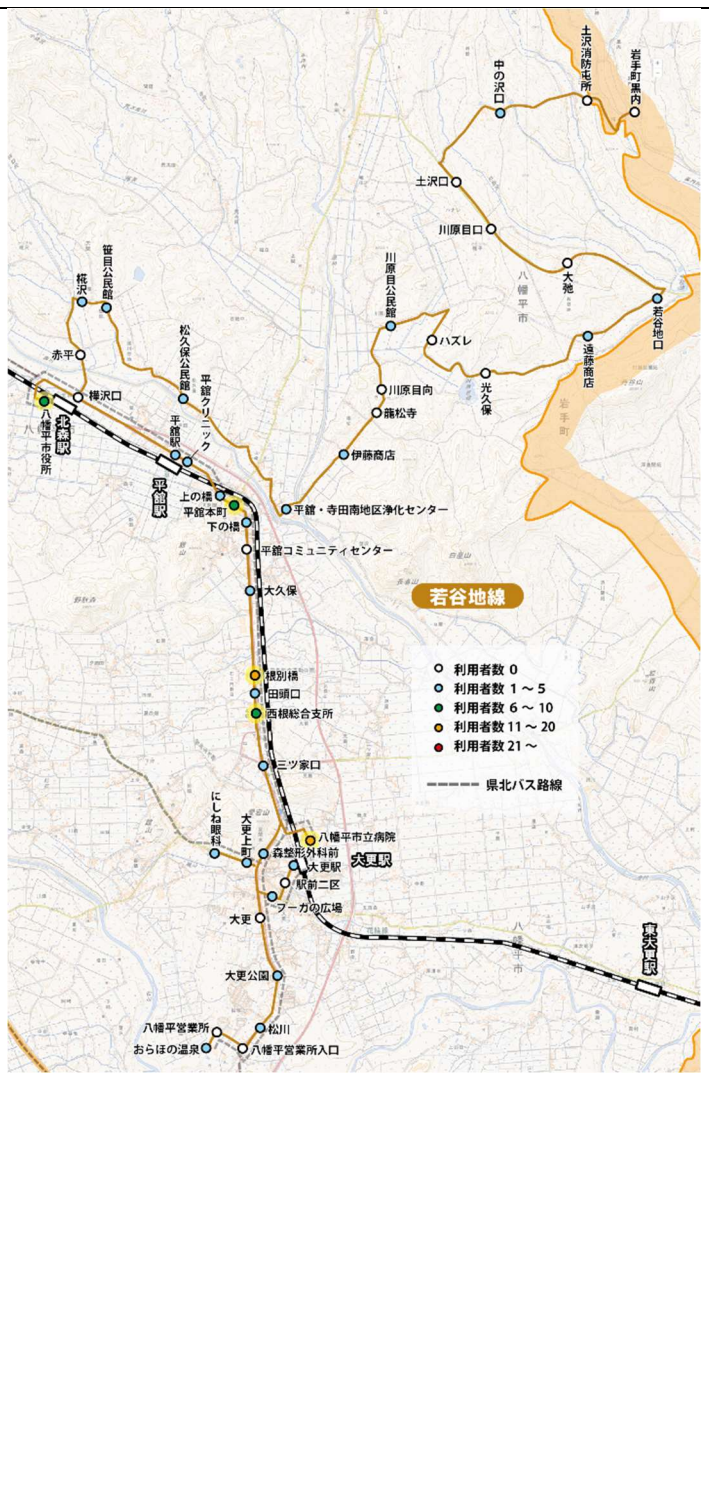


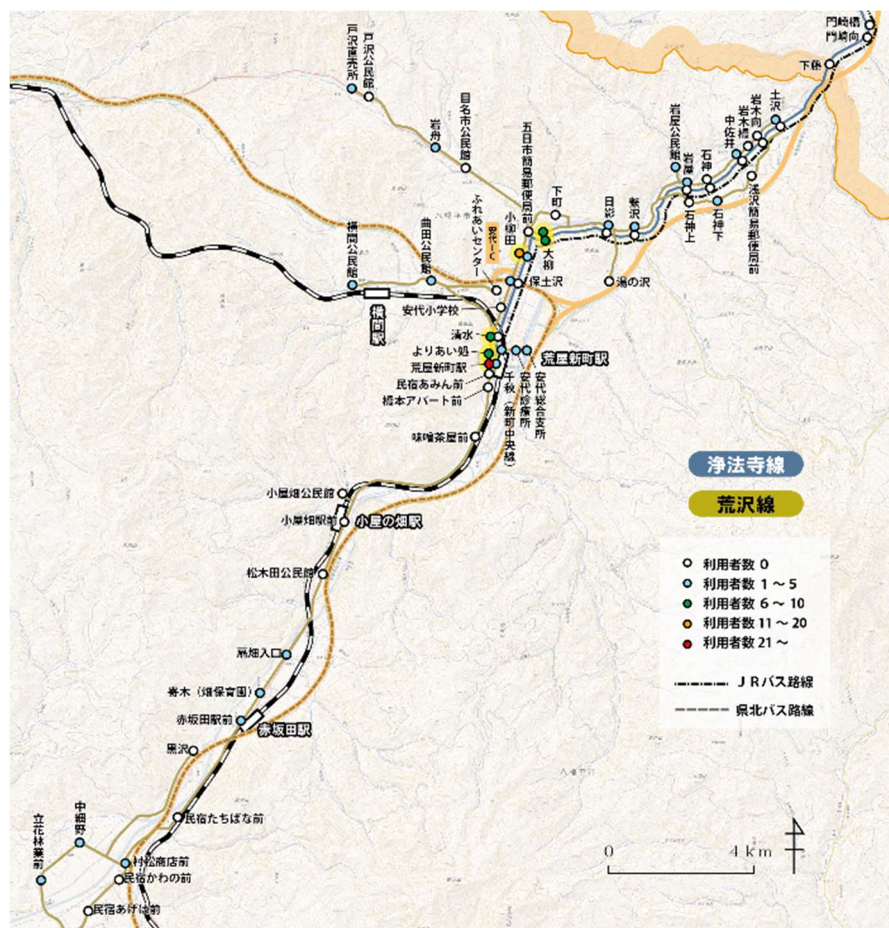
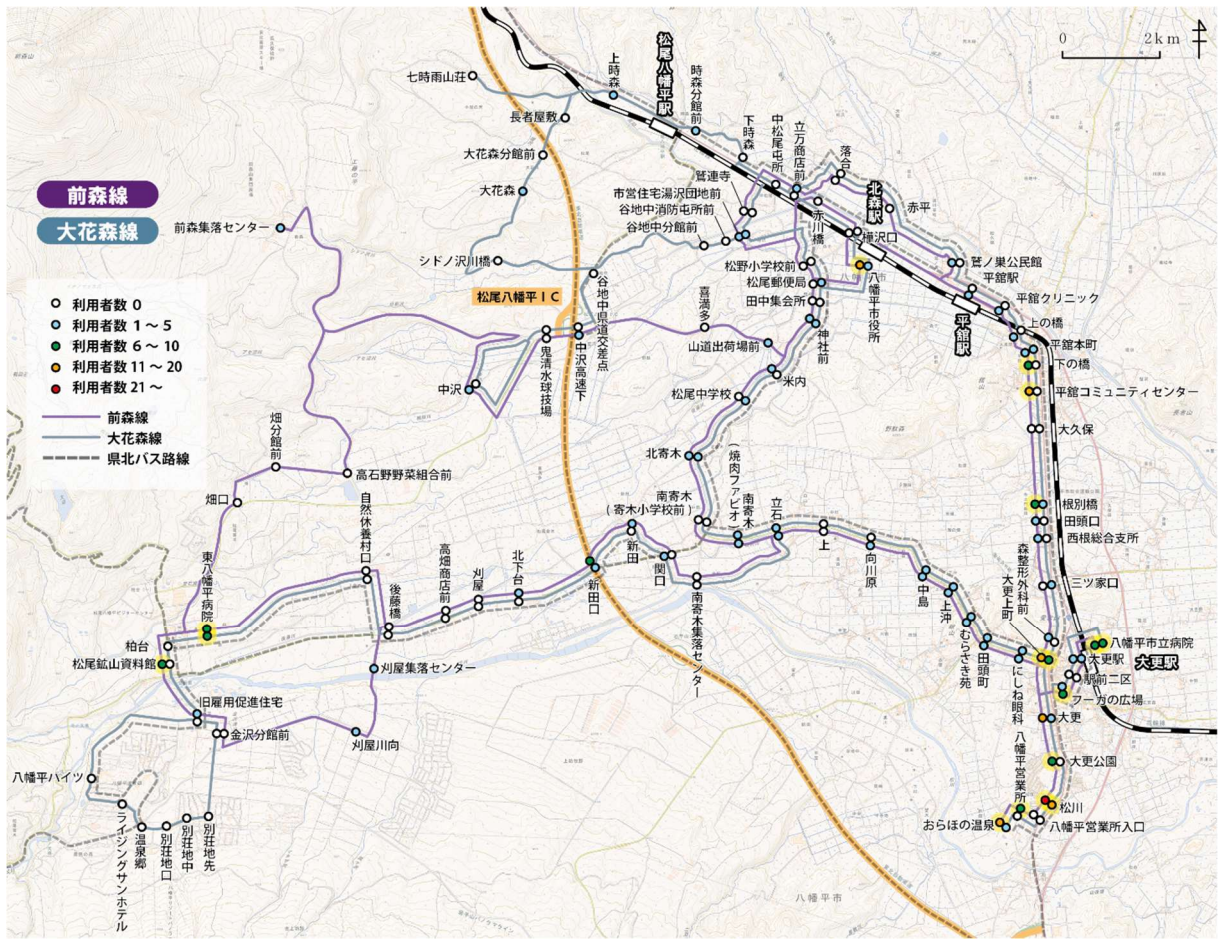
図4-19 延べ乗降数別のバス停割合

バス停	延べ乗降数
20人～	109
平館駅	29
森整形外科	28
松川	28
荒屋新町駅	24

(5 日間合計の乗降延べ人数別で色分けしたバス停)









(5) 収支状況

利用者数は減っている一方で、運行に係る市負担額は増加し、2022年度は合計9千万円に上る。利用者一人当たりに対する市負担額は、西根・松尾エリアは3,208円、安代エリアは3,429円まで増えている。

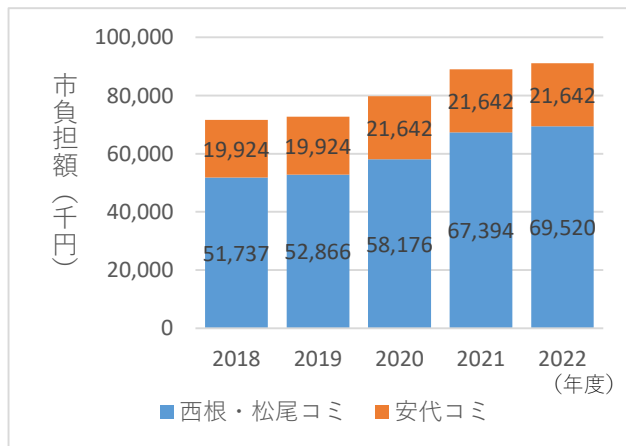


図 4-20 市負担額の推移

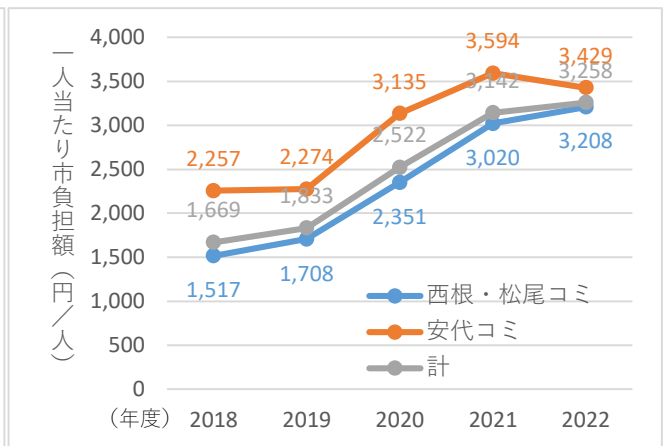


図 4-21 利用者一人当たりの市負担額

4-6 タクシー事業の現状（事業者ヒアリング結果より）

タクシー会社は西根・松尾地区に3社、安代地区に1社営業している。このうち西根地区に営業所がある1社は2023年に新規参入した事業者である。

通院や買い物だけでなく、通年を通してインバウンドや観光客の利用や、コミュニティバスやスクールバス等の運行も担っている。乗務員は高齢化しつつあり、今後インバウンドの回復を考えると乗務員不足が問題となるが、タクシー利用は時間的、シーズンのに混む時と暇な時の差が大きいことが安定的な雇用の課題となっている。

（営業時間） 西根・松尾：6:00～24:00（金、土曜日は25:00まで）。安代：7:30～21:00。

（利用状況） 病院への通院が多く、7:30～8:00と12時前後に集中する。大更～平館周辺の利用が多いが、松尾や安代方面から西根までの遠距離の利用ニーズもある。

（観光利用） グリーンシーズンは4～5月と9月が多い。スノーシーズンもスキー利用の来訪者の利用が多く、通年で利用はある。コロナウイルス流行以前は、中国や台湾からの外国人旅行者の利用も多かった。

（乗務員） 18名のうち、50代以下4名、60代9名、70代5名で、今後高齢化が心配される。

（課題） 利用が集中する時間帯と暇な時間帯のギャップが大きく、乗務員の雇用が難しい。ハロースクールの関係者やインバウンド利用者は、特大車両を希望するニーズもあるが、市内に車両が足りず、対応できない時がある（→2023年度は盛岡市内のタクシー会社の営業範囲拡大で対応済み）。

表 4-12 市内の乗用旅客事業者の概要

交通事業者	車両台数	乗務員	営業所	その他の業務
有限会社安代観光タクシー	普通2	6名	荒屋	安代地区コミバス
有限会社平館タクシー	特大2 大型1 普通9	5名	平館、大更、松尾	言葉の教室送迎(松野小)
西根観光タクシー株式会社	特大1 普通5	3名	大更	スクールタクシー 言葉の教室送迎(大更小)
小川タクシー株式会社	特大2 普通5	4名	大更	西根地区スクール



写真 大更駅前ロータリーで待つタクシー車両

4-7 観光交通の現状

- ◇ グリーンシーズンは盛岡から八幡平・安比高原へ、スノーシーズンは盛岡、花巻空港から八幡平・安比高原への直通バスが運行されている。
- ◇ 八幡平温泉郷から安比高原スキー場への移動手段などは各宿泊施設が担っており、夜を含め市内の移動手段が不足している。観光エリアはタクシー会社のあるまちなかから離れており、観光シーズンにはタクシーも不足する状況が発生している。
- ◇ 2023 年からは安比高原周辺では観光ツアー客を対象とした地域内の送迎目的の自家用有償旅客運送が始まっている。

(1) 観光交通の現状

春から秋までのグリーンシーズンは盛岡駅から八幡平温泉郷周辺への直通バスが観光協会や市の支援も受けて運行されている。スノーシーズンは盛岡駅や花巻空港から安比高原へシャトルバスが運行されている。

しかし、八幡平温泉郷内の移動や八幡平温泉郷から安比高原周辺への移動に使える路線バスはなく、タクシー会社がある西根周辺からも遠いためタクシー利用がしにくい状況となっている。また、夜間に宿泊施設と市内の市街地の移動手段もない。2019～2020 年にかけてナイトシャトルバスが運行されたものの、新型コロナウイルス感染防止対策の影響により中断し、現在も復活していない。

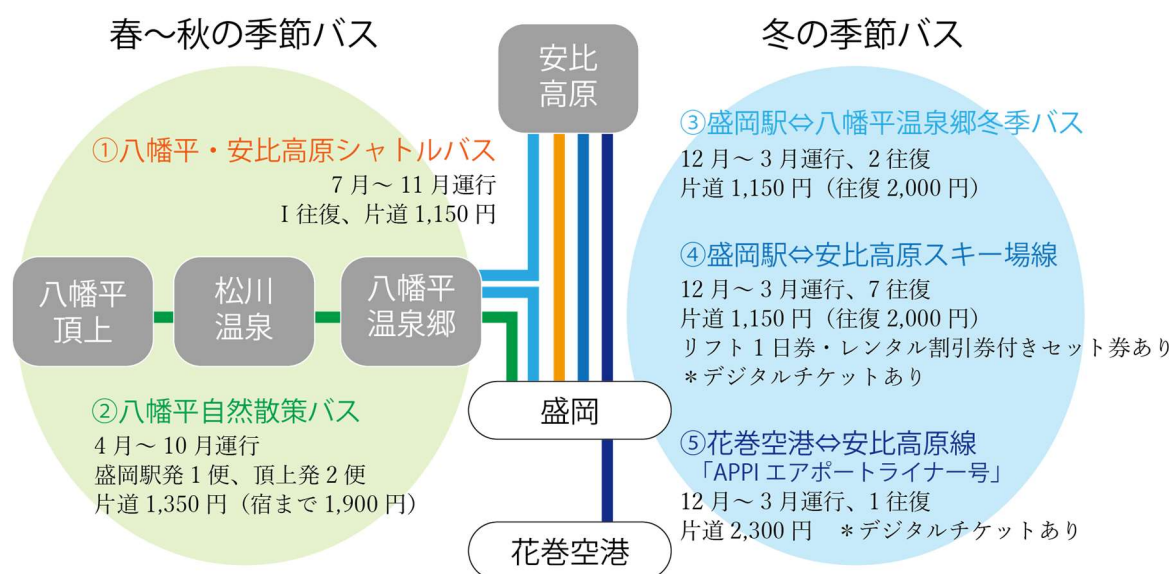


図 4-22 季節運行の観光交通

表 4-13 路線の概要

No.	名称	運営主体	運行事業者	備考
①	八幡平・安比高原シャトルバス	岩手県北自動車		市の補助あり
②	八幡平自然散策バス	(一社)八幡平市観光協会	岩手県北自動車	市の補助あり
③	盛岡⇄八幡平温泉郷冬季バス	岩手県北自動車		市の補助あり
④	盛岡駅⇄安比高原スキー場線	岩手県北自動車		
⑤	花巻空港⇄安比高原線	岩手県北自動車		

資料：ナイトシャトルバス（2019-2020年運行）

Hachimantai CUISINE
2019-2020
ENGLISH / 繁體中文

Published by Hachimantai DMO Inc. December 2019 Published

Night Shuttle Bus between Hachimantai Onsenkyo and Obuoka
八幡平温泉観光バス夜間運行ダイヤ

Route Table - one way					
From	To	Start	End	Frequency	Remarks
八幡平温泉	大湯温泉	18:00	19:00	10	10分間隔
大湯温泉	八幡平温泉	19:00	20:00	10	10分間隔

Hachimantai Guide Map

Night shuttle bus between Appri and Obuoka
安比高原観光バス夜間運行ダイヤ

Route Table - one way					
From	To	Start	End	Frequency	Remarks
安比高原	大湯温泉	18:00	19:00	10	10分間隔
大湯温泉	安比高原	19:00	20:00	10	10分間隔

Downtown Obuoka Local Cuisine Tour
大湯温泉散策

2024年1月7日 - 2024年3月8日

2024年1月7日 - 2024年3月8日

2024年1月7日 - 2024年3月8日

Appri Kogen area to the restaurant and bar area

From	To	Start	End	Frequency	Remarks
安比高原	大湯温泉	18:00	19:00	10	10分間隔
大湯温泉	安比高原	19:00	20:00	10	10分間隔

(2) 交通空白地有償運送（安比高原自然ツアーズ）

安比高原周辺では市内の観光資源を生かした様々な体験プログラムを提供しているが、その移動のために観光事業者が自家有償旅客運送（交通空白地有償運送）の営業許可を取得し、2023年から実施している。

事業主体：安比高原観光輸送協議会

登録年月日：2023年7月12日

運送の区域：八幡平市（高畑、寺志田、細野、安比高原、松尾、平笠、松尾寄木、柏台、緑ヶ丘）

旅客の範囲：安比高原自然ツアーズのプログラムガイドツアーの参加者

車両台数：普通自動車1台

(ツアーの例)



2023/4/28 - 2023/11/5
中のまきと平弁の森林浴ツアー
※今シーズンのツアーは、終了致しました。



2023/7/1 - 2023/11/5
プライベートガイド安比エコツアー
※今シーズンのツアーは、終了致しました。



2023/9/16 - 2023/11/5
学んで感じる安比高原・八幡平紅葉めぐり【トレッキング】
※今シーズンのツアーは、終了致しました。

資料：安比高原スキー場公式ホームページより

4-8 移動に関わる支援

(1) 福祉的移送サービス「福祉タクシー助成券」

市は、重度の障がいがある在宅者で、自動車税などの減免を受けていない人に対して、タクシー料金の一部を助成している。年間1,244千円の助成実績となっている。

また、障がい者手帳所持者のうち、一定の要件を満たす方は鉄道や路線バス、コミュニティバス、高速道路の利用料金についてはいずれも5割引きになる。

【対象者】	身体障害者手帳所持者等で自動車税の減免を受けていない人
【助成内容】	1枚600円のタクシー券を月2枚まで交付
【実績】	交付者数162人（使用者数124人）、 交付枚数3,604枚（使用枚数2,134枚、使用率59%） 使用金額1,244千円

(2) 運転免許を自主返納者への支援制度

市は、2019年からコミュニティバスを1年間半額で利用できる支援策を実施してきたが、2023年4月からは運転免許を自主返納した75歳以上の市民を対象に市コミュニティバス回数券またはタクシー券いずれか1つを交付している（1人につき1回限り）。

【対象者】	運転免許センターや警察署などで運転免許の自主返納した人
【交付種類】	市民バス回数乗車利用券 10,200円分、タクシー券 10,000円分のいずれか

(3) 通学定期券購入費補助金

市は、公共の交通機関を利用して高等学校等へ通学する生徒等に対して、家庭の経済的負担の軽減を図り、子育てを支援することを目的として通学定期券購入金額の10%を補助している。

【対象者】	鉄道およびバスの通学定期券を利用して、小学校、中学校、高等学校等に通学する生徒の保護者 *専門学校、大学は対象外
【補助金額】	定期券購入費の10%
【補助方法】	定期期間が満了した定期券の購入証明と申請書兼請求書を提出し、補助を受ける。

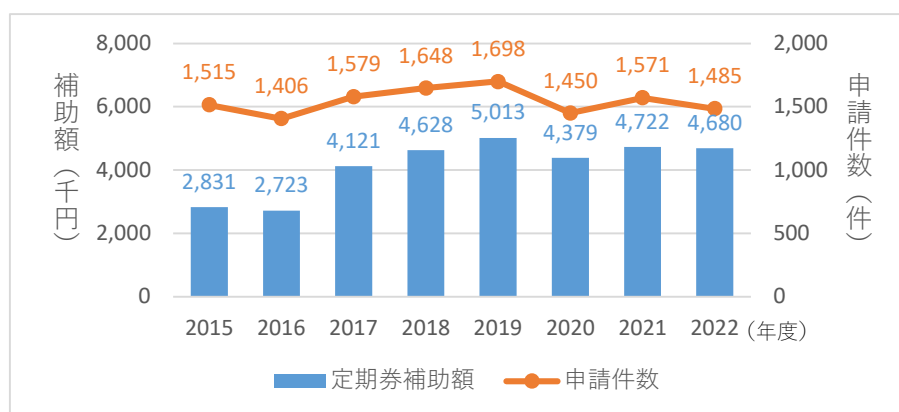


図 4-25 市の定期券補助額と申請件数の推移

資料：八幡平市資料

(4) 小学校・中学校スクールバス

市内の小学校と中学校のスクールバスは、3 地区毎に運行されており、車両台数は計 16 台、運行に係る市の負担額は約 5,100 万円に上る。路線バスやコミバスとの混乗運行により運行の効率化が期待される。

表 4-14 市内の小学校、中学校スクールバスの概要

地区	対象児童数	車両台数	運行方法	運行委託費 (千円)	燃料費等 (千円)	合計 (千円)
西根	87 人	5 台	委託	24,785	-	24,785
松尾	70 人	5 台	市直営	-	5,423	5,423
安代	81 人	7 台	委託	14,704	6,581	21,286
合計	238 人	16 台	-	39,490	12,005	51,495

注：2022 年度実績、費用については 100 円以下切り捨て表示

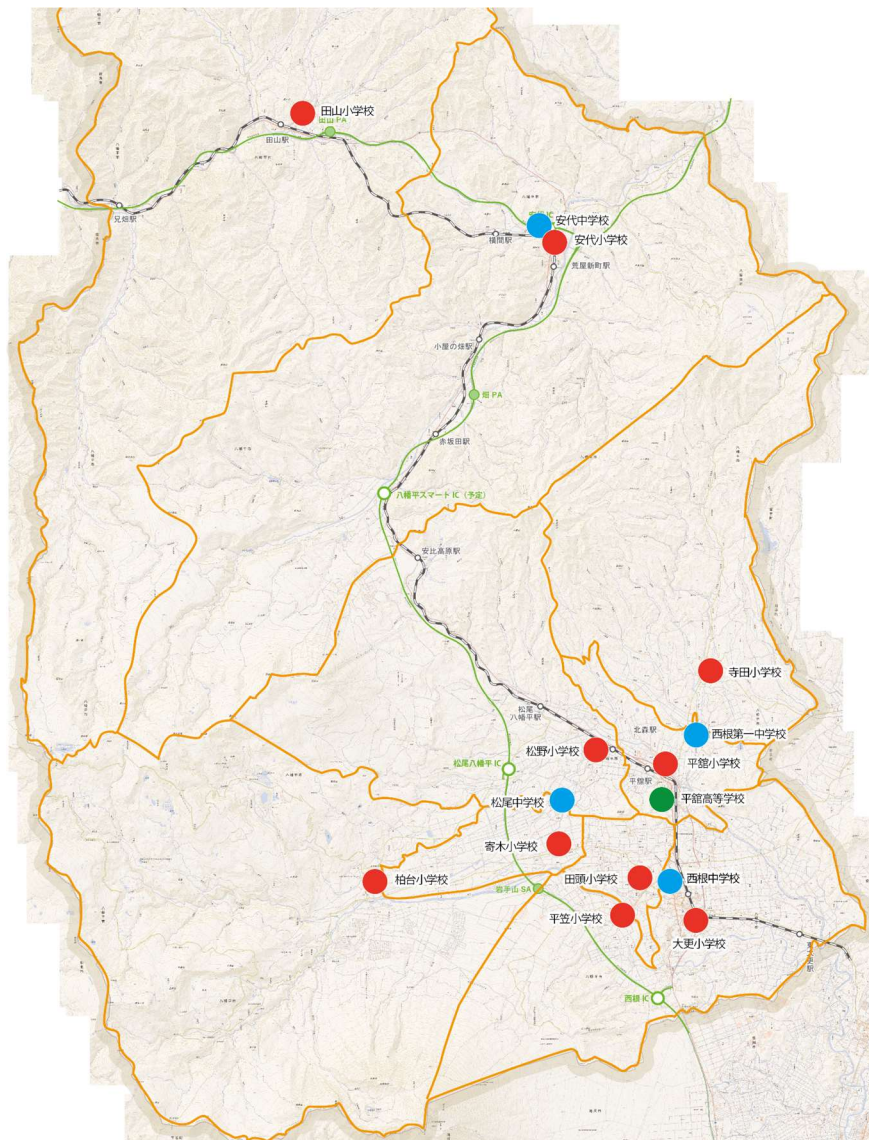


図 4-26 学校の位置と小学校区域

5. 住民の外出状況とニーズ

5-1 市民アンケート調査

(1) 調査の目的

「八幡平市地域公共交通計画」の策定に資するために、市内の公共交通の利用状況や意向などを把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

調査対象…八幡平市に住民登録がある16歳以上の市民(無作為抽出により2,100人抽出)

調査方法…郵送配布～郵送回収およびGoogleフォームによるオンラインアンケートを併用

調査期間…配布:2023年11月14日～回収:2023年11月27日

回収率…2,100人に配布し、回答は787票得られた。未達が16票あり、それを除くと回答率は37.9%である。そのうち229票がオンラインによる回答であり、回答全体の29%を占めた。

(2) 自動車の免許保有状況

運転をしている人の割合(運転率)は全体では75%であるが、男性が85%に対して、女性は66%と低い。

年代別にみると、男性は80歳以上が47%に対して、女性は80歳以上は14%に留まる。しかし、女性の70代は66%と過半数を超えて高くなっており、今後は80代以上でも現在より高くなることが予想される。

免許返納は全体で4%だが、80歳以上は男性で21%、女性で14%と高くなっている。

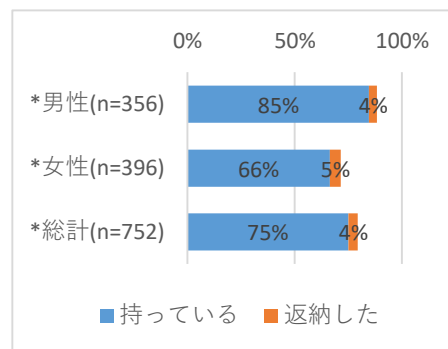


図 5-1 免許保有率

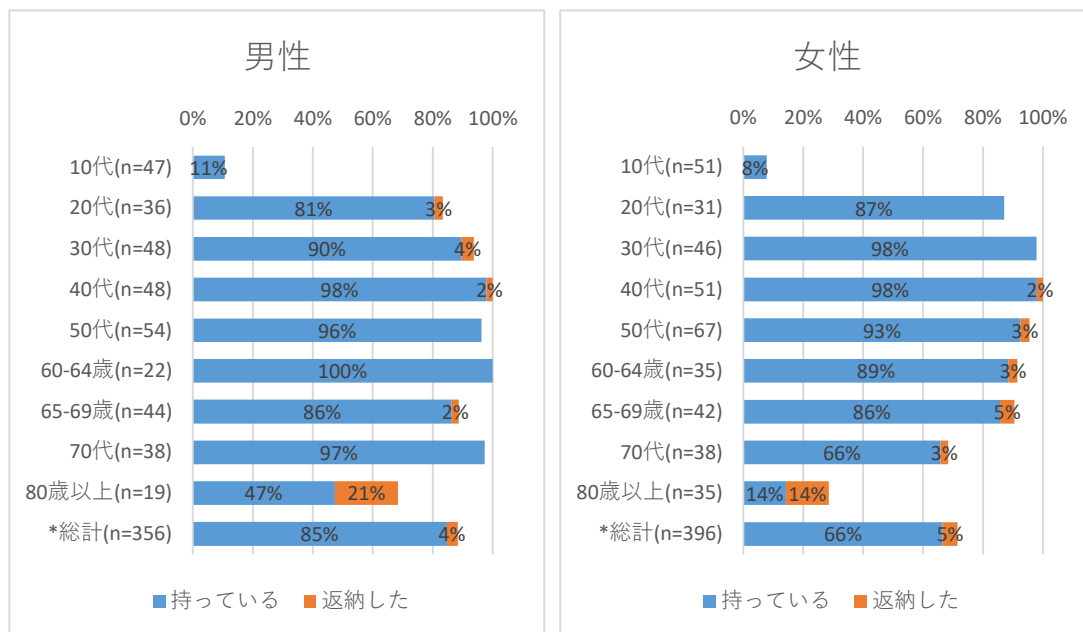


図 5-2 自動車運転免許の保有率と返納率

(3) 目的別の外出先

通院先としては、「盛岡市内の病院」が46%と最も多いが、次いで「八幡平市立病院(29%)」が多く、そのほかの八幡平市内の病院も10%前後を占めて市外よりは多い。

通勤先は西根地区内が29%、安代地区内が21%、松尾地区内が17%で、合わせて67%が八幡平市内に通勤している。次いで盛岡市内が16%、岩手町内が6%である。

地区によって通勤先に違いがみられる。それぞれ同地区内が最も多いが、それ以外を見ると西根地区は盛岡市内が24%、松尾地区は西根地区内が30%と多い。安代地区は鹿角市内や二戸市内などへの通勤もみられる。

通学先は、盛岡市内が51%を占めて最も多い。次いで、滝沢市内が15%を占める。

買い物先は西根地区内が83%を占めて最も多い。次いで、盛岡市内が51%を占める。

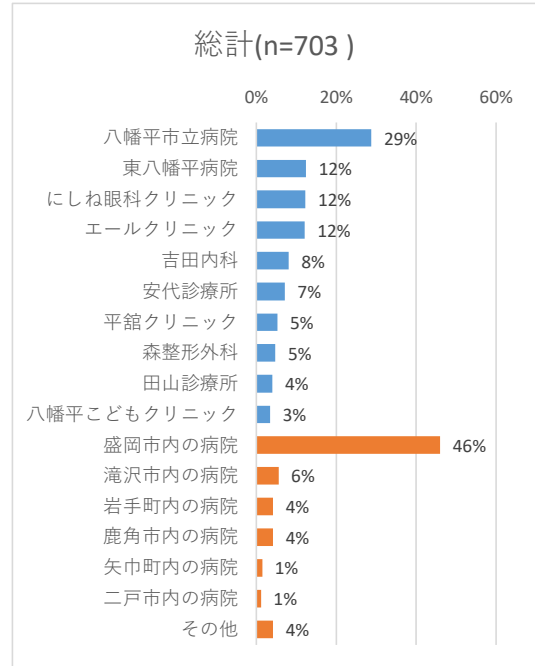


図 5-3 通院先

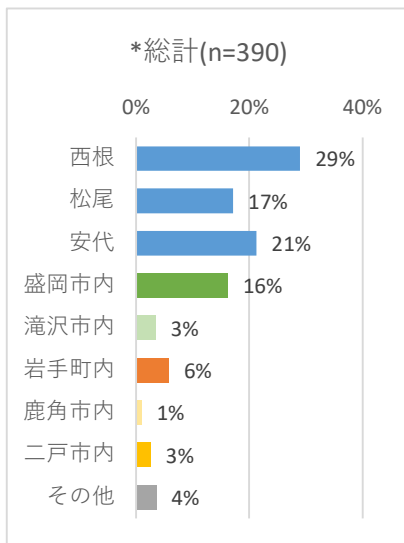


図 5-4 通勤先

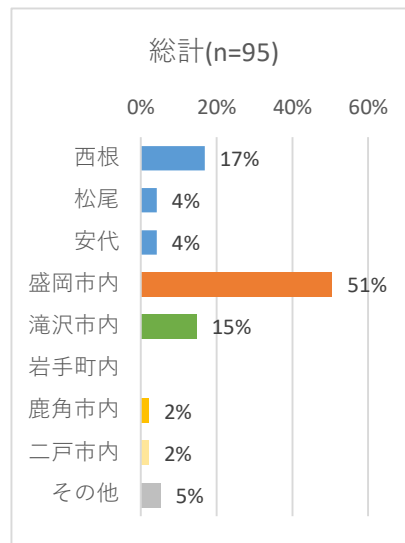


図 5-5 通学先

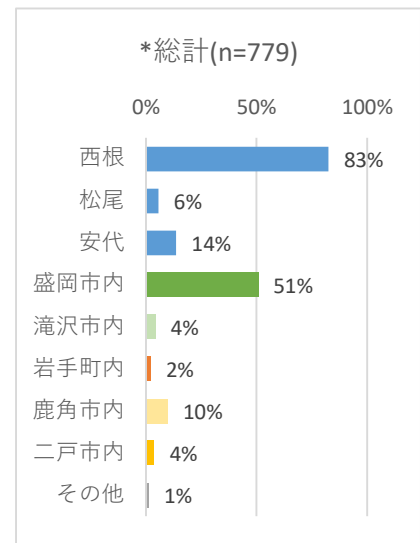


図 5-6 買い物先

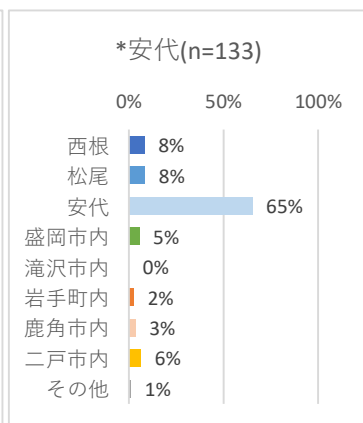
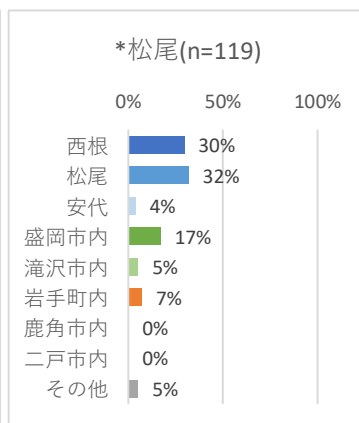
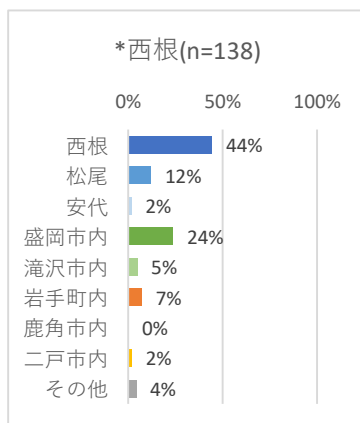


図 5-7 地区別の通勤先

(4) 公共交通の利用頻度

公共交通の中では、鉄道が最も利用頻度が高いが、「月に数回」以上を日常的な利用者とする、日常的に公共交通を利用している割合は全体では10%未満である。

年齢別にみると、10代は比較的公共交通の利用頻度は高く、鉄道は54%が「ほぼ毎日利用」しており、県北バスも10%いる。

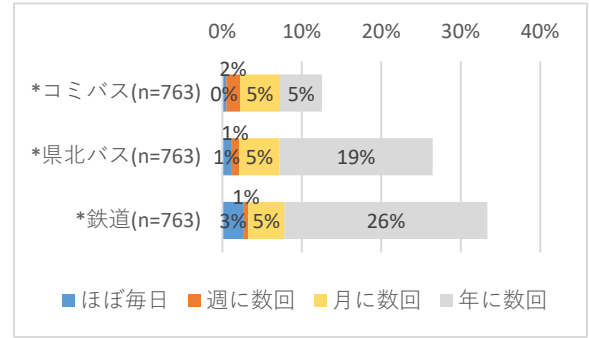


図 5-8 公共交通の利用頻度

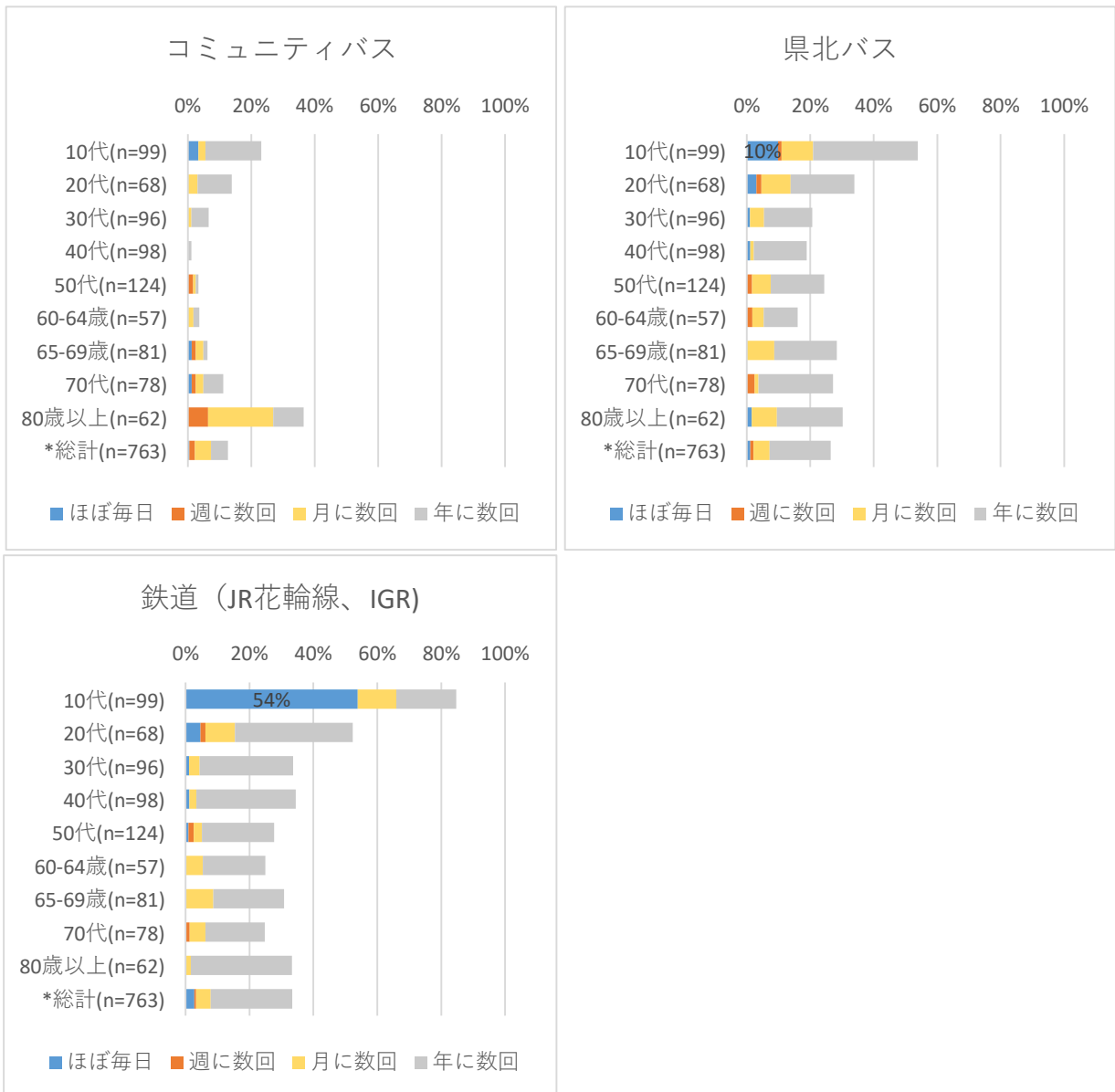


図 5-9 年齢別の公共交通の利用頻度

(5) 外出やおでかけを不便と感じるか

現在、不便に感じているかどうかについては「とても不便（14%）」と「少し不便（22%）」を合わせると不便に感じている割合は36%であり、不便と感じない54%の方が上回っている。

年代別にみると、公共交通を比較的に利用する10代、20代と80歳以上は不便を感じている割合が比較的高い。特に10代は約6割が不便を感じている。

10年後を想像したときに不便を感じるかについては、総計では42%が「とても不便」を感じており、「少し不便を感じる」を合わせると約7割が不便を感じているとしている。特に50代以上で不便を感じる割合が高くなる。

地区別では、安代地区が現在も約半数の人が不便を感じている。10年後も8割近い人が不便を感じるだろうと回答している。

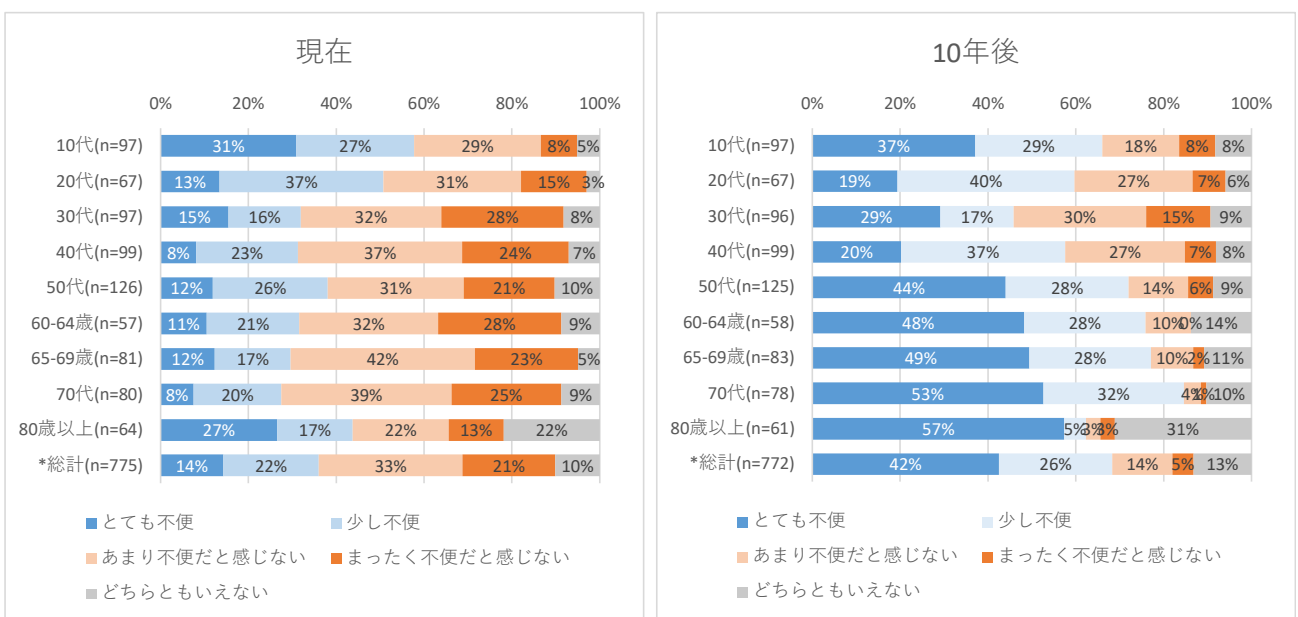


図 5-10 外出やおでかけを不便だと感じるか

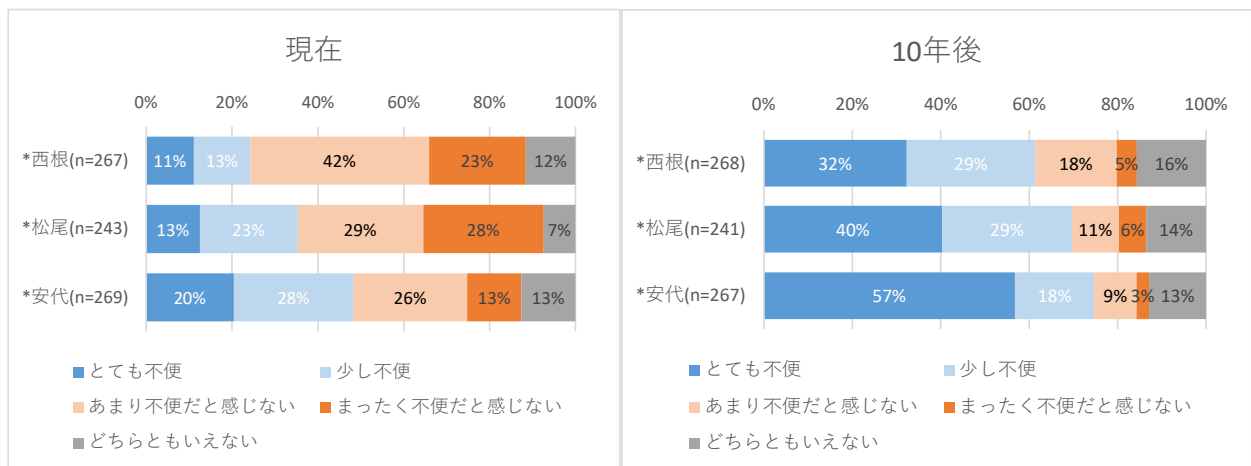


図 5-11 外出やおでかけを不便だと感じるか

(6) 外出やおでかけをしやすくするために取り組むべきこと

外出やおでかけをもっとしやすくするために取り組むべきことについて優先順位ごとに1つずつ選んでもらったところ、第1位として最も多かったのは「コミュニティバスを予約で利用できる乗合型タクシーにする(16%)」であった。第2位と第3位を合計すると全体の28%が選択している。

次いで第1位で多かったのは「コミュニティバスの運行時刻を改善する(11%)」である。次いで「免許返納を促進するために、返納者に対して公共交通利用券を配布する(10%)」が多いが、これは第2位と第3位を合計すると44%であり、半数近い人が選択している。

年代別にみると、10~20代は「鉄道とバスの両方を利用できる切符を売り出す」と「県北バスの時刻を改善する」が高く、他の世代と異なる回答となっている。

その他としては、「花輪線やバスの便数を増やしてほしい」や「コミバスのバス停を増やす、予約制にする」という意見が出された。

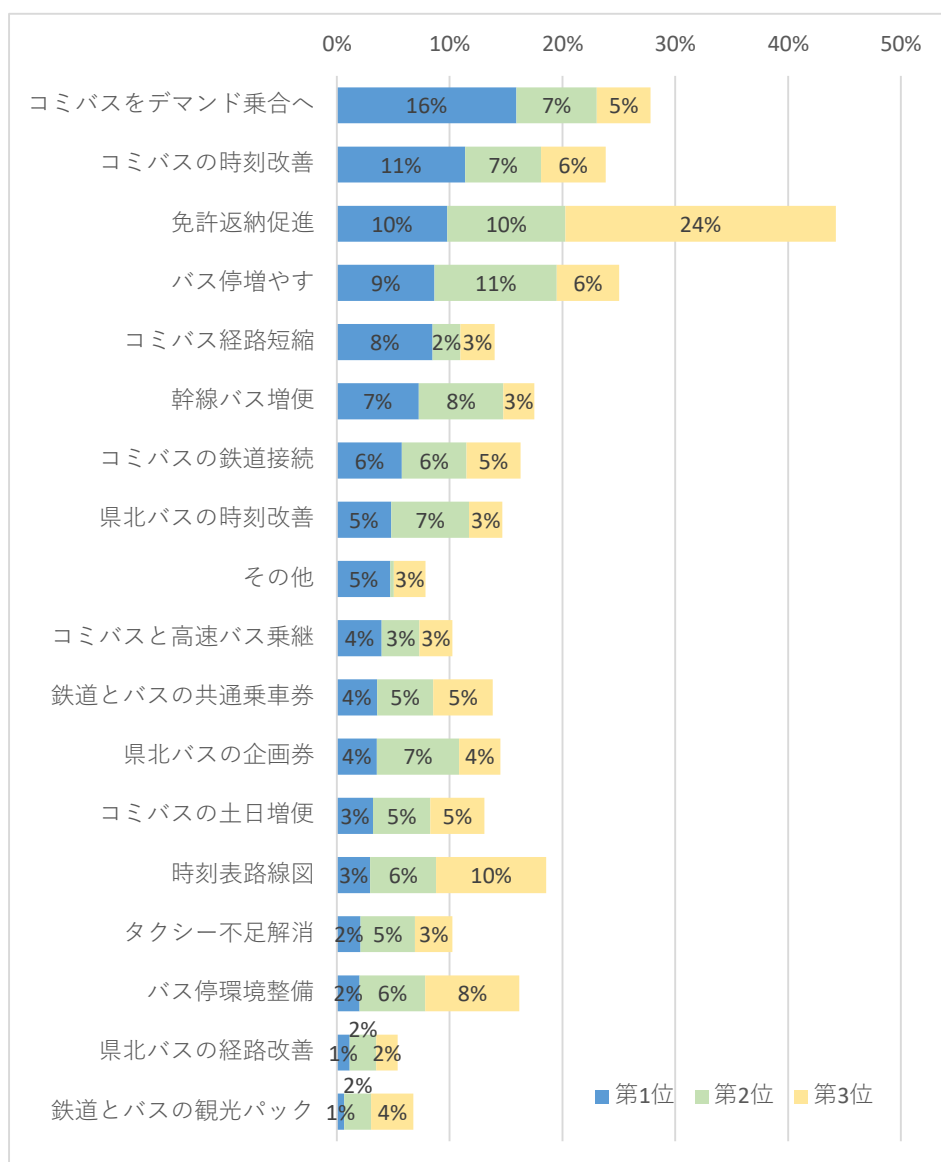


図 5-12 改善希望

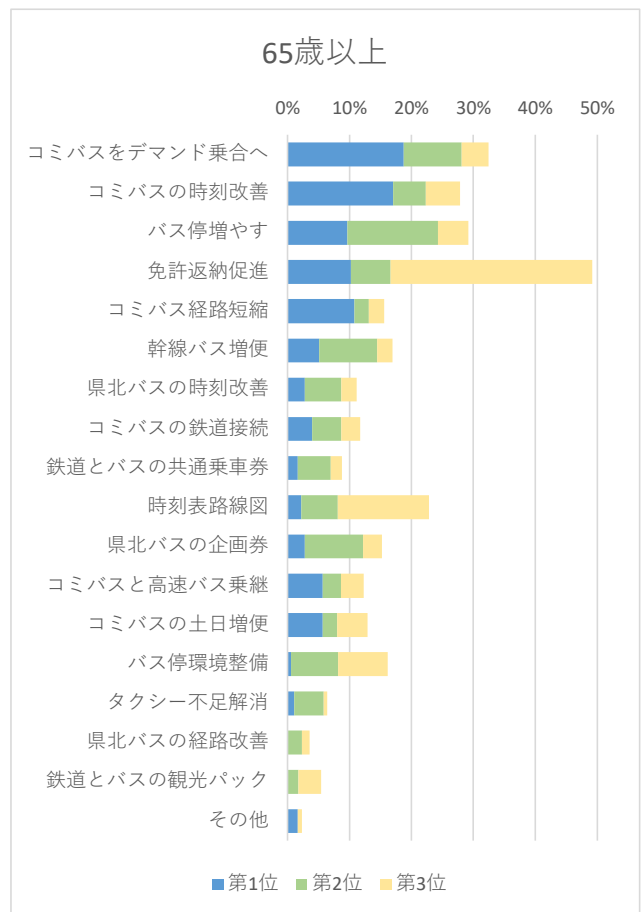
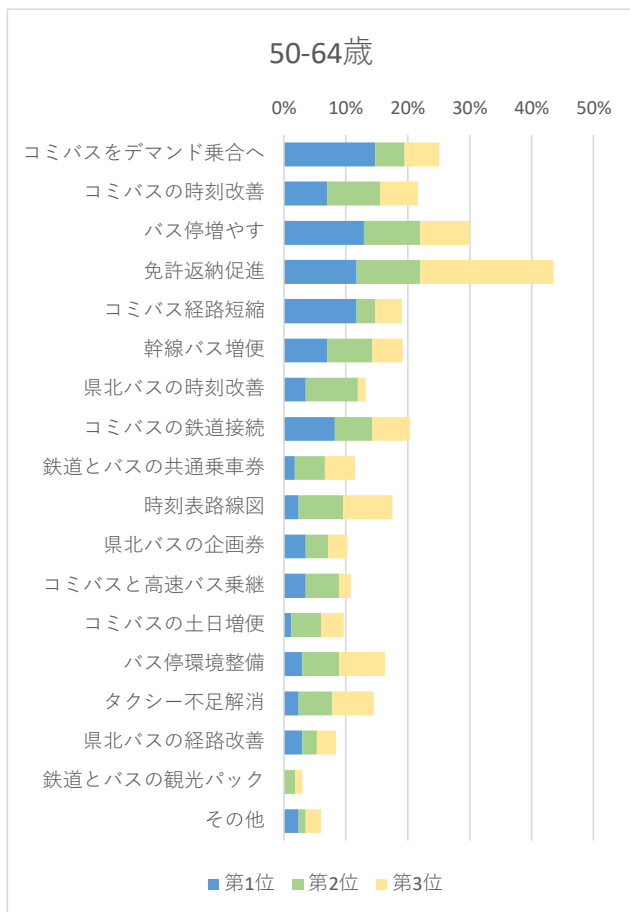
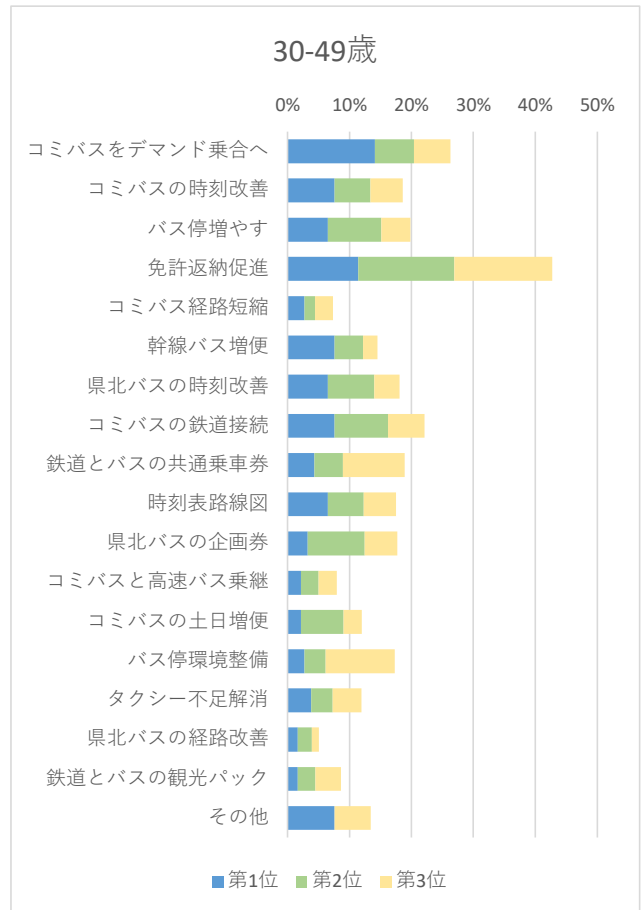
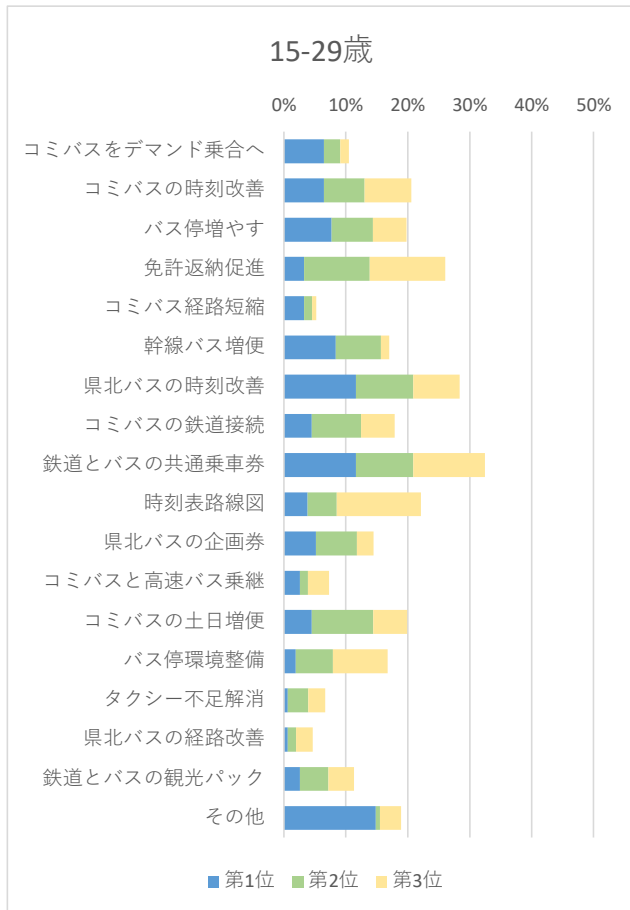


図 5-13 年代別の改善希望

(7) 自由回答

外出やおでかけをもっとしやすくするために取り組むべきものの詳細についての自由記載をキーワードによる分類集計を行った結果、「鉄道は必要」や「鉄道を増便して欲しい」という意見が最も多く出された。次いで、「コミュニティバスの改善が必要」という意見が多く出された。内容としては、「コミュニティバスの便数が少ない」や「安比高原など来てないところにも来て欲しい」、「小型にして枝道にも来て欲しい」などの意見が寄せられた。

表 5-1 自由意見の分類集計

キーワード類型	回答数
鉄道は必要、増便して欲しい	30
コミュニティバスの改善が必要	21
タクシーの活用やタクシー券配布がよい	16
買い物等生活拠点づくりが必要	14
バス停が遠い	12
配送や配達サービスの充実	10
運転免許を返納したあとが不安	10
バスを増便して欲しい	9
デマンド型乗合タクシーがよい	8
公共交通は必要	8
住民等による互助送迎がよい	6
市外に行けるバスがよい	6
バス待ち環境の充実が必要	5
観光交通の充実が必要	5
鉄道とバスの接続性をよくする	5
運賃の見直しやサポートが必要	5
公共交通の情報発信の充実	3
幹線バスの増便等充実	3
利用しやすい車両にしてほしい	3
外出促進の取り組みが必要	3
買い物ツアーバスがよい	3
丁寧な乗務員対応をして欲しい	2
その他	28
道路環境の改善が必要	22
合計	237

5-2 住民ヒアリング調査

(1) 調査の概要

自動車の運転免許を持たない人や返納を想定されている人の外出の実態や困りごとを把握するために市内の集会所等で開催されている福祉サロンの参加者に対して調査員による聞き取り調査を行った。

(調査の概要)

- 調査方法 市内 10 か所で開催された福祉サロンにおいて調査員による対面ヒアリング
- 調査対象 西根地区 5 か所、松尾地区 2 か所、安代地区 3 か所、計 10 か所のサロン
- 対象者 サロン参加者 70 名
(自動車の運転免許あり 36 名、なし 34 名)
- 調査期間 2023 年 11 月 27 日～12 月 7 日



写真 ヒアリングの様子

(2) 外出の実態

地区や集落によって外出先に違いがみられる。西根地区は盛岡方面や岩手町内の病院に通院している人がいるが、家族の送迎が多く、公共交通の利用度は低い。安代地区は鹿角市方面の病院やスーパーに買い物をしており、JR 花輪線や高速バスが利用されている。

表 5-2 特徴的な外出先と移動方法

地区	集落	特徴的な外出先	特徴的な移動方法
西根	大更	【通院】盛岡市内の病院 【買い物】マックスバリュ、葉王堂 【その他】七時雨老人いこいの家	・老人憩いの家は友人に乗せてもらっていく。
	西根寺田	【通院】エールクリニック、岩手町内 【買い物】ユニバース 【その他】七時雨老人いこいの家	・夏場は自分でバイクで行く。 ・コミュニティバスがあるが、バス停まで歩けない。 ・バスで行っても、帰りは荷物があるのでタクシー。
	田頭	【通院】エールクリニック、盛岡市内の病院 【買い物】生協の共同購入、マックスバリュ	・車を持っている家族が送迎してくれる。 ・買い物も娘や孫が買ってきてくれる。
	平舘	【通院】市立病院、岩手町内 【買い物】ユニバース、渋民イオン 【その他】盛岡の民謡サークル、弟の家	・平舘駅は遠いので、JRは使わない。 ・盛岡に住む息子が週 1 回送迎してくれる。
松尾	野駄	【通院】東八幡平病院、吉田内科、盛岡 【買い物】葉王堂 【その他】七時雨温泉、松川温泉	・夏場は自転車で行けるが、冬はコミバスを使う。帰りは時間が合わないのでタクシーで帰ってくる(810 円)。 ・買い物は、週に 1 回子どもたちが買ってくる
	松尾寄木	【通院】東八幡平病院、岩手町内 【買い物】生協の共同購入 【その他】盛岡方面に月数回程度	・路線バスで盛岡に行く。 ・タクシーは迎車料金が必要。 ・循環バスは使いづらい。
安代	荒屋新町	【通院】安代診療所、盛岡市内の病院 【買い物】市日、マックスバリュ、移動販売	・西根に行く時は JR 花輪線で行く。 ・盛岡方面に行く時にテトラックから高速バスを利用する。自宅からテトラックまでは徒歩で 30 分ほど歩く。
	石名坂	【通院】田山診療所、鹿角厚生病院 【買い物】田山地区内、鹿角のいこい 【その他】あずみの湯	・花輪線がなくなるといけないようになっている。乗るようになっている。 ・りんどう園が鹿角方面に月 2 回買い物バスを出している。 ・あづみの湯が月 1 回送迎バスを運行している。
	新興通り	【通院】田山診療所、鹿角厚生病院 【買い物】田山地区内、鹿角のいこい 【その他】あずみの湯	・田山駅周辺にお店があるので便利。 ・りんどう園の月 2 回の買い物バスを利用している。

(3) 外出環境の困りごとと課題

【西根地区】

- ◇ 田頭の個人商店がなくなった。(田頭)
- ◇ バスの時間が7:30発なので、着いても店も病院も銀行も開いていない(西根寺田)。
- ◇ 足の筋力が衰えて、車のエンジンがかかりにくくなってきたと感じる(西根寺田)。
- ◇ 最寄りコミバスまで普通の人は徒歩5分だが、足が悪くてバス停まで歩けない。(西根寺田)
- ◇ バスの時間が7:30発と早く、着いても店も病院も銀行も開いていない。
- ◇ コミバスのルートや曜日によって回る箇所を変えて、もっと集落の方に寄ってほしい(大更)

【松尾地区】

- ◇ 病院にコミバスで行って、帰りはタクシーを利用するときは、西根観光の営業所まで行って待つ(野駄)。
- ◇ コミュニティバスは帰りの時間が遅いので、病院帰りの昼前後にバスがもう1便あるとよい(野駄)。
- ◇ 循環バスは便数が少なく使いづらいのであまり利用しない。毎日でなくていいので、集落を分けてそれぞれ目的地に行けるように丁寧に運行して欲しい(松尾寄木)。
- ◇ ベルフ八幡平まで行けるといい。ベルフ八幡平にバス停があるといい(松尾寄木)。

【安代地区】

(生活環境)

- ◇ 荒屋新町の市日では牛乳、卵、豆腐が無い。ニコットも冷蔵庫が壊れていて牛乳が買えない。浄法寺まで買いに行く人もいる。(荒屋新町)
- ◇ 荒屋新町の市日や戸沢の産直に行きたいが、行く手段がなく諦めている。コミバス対応してくれたらありがたい。(石名坂)
- ◇ 週に数回でいいので買い物や市立病院にけるバスが欲しい。平館のマックスバリュ辺りなら、他の店もあるので時間が調整できる。(荒屋新町)

(公共交通の困りごと)

- ◇ 幹線バスは帰りの時間が14時で遅い。帰りの時間をもう少し早めるか、まちなかに安心して待てる場所があるといい。(新興通り)
- ◇ 高速バスの運賃は、田山～盛岡は1500円、田山～荒屋新町が600円で、荒屋新町までが高い。(石名坂)
- ◇ 高速バスが1時間に1本あるので使いやすいで、田山ICのバス乗り場がクマが怖い。(新興通り)
- ◇ コミュニティバスは時間が分からないので乗れない。(石名坂)
- ◇ 昔はコミュニティバスを利用していたが、ひざが悪くなって乗れなくなった。(石名坂)
- ◇ 鹿角厚生病院に8時の電車で行っても、帰りは15時を過ぎる。厚生病院から花輪駅に向かうバスが14時までない。(新興通り)
- ◇ JRの運賃が高く、花輪にもあまり行かなくなった。運賃で魚のパックがひとつ買える。(石名坂)

5-3 公共交通に関わる関係者ヒアリング調査

(1) 福祉関係

■西根地区の困りごと

- ・ 商業施設が比較的近いので、歩いたり自転車やシルバーカーを利用して移動している人が多い。
- ・ コミュニティバスを利用している人もいるが、バスはステップが高く、杖を使っている人や荷物を両手に持った状態で乗車は難しい。
- ・ ワクチン接種の来院もあるが、コミュニティバスで来ると本数が少ないので帰りの便までずっと待っている。
- ・ コミュニティバス停が屋内から見えないので、利用者は外のベンチで待っている。屋根がないので待合環境の整備が必要である。



市立病院前のバスを待つベンチ

■松尾地区の困りごと

- ・ 「今は大丈夫だけれど、将来は不安」と感じる人が多いのでは。運転が大変な人も増えてきた。
- ・ コミュニティバスは遠回りになるので、具合の悪いときは利用できない。

■安代地区の困りごと

- ・ 安代地区内の商業施設がなくなった。
- ・ 安比高原駅周辺にも幹線バスが止まってほしい。

(2) 観光関係

■困りごと：

- ・ 観光施設はタクシー会社から離れているため、観光客が呼んでもなかなか来ないという状況になっている。
- ・ 安比高原駅にレンタカーがない。バスも入って来ない。
- ・ 冬期の盛岡駅や花巻空港からの高速バスの運行を市と連携して行おうとすると、告知が時期的に間に合わない。
- ・ ナイトシャトルバスがコロナ以降復活していないため、宿泊客は夜にまちなかに行けない。

■観光交通に関する希望：

- ・ 高付加価値により、潜在需要を掘り起こす。
- ・ 高速バスの便数が多いので、岩手山サービスエリアを乗継拠点として高速バスから市内に入れる公共交通に接続させることで観光二次交通の充実を図れるとよい。
- ・ 自然散策バスなど盛岡駅から市内までの公共交通は重要で、今後も維持する必要がある。
- ・ 冬期に温泉郷から安比高原方面の移動があるといい。1日目は下倉スキー場で2日目は安比高原に行けるような周遊性を高めることが観光振興に重要である。

6. 地域公共交通の課題

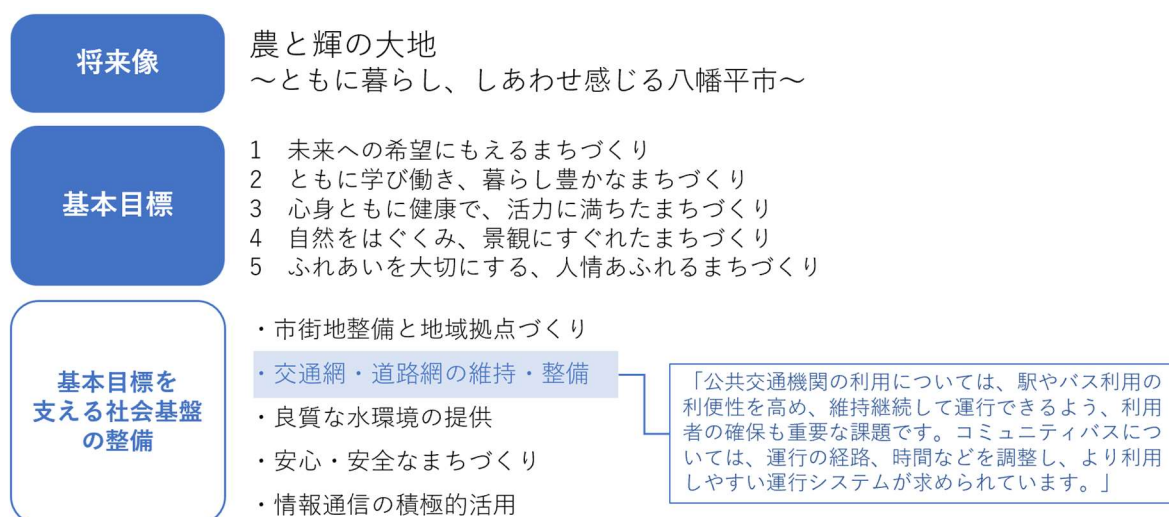
6-1 上位計画・関連計画の整理

(1) 第2次八幡平市総合計画

本計画の上位計画である「第2次八幡平市総合計画」では、本市が目指す将来像「農と輝の大地～とともに暮らし、しあわせ感じる八幡平市～」の実現に向けて、5つの基本目標を掲げている。

公共交通に関しては、「まちづくりの基本目標を支える社会基盤の整備」において「交通網・道路網の維持・整備」として、公共交通利用者の確保やコミュニティバスの利用しやすい運行システムが求められているとされている。また、成果指標と目標値として、公共交通の利用者数が掲げられている。

将来像と基本目標



成果指標と目標値

成果指標項目	参考 (H28)	現状値 (R元)	目標値 (R7)
道路改良率	76.5%	76.4%	76.6%
道路舗装率	65.8%	65.8%	66.0%
西根・松尾地区コミュニティバス年間利用者数	38,027人	30,952人	28,000人
安代地区コミュニティバス年間利用者数	10,496人	8,760人	8,000人
地域内幹線交通年間利用者数 *1	—	2,554人	2,500人
JR花輪線乗車人員*2	344千人	238千人	230千人
広域生活路線バス利用者数	315,062人	284,548人	270,000人

*1 H29.7月から試験運行開始のため、H28はデータなし。

*2 乗車人員が大幅に減少しているのは、R元年度から東大館駅の無人化に伴い人数が計上されなくなったため。

出典：「第2次八幡平市総合計画後期基本計画」

(2) 第4期八幡平市観光振興計画

市は「第2次八幡平市総合計画後期基本計画」に掲げる「おもてなしの観光による交流人口の増加」の実現に向けた実施計画として2022年に「第4期八幡平市観光振興計画」を策定し、豊かな自然を維持しながら観光による経済活性化を力強く促進するとともに、訪れる滞在する人にも暮らす人にも心地よい持続可能なアクティビティ環境の提供に取り組んでいる。

本計画の3つのアクションプランに基づく施策8において「交通アクセスの拡充」が掲げられている。

将来像と計画のテーマ

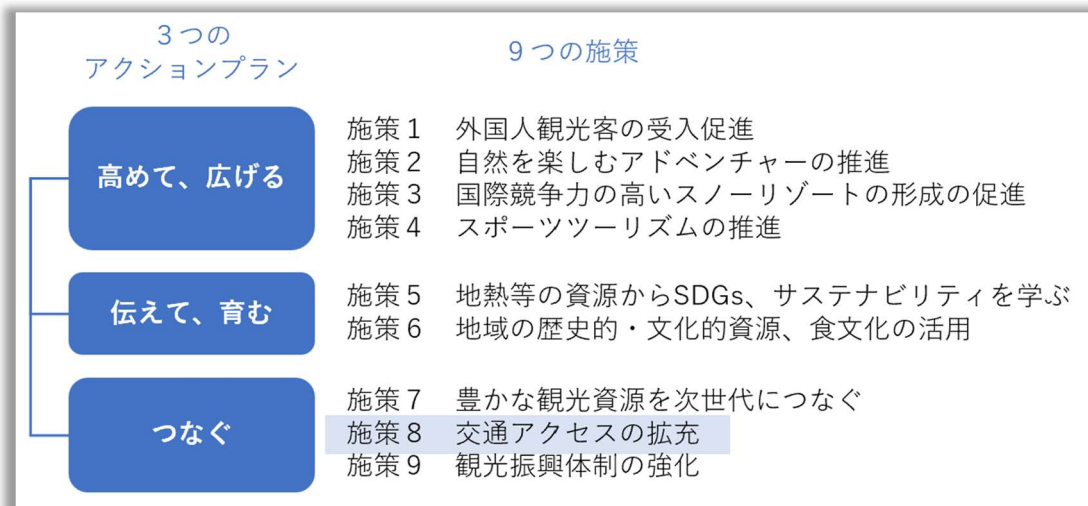
八幡平市観光の将来像(長期的なビジョン)

日本の美しい四季と暮らし ナショナルパーク八幡平

本計画のテーマ

自然を未来につなぐまち Natural Resort 八幡平

アクションプラン



6-2 地域公共交通の課題の整理

八幡平市における地域概況や市民の移動実態とニーズを踏まえ、本計画において対応すべき課題を整理する。

1 鉄道や路線バス、コミュニティバスの利用者は減少し、経営状況は厳しさが増している。

- ✧ 通学や通勤、通院などの生活圏は盛岡方面や鹿角方面、岩手町方面に広がっており、市域を超えた移動ニーズをJR花輪線が担っている。朝夕は特に高校生の通学利用が多く、JR花輪線の大量輸送機関としての特性が必要であり、維持を図る必要がある。
- ✧ 路線バスも利用者の減少により、国や県の補助要件を満たさなくなることが予想されるため、路線の統合等による運行の効率化が必要となっている。
- ✧ コミュニティバスと幹線バスの利用者は減少し、市の負担額は増加している。2022年は合計約1億円の負担額となっている。
- ✧ コミュニティバスの運行経路が長いことや高齢化によりコミュニティバスのバス停まで歩けない利用者も増えていることから、デマンド型運行の導入等により、現在の利用ニーズに合った運行の見直しを行うとともに、運行の効率性も高める必要がある。

2 路線バスやコミュニティバス、タクシーが利用しにくい状況が生じている。

- ✧ 高齢化により、駅やバス停まで歩けない利用者が増えている。
- ✧ 安比高原周辺にはコミュニティバスが運行していない交通空白地となっている。タクシー会社も近くにないため、自動車運転免許がなく、外出に困っている人がいる。そのため、幹線バスの停留所を設けて欲しいというニーズがある。
- ✧ デマンド型運行等の導入により運行エリアを広げ、交通空白地をなくす必要がある。

3 鉄道や路線バスが減便により、通勤や通学に不便が生じている。

- ✧ JR花輪線と県北バス路線の最終便が減便、もしくは早まることにより、高校生の帰りに影響が想定される。まちの活性化のためにも高校生が安心して通学できる環境を構築する必要がある。
- ✧ 盛岡方面との往来では鉄道と路線バスを利用できるため、便数を補完し合える共通乗車券等の総合的な公共交通の利用環境の実現が期待される。

4 商店の閉店などもあり、地区をまたぐ移動ニーズが高まっている。

- ✧ 荒屋新町や柏台など市内の商店が閉店しており、これまでは徒歩や自転車で買い物することができていたが、より遠くまで行く必要が生じている。
- ✧ 福祉施設が運行する買い物ツアーバスを頼りに生活している人がいる。
- ✧ 温泉が定期的な交流の場となっている。
- ✧ 地区をまたぐ市内移動の充実が求められている。

5 運転免許の保有率は高くなっているが、将来の移動手段に不安を感じている人が多い。

- ◇ 現在外出の不便さを感じている人の方が少ないが、将来については 7 割の人が不安を感じている。特に、自動車の免許を手放した後の移動に不安を感じている。
- ◇ 鉄道や路線バスなどの公共交通をほとんど利用していない人が多い。
- ◇ 公共交通の乗り方教室や公共交通を利用したおでかけツアーなど公共交通に気軽に触れる機会を増やす取り組みが重要である。

6 外国人来訪者の増加による移動ニーズへの対応が必要である。

- ◇ 安比高原にはスキー場や全寮制のインターナショナルスクールが立地し、外国人の来訪者の移動ニーズが高まっている。特に富裕層への対応が求められている。
- ◇ 安比高原周辺～八幡平温泉郷～安代地区の観光周遊的な移動や宿泊地から夜の飲食のためにまちなかへの移動など、市内の多様な移動ニーズがある。
- ◇ 外国人来訪者の移動ニーズに対応するためにインターネット等を活用した情報提供だけでなく、決済まで行えるような利用環境の整備が必要である。
- ◇ 外国人来訪者からの関心が高い環境配慮型の移動手段の実現も重要である。

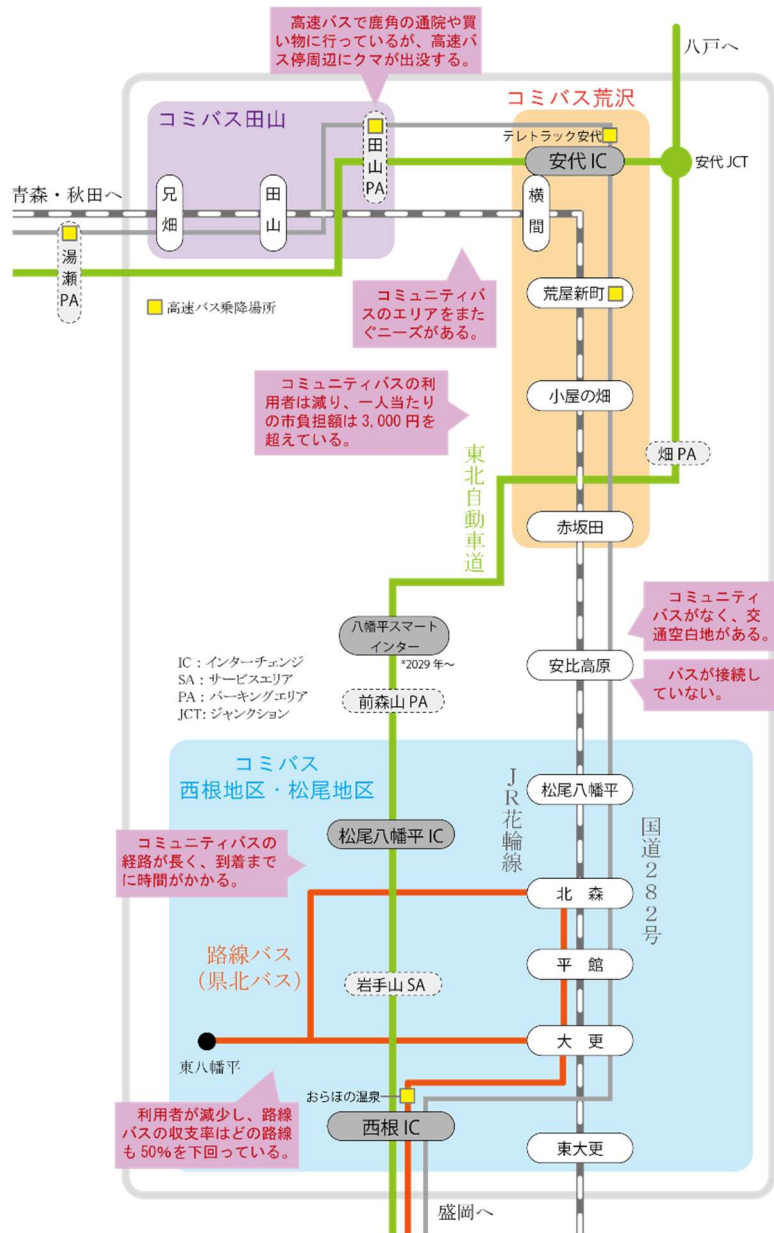


図 八幡平市の公共交通ネットワークと課題

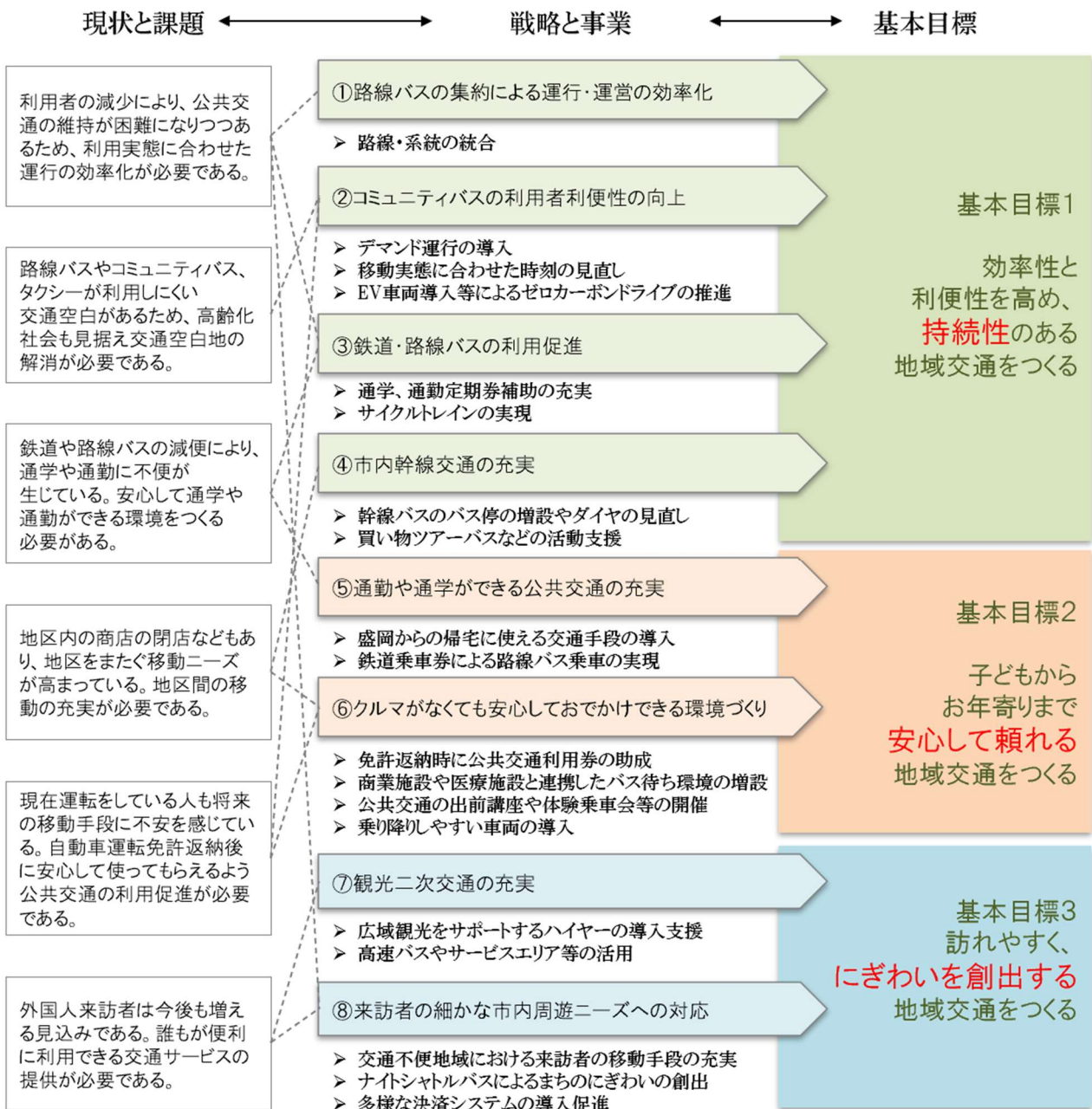
7. 目指す姿と戦略

7-1 基本方針と基本目標

本計画の基本方針は、前計画の「市民も来訪者も“安心して・楽しく”往来できるまちと公共交通ネットワークを実現する」を踏襲しながら、より分かりやすく伝わりやすい方針となるよう以下のよう
に定める。また、3つの基本目標とそれを実現するために8の戦略に取り組むこととする。

>> 基本方針 <<
だれもが安心して往来し、まちのにぎわいをつくる公共交通

>> 基本目標と戦略 <<



7-2 目指す公共交通ネットワークの姿

3つの基本目標の実現によって達成される公共交通の目指す姿は八幡平市内と市外、県外を結ぶ「広域交通」としてJR花輪線と路線バス、高速バスを位置付ける。また市内各地区を結ぶ幹線バスを「市内幹線」として充実を図ることとする。コミュニティバスが担っている地域内を面的にカバーする交通はデマンド型運行を新たに導入し、高齢者も安心して利用できる「エリア交通」を実現する。

ニーズが高まっている外国の来訪者の移動にも対応した「観光交通」も充実を図る。

>> 公共交通ネットワークの目指す姿 <<

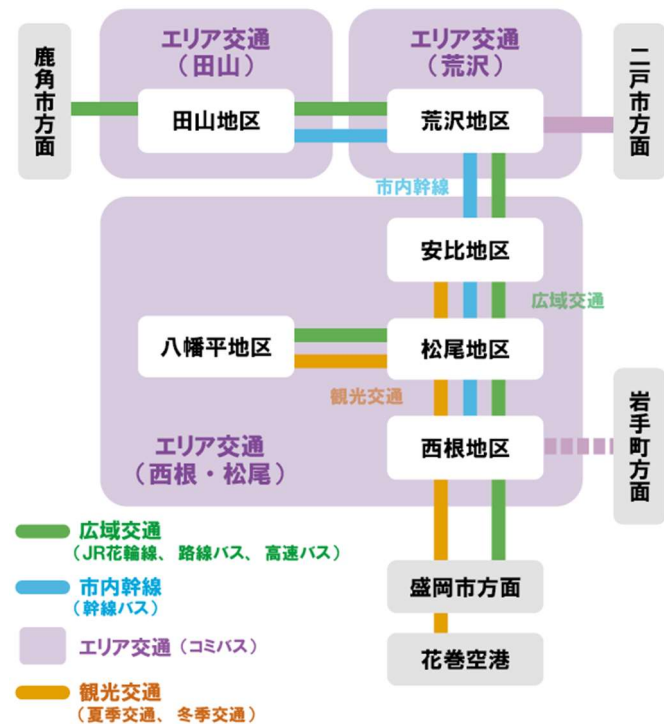


表 7-1 公共交通ネットワークの役割と確保策

分類	役割	交通の種類	確保策
広域交通	市外の都市拠点と市内の拠点を結ぶ広域幹線交通	JR花輪線 各種高速バス	交通事業者と協議しながら他の交通モードとの連携を図り、一定の利便性を確保する。
		乗合バス	地域公共交通確保維持事業（幹線補助 ³ ）を活用し、持続可能な運行を維持する。
市内幹線	大更駅を発着し、市内の各地区や主要施設を結ぶ	幹線バス	交通事業者と連携した取り組みにより、一定以上の需要を確保する。
エリア交通	市内各地区を運行し、広域交通や市内幹線に接続し支線の役割を担う	コミュニティバス	交通事業者と連携した取り組みにより、一定以上の需要を確保する。
		デマンド交通（区域運行）	地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用し、持続可能な運行を維持する。 ※田山地区のデマンド交通については、市と交通事業者と連携し維持する。
観光交通	季節により変動する観光需要に対応し、盛岡駅や花巻空港を発着する観光二次交通	夏季交通 冬季交通	交通事業者や観光事業者と連携した取り組みにより、一定以上の需要を確保する。

³ 地域公共交通確保維持事業（幹線補助）については、「岩手県地域公共交通計画（令和5年3月策定）」と連携して進める。

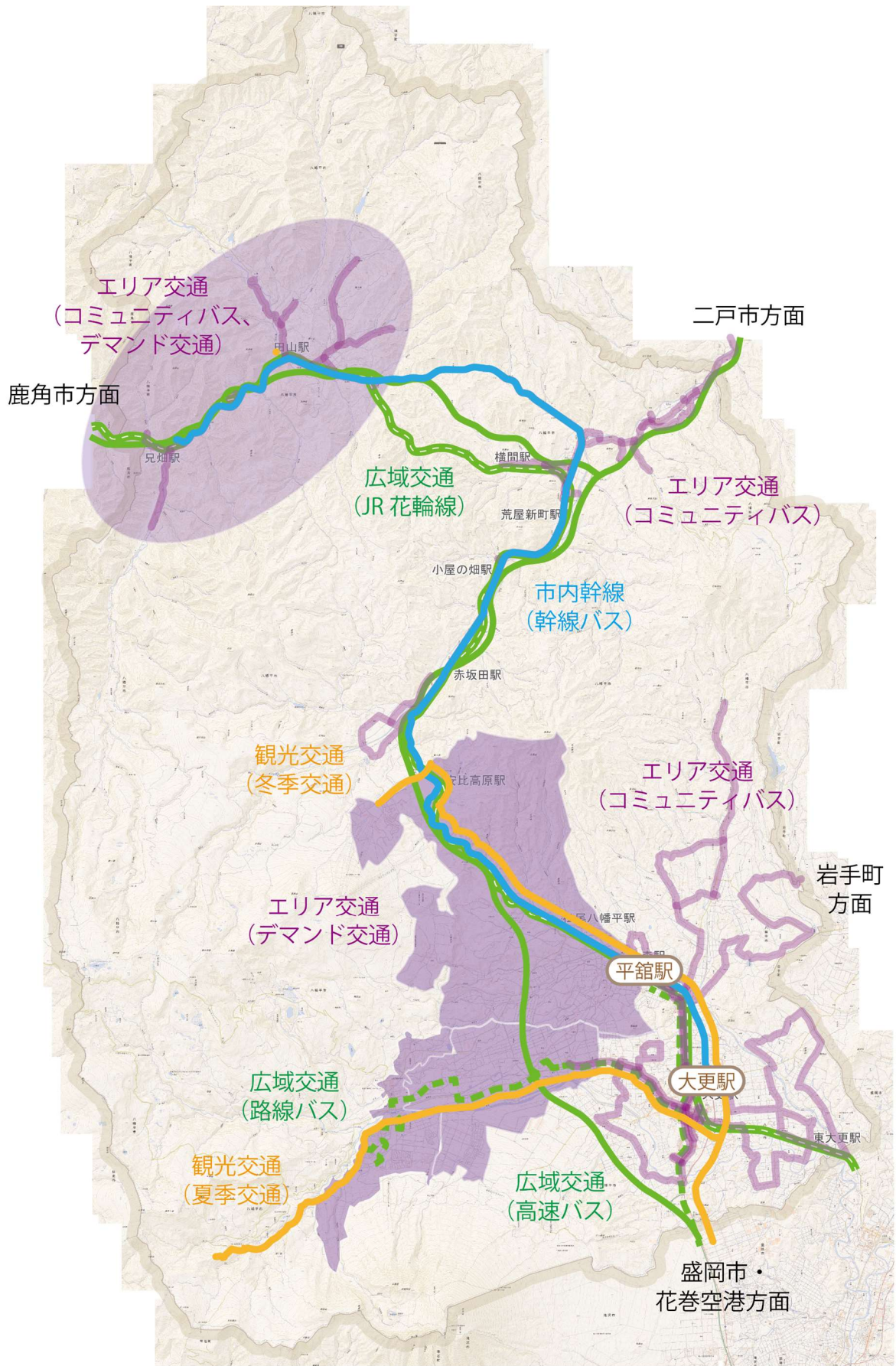


図 7-1 公共交通ネットワークの目指す姿

7-3 数値指標の設定

計画の着実な実施と効果のある取り組みとするために、基本目標に合わせた指標を設定する。指標は、市地域公共交通活性化協議会において公表することとし、数値に基づいた事業の効果的な実施を実現する。

基本目標1 効率性と利便性を高め、持続性のある地域交通をつくる

目 標	2014 年	2022 年実績値	2030 年目標値
①公共交通の維持に係る市の負担額	70,678 千円	99,151 千円	111,300 千円
(幹線バス)	-	7,989 千円	9,400 千円
(コミュニティバス)	70,678 千円	91,162 千円	101,900 千円
②公共交通事業の収支率		3.5%	6.5%
(幹線バス)	-	4.9%	7.4%
(コミュニティバス)	6.5%	3.3%	6.4%
③公共交通の利用者一人当たりの収支差額		3,308 円/人	2,970 円/人
(幹線バス)	-	5,739 円/人	3,734 円/人
(コミュニティバス)	1,331 円/人	3,187 円/人	2,917 円/人

(目標値の意図) バスの利用者数を市の総合計画に基づき設定し、運行に係る費用を運行の効率化によって減少させる一方で、燃料費等の高騰も加味して設定する。

基本目標2 子どもからお年寄りまで安心して頼れる地域交通をつくる。

目 標	2014 年	2022 年実績値	2030 年目標値
④鉄道の利用者数 (1 日平均の乗車人員)	275 人	182 人	250 人
(大更駅)			
⑤バスの利用者数 (年間利用者数)	372,274 人	274,270 人	278,500 人
(路線バス)	319,055 人	244,898 人	240,000 人
(幹線バス)	-	1,392 人	2,500 人
(コミュニティバス)	53,219 人	27,980 人	36,000 人
⑥「外出を不便」と感じない人の割合	60%	54%	70%

(目標値の意図) 鉄道とバスの利用者数は利便性の向上を目指した値とするとともに、市の総合計画に基づき設定する。

基本目標3 訪れやすく、にぎわいを創出する地域交通をつくる。

目 標	2014 年	2022 年実績値	2030 年目標値
⑦観光入込数	2,296 千人回	1,512 千人回	2,400 千人回

注：2014 年度の値は参考値として掲載

(算出方法)

- ①公共交通の維持に係る市の負担額
- ②公共交通事業の収支率
- ③公共交通の利用者一人当たりの市の負担額
- ④鉄道の利用者数
- ⑤バスの利用者数
- ⑥「外出を不便」と感じない人の割合
 - 無作為抽出による市民アンケート調査を行い算出する。
 - 「現在、外出やおでかけを不便と感じるか」という質問に対し、「まったく不便だと感じない」「あまり不便だと感じない」回答割合の合計により求める。
- ⑦観光入込数
 - 市勢要覧資料編から「観光入込数」により毎年算出する。

下記表により算出する。

(2022 年度実績の算出データ)

項目		路線バス	幹線バス	コミバス			合計
				計	西根松尾	安代	
利用者数 (人)	a	244,898	1,392	27,980	21,669	6,311	274,270
運賃収入 (円)	b	84,870,396	415,600	3,074,555	2,400,000	674,555	88,360,551
運行経費 (円)	c	205,052,039	8,404,600	92,234,583	71,920,000	20,314,583	305,691,222
収支差額 (円)	b-c	-120,181,643	-7,989,000	-89,160,028	-69,520,000	-19,640,028	-217,330,671
市の負担額 (円)		0	7,989,000	91,162,000	69,520,000	21,642,000	99,151,000
収支率 (%)	b/c	41.4%	4.9%	3.3%	3.3%	3.3%	28.9%
利用者一人当たり 収支差額 (円/人)	(b-c)/a	491	5,739	3,187	3,208	3,112	792

注：路線バスについては2022年10月～2023年9月の実績。

7-4 戦略と事業

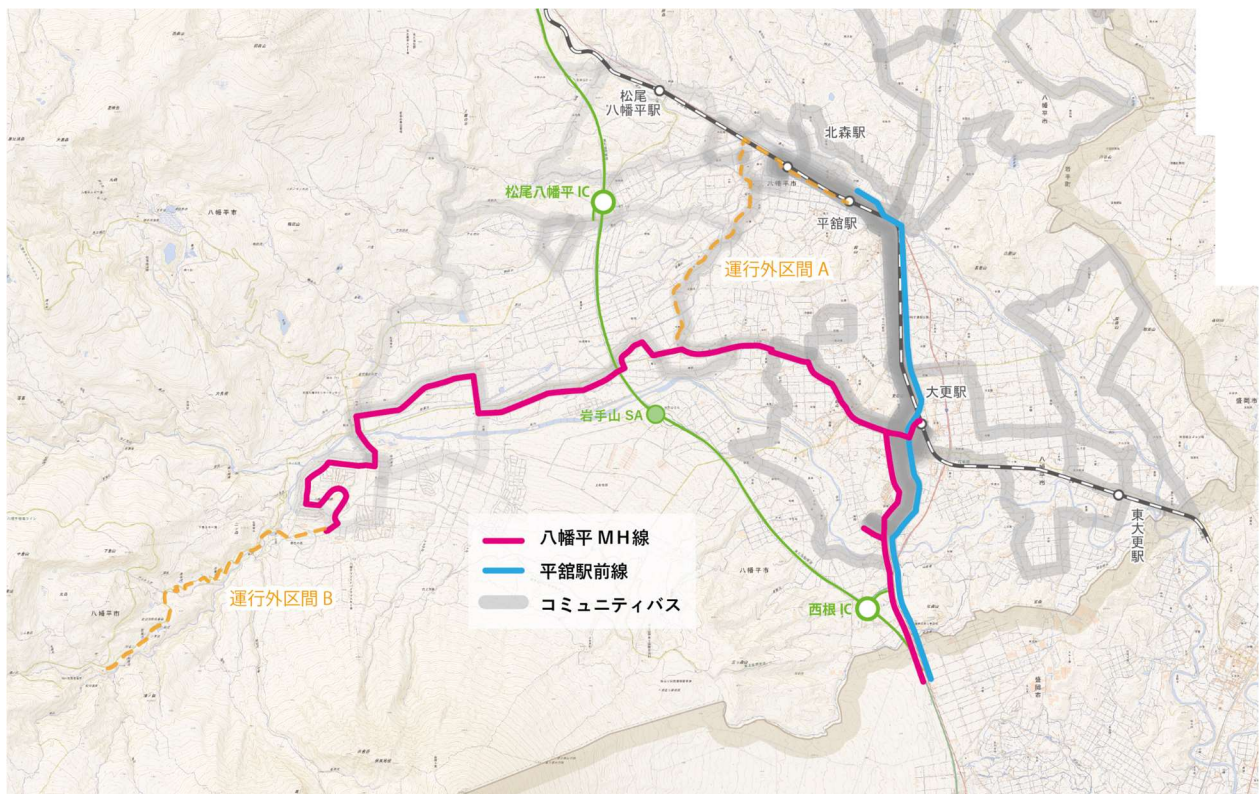
8つの戦略において取り組む事業の概要とスケジュールを示す。

基本目標 1 効率性と利便性を高め、持続性のある地域交通をつくる

戦略① 路線バスの集約による運行・運営の効率化

■取り組み内容						
1) 現在 5 路線運行されている路線バスを 2 路線（八幡平マウンテンホテル線と平舘駅前線）に再編し、輸送量を確保することで地域間幹線系統として国や県の支援を受けながら将来的に安定した運行の維持を実現する。						
2) 再編によって運行外となる区間 A については、コミュニティバス（デマンド運行）で対応する。（→戦略②へ）						
3) 再編によって運行外となる区間 B については、観光事業者等関係者の連携により来訪者のニーズに対応した移動方法を創出する。（→戦略⑧へ）						
* 将来的に安定的に路線バスを維持していくために、地域間幹線系統補助を活用するとともに沿線自治体と連携して効率化と活性化に取り組む。						
■実施主体・応援主体						
岩手県北自動車、八幡平市						
■スケジュール						
2024	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年	2029 年	2030 年
再編検討	新路線へ移行	→				

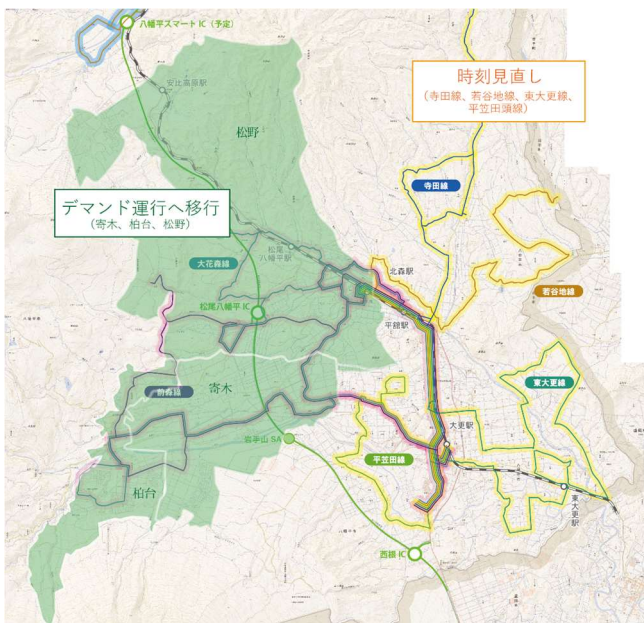
【再編路線と運行外区間】



戦略② コミュニティバスの利用者利便性の向上

■取り組み内容						
1) 松尾地区…前森路線、大花森路線はデマンド運行への移行を検討する。また、運行範囲も見直し、交通空白地の解消を図る。						
2) 西根地区（寺田路線、若谷地路線、東大更路線、平笠田頭路線）…移動ニーズに対応し、運行時刻を見直す。利用状況に応じてデマンド運行への移行も検討していく。						
3) 安代地区（田山路線、荒沢路線）…受付と配車システムの導入を検討するとともに車両台数の補充を検討し、デマンド運行の充実を図る。						
4) 車両の更新に合わせて電気自動車の導入によりゼロカーボンドライブを実現するとともに、乗り降りしやすい車両の導入を進める。						
5) 利便性の向上に合わせて運賃の見直しを検討し、運行の効率性を高める。						
*コミュニティバスのデマンド運行の持続的な維持については、自治体や事業者の運営努力だけでは難しく、生活に不可欠な路線として国庫補助「地域内フィーダー系統補助事業」を活用する。						
*なお、中学校の統廃合に合わせて、生徒の通学にコミュニティバスの活用を積極的検討し、運行の効率化を図ることとする。						
■実施主体・応援主体						
八幡平市、タクシー事業者、岩手県北自動車、市民						
■スケジュール						
2024	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
松尾地区: デマンド運行導入検討	松尾地区: デマンド運行導入	→				
西根地区:ダイヤ見直しの検討	西根地区: ダイヤ見直し	→				
	安代地区: 受付配車システム導入 検討	安代地区: 受付配車システム 導入	→			

【松尾地区と西根地区の見直し案】



(デマンド運行の概要)

運行形態：区域運行（4条乗合）

運行範囲：松尾地区内

事業主体：交通事業者

補助事業：フィーダー補助（新規要件）

【安代地区の見直し案】



戦略③ 鉄道、路線バスの利用促進

■取り組み内容						
1) 通学定期券購入費補助金を継続する。						
2) サイクルトレインの実現とサイクリングロードとの連携を進める。…自転車を折りたたまず利用できる方法を導入する。周辺市町村連携や他の交通モードとの連携も進め、岩手県広域サイクリングロード（案）を促進する。						
3) 市民のマイレール・マイバス意識の醸成を図る。						
■実施主体・応援主体						
JR 東日本、花輪線利用促進協議会、八幡平市、八幡平DMO						
■スケジュール						
2024	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
通学定期券補助の継続	→					
サイクルトレインの検討と実証	サイクルトレインの検討と実証	サイクルトレインの本格運用	→			

【参考：JR 西日本きのくに線の「サイクルトレイン」】

予約不要



追加料金不要

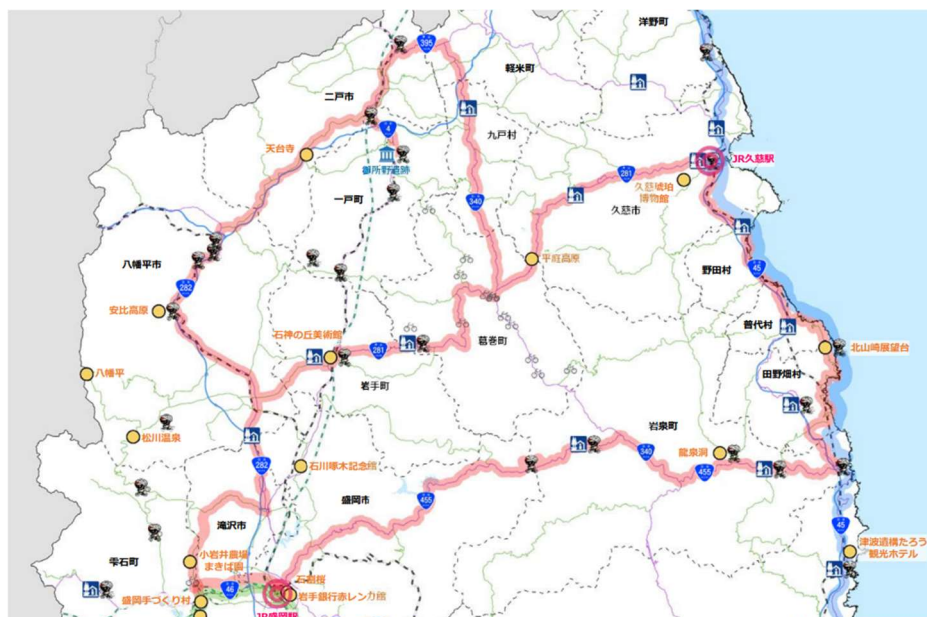


自転車そのまま



資料：JR 西日本「JR おでかけネット」

【岩手県広域サイクリングロード（案）】



資料：岩手県広域サイクリングルート検討会議資料（2023年12月）

戦略④ 幹線バス等市内幹線の充実

■取り組み内容						
1) 利用状況やニーズに応じて、幹線バスの経路の見直しやバス停の増設に取り組む。						
2) 利用状況やニーズに応じて、幹線バスのダイヤ見直しに取り組む。						
3) 福祉団体など多様な主体による買い物ツアーなどの活動を支援する。						
■実施主体・応援主体						
八幡平市、岩手県北自動車、社会福祉法人、企業団体、自治会等						
■スケジュール						
2024	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
幹線バスの経路、バス停増設検討	幹線バスの経路、バス停増設	→				
幹線バスのダイヤ見直し検討	幹線バスのダイヤ見直し	→				
	各主体の調整等	買い物ツアーバス等の運行支援	→			

【参考事例：名取市買い物機能強化等支援事業】

名取市では、区域内にスーパー等がなく、食料品や日用品等の買い物に困難を抱える市民を支援することで、地域の買い物機能の強化及び拡充を図り、安心して生活できる生活環境の提供及び高齢者等の外出促進を目的として、民間事業者が行う事業提案を募集し、支援を行っている。

■提案による実現事業1

12月1日 金曜日より名取市にていよいよ販売開始!

welcia ネットワークでお店とつながる
ウェルシアの移動販売

各種モバイル決済・クレジットカード・電子マネー使えます

au PAY | LINE Pay | PayPay | FamiPay | Allpay+

クレジットカード | VISA | JCB | 電子マネー

公共料金・各種料金お支払いいただけます!

オンラインで健康栄養相談・美容相談できます。

※医薬品・お酒の購入については事前にウェルシア名取増田店へお問い合わせください。

■提案による実現事業2

イトーチェーン
ゆりあげ食彩館に行こう!

無料お買い物バスを運行します!

仙台市四郎丸・袋原コースの停車場所追加!
さらにご利用しやすくなりました!

毎週 火曜・木曜・土曜日の3日運行

停車場所追加! 時刻表は裏面をご覧ください。

ゆりあげ食彩館①: 仙台市四郎丸・袋原コース
ゆりあげ食彩館②: 名取市高柳・下余田・上余田・大曲・牛野コース

- ・お買い物バス専用のバス停はありません。
- ・バスが来たら、手を挙げてご乗車ください。
- ・時刻表は、当該地点の通過予定時刻です。
- ・都合により、運休・運行時刻の変更などが生じる場合があります。
- ・小学生以下は保護者同伴でなければ乗車できません。
- ・満車の場合は通過させていただきます。

お問合せは…
●伊藤チェーン本部 ☎0224-58-7171 あさ9時00分～よる17時00分

LINEお友だち募集中!
お買い物情報やお友だち限定のクーポンを配信しております!
QRコードから登録ができます!

アークス RARA カート 会員様募集中!
来店でお支払いでポイントが貯まりやすい!

資料:名取市公式ホームページより

基本目標 2 子どもからお年寄りまで安心して頼れる地域交通をつくる

戦略⑤ 通勤や通学ができる公共交通の充実

■取り組み内容						
1) 終電、終バス後の IGR好摩駅からの帰宅便の運行等により、盛岡からの帰宅に使える交通手段を確保する。						
2) 鉄道乗車券による路線バス利用を可能とすることで、公共交通で外出できる頻度を高める。						
■実施主体・応援主体						
八幡平市、PTA、JR東日本、岩手県北自動車						
■スケジュール						
2024	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
	検討	IGR好摩駅からの 帰宅便の運行	→			
		検討	鉄道乗車券による 路線バス利用	→		

【参考事例：JR越美北線の定期券で京福バスに乗れる取り組み】

(ねらい) 福井駅と越前大野駅間では約1時間に1本、鉄道とバスが互いのダイヤを補うように運行しており、相互に利用すればダイヤの選択肢が増え、利用しやすくなります。このため、JR越美北線と京福バス大野線を組み合わせて利用できるよう、JR越美北線の定期券をお持ちの方が京福バス大野線にお安く乗れる割引利用券を発行します。これにより、特に鉄道が運行していない17時台、22時台でもバスがお得に利用できるようになるため、利便性向上により、鉄道とバス双方の利用増を目指します。

JR越美北線の定期券をお持ちの方対象

**京福バス大野線を
乗車できる
割引利用券を発行します！**



概要 JR越美北線の定期券をお持ちの方を対象に、京福バス大野線の福井駅から以下の降車停留所までの区間をお得に利用できる割引利用券を発行します。

乗車停留所	降車停留所
福井駅	高田橋、美山田尻、市波、奈良瀬、大久保、小和清水、上新橋、品ヶ瀬、美山駅境寺、間戸口、薬師、上薬師、仁位口、縫原、大宮、追分口、野波口、計石第2、川上計石、川上口、下丁、犬山、坂戸、花山、ニチコン前、中丁、大橋、美濃街道中野水落、大野三番、大野銀座、大野六間、寺町口、越前大野駅

運賃 普通運賃(おとな)710円～1,040円 → 割引運賃(おとな)

400円

(最大640円割引!)

利用方法 ①発行窓口にて、JR越美北線の定期券を提示の上、割引利用券を受領(5枚/回)
②バス降車時にJR越美北線の定期券を提示のうえ、整理券、割引利用券および割引運賃(400円)を運賃箱に入れて精算してください。

資料：福井県の公式ホームページ

戦略⑥ クルマがなくても安心しておでかけできる環境づくり

■取り組み内容						
1) 免許返納時に公共交通利用券を助成する制度を継続する。						
2) (仮称) 大更駅前顔づくり施設にバス待ち環境を整備する。						
3) 商業施設や医療施設と連携し、バス待ち環境の整備を進める。						
4) 公共交通の出前講座や体験乗車会等を積極的に開催する。						
5) ユニバーサルデザイン (UD) タクシーなど乗り降りしやすい車両の導入を進める。						
■実施主体・応援主体						
八幡平市、商業施設、医療機関、自治会等、タクシー事業者						
■スケジュール						
2024	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
返納者への公共交通利用券の助成継続	→					
	駅前にバス待ち環境整備	→				
	支援メニューの検討	バス待ち環境整備促進事業の実施	→			
出前講座や体験乗車会の開催	→					

【(仮称) 大更駅前顔づくり施設】

1階には観光案内、移住定住センター、2階に子ども向けの遊具を備えた屋根付き公園を配し、3階には図書館が配置される予定である。(2025年秋完成予定)



資料：八幡平市広報 (2023.3、No.333)

【事例：熊本市「バス待ち処」支援促進事業】

熊本市では商業施設と連携し「バス待ち処」を設置している。「バス待ち処」とは、バス停に隣接したスーパーやコンビニなどにイートインスペースなどを活用した待合所やトイレの提供を行う。対象となる店舗やバス停には、目印となるステッカーを設置している。



協力店舗

スーパー	5店舗
コンビニ	53店舗

資料：熊本市公式ホームページ

基本目標3 訪れやすく、にぎわいを創出する地域交通をつくる

戦略⑦ 観光二次交通の充実

■取り組み内容						
1) 広域観光に対応したハイヤー車両の確保等を支援する。						
2) 高速バスやサービスエリアを活用した交通ネットワーク構築等インバウンドを含めた新たな観光客への既存の交通ネットワークの利用を促進する。						
■実施主体・応援主体						
八幡平市、交通事業者						
■スケジュール						
2024	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
広域観光ハイヤーの導入	→					
サービスエリア活用の検討	→					

戦略⑧ 来訪者の市内周遊ニーズへの細やかな対応

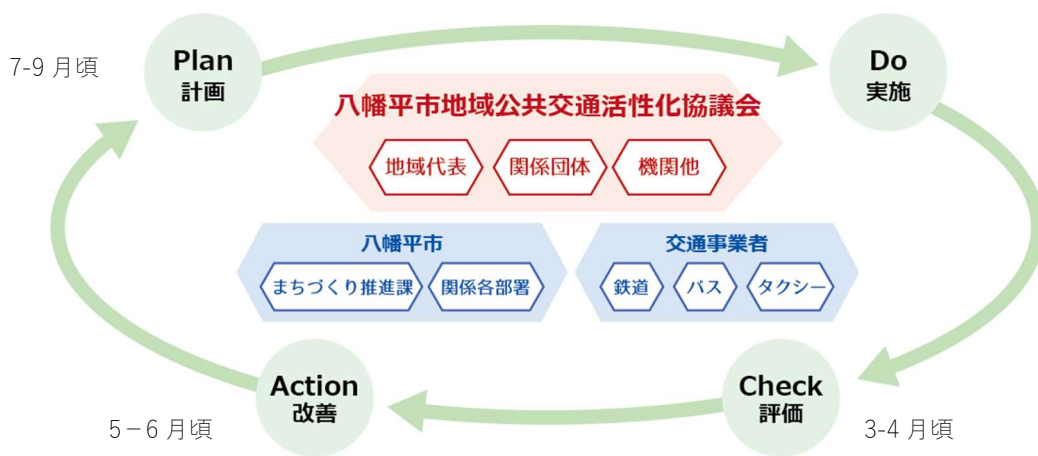
■取り組み内容						
1) 安比高原周辺や松川温泉周辺等の交通不便地域における来訪者の移動手段の充実を図る。						
2) ナイトシャトルバス等まちのにぎわいを創出する交通手段の充実を図る。						
3) 多様な決済システムの導入を促進する。						
■実施主体・応援主体						
八幡平市、観光事業者、八幡平DMO						
■スケジュール						
2024	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
自家用有償運送の継続（安比高原）	→					
多様な交通手段による維持の検討	移動手段の維持（松川温泉）	→				
	ナイトシャトルバスの実証運行の検討	ナイトシャトルバス実証運行	→			

8. 計画の推進

本計画は、行政、市民代表、交通事業者、道路管理者、交通管理者、学識経験者、関係団体などで構成する「八幡平市地域公共交通活性化協議会」において、1年間を原則としPDCAサイクルに則って実施する。推進にあたっては、協議会事務局（八幡平市まちづくり推進課）が中心となり多様な関係と連携を図って取り組みを実施する。

なお、本計画に位置付けられた取り組みを推進することが住民の生活の質の向上やSDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）のゴール達成に寄与するという考えのもと、SDGsの理念を踏まえて計画を推進していく。特に関連が深いゴールとして以下の6つを挙げる。

【計画の推進体制】



【SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標と本計画で重視する6つの目標】



八幡平市地域公共交通計画

発行年月 令和6(2024)年3月

編集・発行 八幡平市、八幡平市地域公共交通活性化協議会
〒028-7397 岩手県八幡平市野駄第21地割170番地

TEL : 0195-74-2111

FAX : 0195-74-2102

<https://www.city.hachimantai.lg.jp>